

LAS-1URAxN/H
LAS-RAxxV シリーズ
LAS-MRxxV シリーズ
LHD-NASxxV シリーズ

ネットワーク ストレージ システム

ソフトウェア マニュアル

Logitec

目次

はじめに	4
ソフトウェアについて	4
本製品の使用環境に関する注意事項	7
第1章 設定について	8
設定のステップ	9
ステップ1：付属ソフトウェアのインストール	10
Windows 環境の場合	10
Macintosh 環境の場合	13
ステップ2：IP アドレスの設定	14
IP アドレスの設定：Windows 環境の場合	14
IP アドレスの設定：Macintosh 環境の場合	17
ステップ3 クイックセットアップ	21
補足事項：設定がうまく行かない場合は... ..	28
ステップ4： クライアントコンピュータからのアクセス	29
Windows XP からのアクセス（SMB 共有）	29
Windows Me, 2000 からのアクセス（SMB 共有）	30
Windows 98, NT 4.0 からのアクセス（SMB 共有）	31
MacOS からのアクセス（AppleTalk 共有）	32
Linux からアクセスする場合	33
第2章 NAS の詳しい設定	34
ストレージマネージャの起動とログイン	36
基本設定	37
システム管理者のパスワードの変更	37
サーバ名の変更	38
ネットワーク設定（DNS サーバ、ドメイン（TCP/IP））	39
IP アドレスの設定（LAN ポート1）	40
IP アドレスの設定（LAN ポート2、LAN ポート3）	41
日付の設定	45
言語の設定	47
通知用メールアドレスの設定	48
詳細設定	50
ユーザーアカウントの作成	50
ユーザーアカウントの削除	53
ユーザーアカウントの変更	54
グループ設定	55
グループ設定：新規グループの作成	55
グループ設定：グループメンバーの追加と削除	57
グループ設定：グループの削除	59
グループ設定：グループ名の変更	60
グループ設定：補足事項	61

共有フォルダの作成	62
新規共有フォルダの作成	62
共有フォルダの削除	64
共有フォルダの修正	65
共有フォルダへのアクセス制限の設定方法	67
Windows/Macintosh クライアントからのアクセス制限	67
Linux クライアントからのアクセス制限	71
Linux クライアントのアクセス権限の削除	74
Linux クライアントのアクセス権限の変更	75
アクセスコントロールリスト (ACL) 設定について	76
ワークグループの設定	78
Windows ドメインへの参加	79
UNIX/Linux ネットワークの設定	82
Apple ネットワークの設定	84
インターネットネットワークの設定	85
ボリューム管理	87
ボリューム設定	87
ボリュームの再作成	91
ボリュームの修復	92
ボリューム配置	92
キャッシュ設定	93
ホームフォルダの設定	94
ディスク割当の設定	96
セキュリティオプション	99
LED/ アラーム管理	101
UPS 管理	102
SNMP 環境設定	107
工場出荷時への戻し方	110
シャットダウン / 再起動	112
ファイルブラウザ	113
システムの更新	113
サーバ情報の確認	114

第3章 バックアップ	115
NAS のデータおよび設定のバックアップ	115
1. テープバックアップによるバックアップ手順	115
バックアップ手順	115
増分バックアップについて	120
テープデバイスからのリストア	121
2. LogitecNAS Backup によるバックアップ手順	123
通常のバックアップ手順	123
スケジュールでのバックアップ手順	129
LogitecNAS Backup からのリストア	133
クライアントパソコンのデータのバックアップとリストアについて ...	139
LogitecNAS Client Backup の使用環境	140
クライアントデータを NAS にバックアップ	141
コンピュータのファイルとフォルダをモニタする	145
変更されたデータのみバックアップ	146
ファイルにフィルタをかける	147
NAS から Windows クライアントにファイルを復元	148
タグ管理	150
プリファレンス	152
他社製バックアップソフト (Rtrospect) を使用した NAS のデータのバックアップ方法	154
付録	157
付録 1 : RAID とは	157
付録 2 : トラブルシューティング	160
付録 3 : 電子メール通知一覧	174
付録 4 : 本製品のデフォルト値	190
付録 5 : 用語集	192
付録 6 : 設定制限表	200
付録 7 : LogitecNAS Backup バックアップ項目一覧	201
付録 8 : LogitecNAS Backup 復元 (リストア) 項目一覧	202

はじめに

本ソフトウェアマニュアルではロジテックネットワークストレージシステムの各種設定・制限事項などについてご説明します。

ソフトウェアについて

本製品は以下のソフトウェアを使用して設定を行います。

「LogitecNAS Assistant」(Windows 版)

Windows 版には、LAN 上の同一セグメントに接続された NAS の検索と設定を行うための LogitecNAS Finder と、NAS のバックアップを行う LogitecNAS Backup が含まれています。

LogitecNAS Finder は、システム管理者が NAS の検索と IP アドレスなどの設定を行う際に使用します。

LogitecNAS Backup はシステム管理者が使用し、データのバックアップおよび、データのリストアを行うことができます。

LogitecNAS Backup は以下の情報をバックアップすることができます。

- ・システム情報
- ・ユーザアカウントとグループ
- ・ユーザアカウントとグループ、データ
- ・システム情報、ユーザアカウントとグループおよび、データ

LogitecNAS Assistant 対応 OS

Windows XP Home Edition/Professional Edition

Windows Me

Windows 98(Second Edition 含む)

Windows 2000 Professional SP1 以降

Windows NT 4.0 Workstation SP6 以降



この項目は次ページへ続きます。

ソフトウェアについて

「LogitecNAS Assistant」(Macintosh版)

Macintosh版にはLAN上に接続されたNASの検索と設定を行うための機能が搭載されています。

LogitecNAS Assistantは、システム管理者がNASの検索とIPアドレスなどの設定を行う際に使用します。

LogitecNASAssistant 対応 OS

Mac OS 9.0.4 ~ Mac OS 9.2.2 まで

Mac OS X 10.0.4 以降



「ストレージマネージャ」

Internet Explorer上で動作し、本製品の管理・運用にかかわる設定を行います。管理者以外のユーザーも自分の登録情報を変更することができます。

「LogitecNAS Assistant」での設定が終わると自動的に起動します。このソフトウェアは本製品内に初めからインストールされており、Internet Explorer上で本製品にアクセスすることにより起動し、本製品の管理を行います。

対応ブラウザ

Internet Explorer 5.0 以上

LogitecNAS Series

- ▶ ストレージマネージャ
- ▶ サーバ情報
- ▶ ネットワーク設定
- ▶ セキュリティ設定
- ▶ ネットワーク設定
- ▶ ユーザー管理
- ▶ ツールキット
- ▶ オンラインブラウザ
- ▶ ヘルプ

▶ LogitecNAS サーバ情報

全般	設定	ステータス	システムログ	ログの記録	実行権/商標について
システムのバージョン					
2.0.8 - 1.0045					
リリース日:	Thu Aug 7 02:18:33 CST 2003				
システム提供会社: Logitec Corp.					
MACアドレス:	00:60:40:00:44:0b, 00:60:40:00:44:0b, 00:60:40:02:43:44				

NETWORK ATTACHED STORAGE

ヒント

このページは、バージョンアップ情報やダウンロード情報が集約して表示されます。

右側のメニューで設定グループを閲覧できます。

「Logitec NAS Client Backup」

Logitec NAS Client Backup ツールでは、クライアントパソコンのデータをフォルダ単位で NAS サーバにバックアップするためのツールです。

Logitec NAS Client Backup ツールでは以下の内容についてバックアップを行うことができます。

- ・ 指定したフォルダ内容のリアルタイムバックアップ
- ・ 指定したフォルダ内容の手動バックアップ
- ・ バックアップファイルの圧縮化
- ・ バックアップファイルのパスワード付きの暗号化
- ・ バックアップファイルの世代管理（最大 20 世代まで）

対応 OS

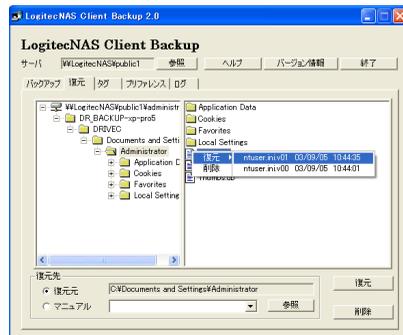
Windows XP Home Edition/Professional

Windows Me

Windows 98（Second Edition 含む）

Windows 2000 Professional SP1 以降

Windows NT 4.0 Workstation SP6 以降



本製品の使用環境に関する注意事項

全般

- ・対応OS以外を搭載したクライアントパソコンでの使用は未サポートです。
- ・100BASE-TX以上のスイッチングハブに接続してご利用ください。
- ・本製品を常時起動させる場合は、不意の停電などに備え、UPSなどをご利用ください。
- ・本製品とクライアントパソコンを結ぶネットワークの中にインターネットや電話回線、ファイアウォールを介する環境での使用は未サポートです。

ファイル共有に関して

- ・異なるOSの間でファイル共有をする場合はファイル名などの環境をOS制限の一番厳しい環境に合わせてご利用ください。
「付録6：設定制限表」を参照

管理画面（ストレージマネージャ）に関して

- ・対応 Web ブラウザ以外での操作は未サポートです。
- ・本製品とクライアントパソコンを結ぶネットワークの中にインターネットや電話回線、ファイアウォールを介する環境での使用は未サポートです。
- ・本製品とクライアントパソコンを結ぶネットワークの中にWebを通過させないルータ等の中継機器を介する環境では使用できません。

第1章 設定について

設定の前に...

設定を行う前に、以下の手順で本製品の接続を行ってください。

ハードウェアマニュアルを参照の上、電源ケーブルおよびLANケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

電源コードを接続して本製品の電源を ON にします。

設定のステップ

本製品を正しく使用するために、システムを管理する方が以下のステップで設定を行ってください。

ステップ1 付属ソフトウェアのインストール

本製品を設定するのに必要なソフトウェアをCD-ROMからインストールします。

1

ステップ2 IPアドレスの設定

インストールしたソフトウェア「LogitechNAS Assistant」を起動してシステム管理者のパソコンから本製品のネットワーク上のアドレスを特定し、本製品の設定画面へアクセスします。

ステップ3 クイックセットアップ

管理者のパスワード等、基本的な設定を行い、クライアントコンピュータからアクセスができるようにします。

ステップ4 クライアントコンピュータからのアクセス方法

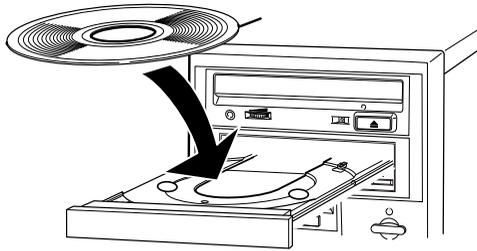
設定が行われアクセス可能となったNASへアクセスする方法を各OSごとに説明します。

ステップ1 付属ソフトウェアのインストール

まずは本製品を設定するのに必要なソフトウェアをCD-ROMからインストールします。

Windows 環境の場合

「本サポートディスク」をCD-ROMドライブにセットします。



セットアップランチャーが起動し以下の画面が表示されます。本製品のアイコンを選択し「セットアップの起動」ボタンをクリックしてください。



1. アイコンをクリックします

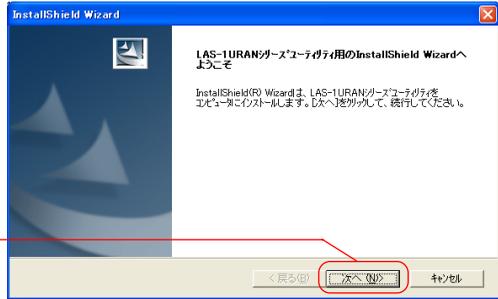
2. 「セットアップの起動 (E)」をクリックします

ステップ1：付属ソフトウェアのインストール

Windows 環境の場合

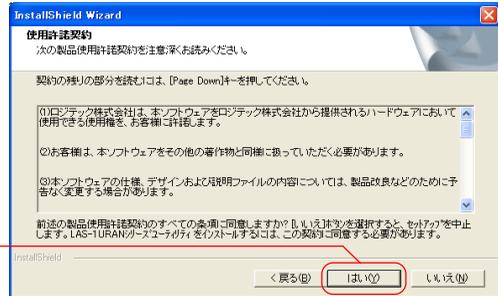
セットアップウィザードが起動します。「次へ」をクリックしてください。

「次へ」をクリック



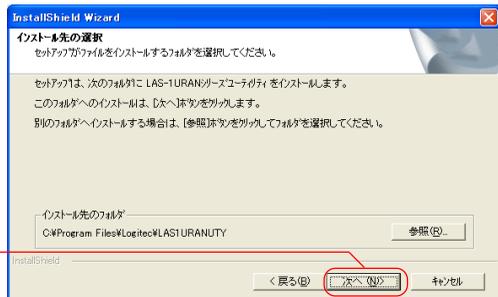
以下の画面が表示されます。使用許諾契約をよく読み、同意する場合は「はい」を押して次に進みます。

同意する場合は、
「はい」をクリック



インストール先のフォルダを指定するウィンドウが表示されます。特に問題がない場合はそのまま「次へ」クリックします。

「次へ」をクリック



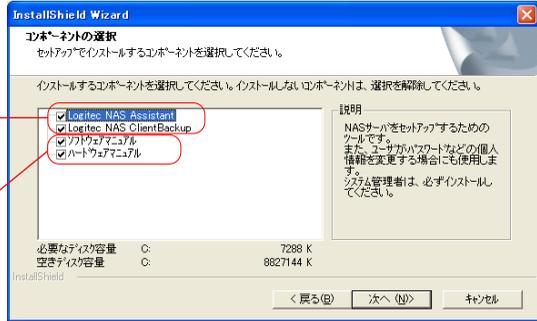
ステップ1：付属ソフトウェアのインストール

Windows 環境の場合

インストールするコンポーネントを選択するウィンドウが表示されます。左側のチェックボックスにチェックを入れて「次へ」ボタンをクリックします。

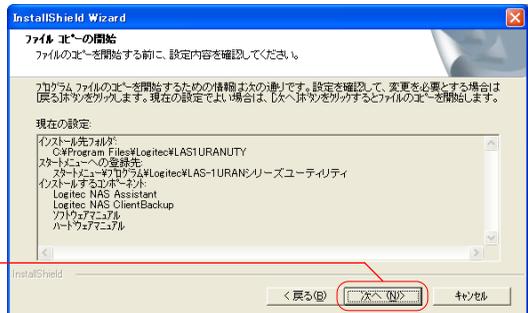
ソフトウェア類は必ずインストール

マニュアル類は必要に応じてインストール



設定内容を確認するウィンドウが表示されます。内容を確認して「次へ」をクリックしてください。

「次へ」をクリック



必要なファイルがシステムに転送され、終了すると以下の画面が表示されます。「完了」ボタンをクリックしてください。

「完了」をクリック



以上でインストールは終了です。

Macintosh 環境の場合

「Logitech NAS サポートディスク」を CD-ROM ドライブにセットします。次のアイコンがデスクトップにマウントされるので、ダブルクリックして開いてください。



LogitechNASサポートディスク

CD-ROM 内のフォルダの中で、ご使用のパソコンに搭載されている OS に合わせて [Mac OS 9.x] または [Mac OS X] フォルダをデスクトップ上にコピーします。

ご使用の OS に対応するフォルダをデスクトップ上にコピーします。



以上でインストールは終了です。

ステップ2 IPアドレスの設定

(全シリーズ共通)

ステップ2では以下の2つの設定を行います。

「IPアドレスの設定」

インストールしたソフトウェア「LogitecNAS Assistant」を起動してパソコンから本製品のネットワーク上のIPアドレスを設定します。

「クイックセットアップ」

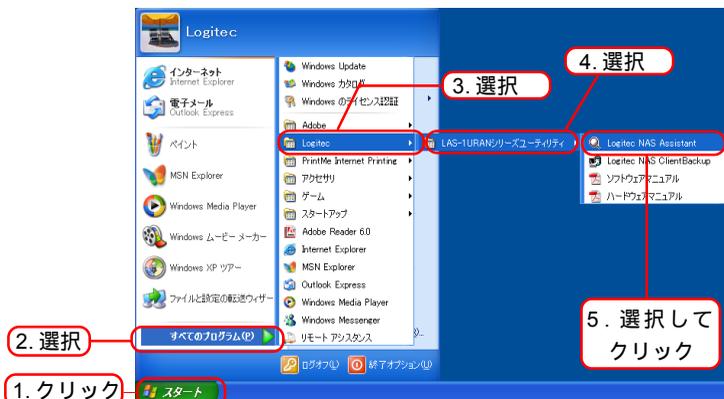
自動的に「ストレージマネージャ」が起動し、「クイックセットアップ」画面に切り替わります。ここで管理者のパスワード等、基本的な設定を行います。

の設定はWindowsとMacintoshで異なります。該当するOSの部分をお読みいただき、「クイックセットアップ」へお進みください。

IPアドレスの設定：Windows環境の場合

[スタート] ボタンから [プログラム] (Windows XPの場合は「すべてのプログラム」) を選択し、[Logitec] - [*** シリーズユーティリティ] から、[Logitec NAS Assistant] を選択してください。

[***シリーズ]の[***]の部分には本製品のシリーズ名が入ります。



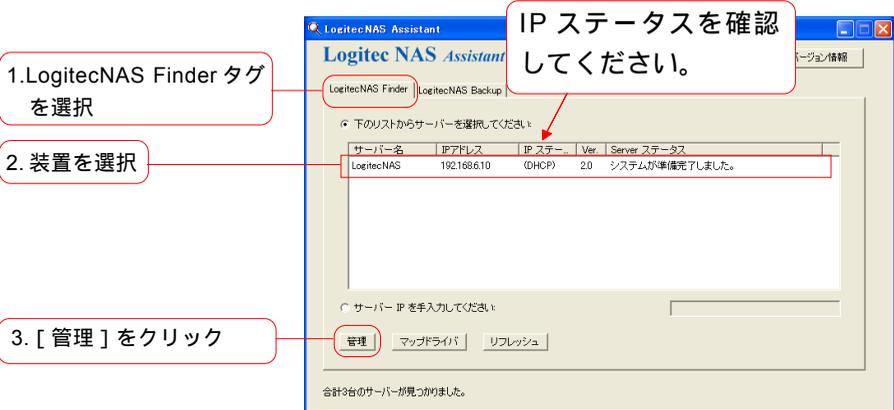
選択画面 (Windows XP の例)

ステップ2 IP アドレスの設定

IP アドレスの設定 : Windows 環境の場合



選択画面 (Windows 2000 の例)



LogitecNAS Finder タグを選択してください。

LAN上で動作している Logitec NAS シリーズが表示されます。設定する装置を選択して、[管理] ボタンをクリックします。

・この時、IP ステータスの項目に (DHCP) と表示されている場合は、自動的に IP アドレスなどが設定されますので「クイックセットアップ」へお進みください。

・IP ステータスが (Unknown) と表示されている場合は、次の「IP ステータスが Unknown の場合」を参照してください。

- ❗ サーバ名の欄には出荷時設定では「LogitecNAS」と表示されます。複数の LogitecNAS シリーズを導入される場合、必ずサーバ名を変更してください。サーバ名が重複すると正常に動作しない可能性があります。サーバ名の変更は「クイックセットアップ」で行えます。

ステップ2：IPアドレスの設定

IPアドレスの設定：Windows 環境の場合

IP ステータスが (Unknown) の場合 (Windows)

LAN上にDHCPサーバがない場合などはIPステータスの欄に(Unknown)と表示されます。この時に [管理] ボタンを押すと次のようなネットワーク環境設定画面が表示されます。以下の手順で設定を行ってください。

システム管理者のパスワードの項目は入力内容にかかわらず「*****」と表示されます。

[システム管理者パスワード] の欄に半角小文字で「password」と入力します。

[手動設定を行う] を選択します。

[候補] ボタンを押し、現在空いているIPアドレスを見つけ出すか、直接必要な値を入力してください。

[適用] ボタンを押してください。

デフォルトゲートウェイやドメイン名が入力されていないと確認のメッセージが表示されますが、特に必要がなければ、[OK] をクリックして先に進んでください。

[システム管理者パスワード] と [IPアドレス] [サブネットマスク] は必須項目ですので必ず入力してください。それ以外の項目が未入力の場合、[適用] ボタンを押した後にメッセージが表示される場合がありますが、[OK] ボタンを押して先に進んでください。

入力する値はネットワークの形態や設定により大きく異なります。この値がわからない場合は、ネットワークを構築した方にご相談ください。

以上でIPアドレスの設定は終了です。次の「クイックセットアップ」へお進みください。



ご注意：

すでに管理者のパスワードを変更している場合は、システム管理者パスワードの項目に、現在のパスワードを入力してください。

IP アドレスの設定 : Macintosh 環境の場合

1. Mac OS X の場合

インストール時にコピーしたフォルダをダブルクリックして開き、[LogitecNAS Assistant] をダブルクリックして、[LogitecNAS Assistant] を起動します。

IP 状況を確認してください。

1. この欄で、設定する装置を選択してください。

2. [管理] をクリック

LAN上で動作している Logitec NAS シリーズが表示されます。設定する装置を選択して、[管理] ボタンをクリックします。

・この時、IP 状況の項目に (DHCP) と表示されている場合は、自動的に IP アドレスなどが設定されますので「クイックセットアップ」へお進みください。

・IP 状況が (Unknown) と表示されている場合は、次の「IP 状況が Unknown の場合」を参照してください。

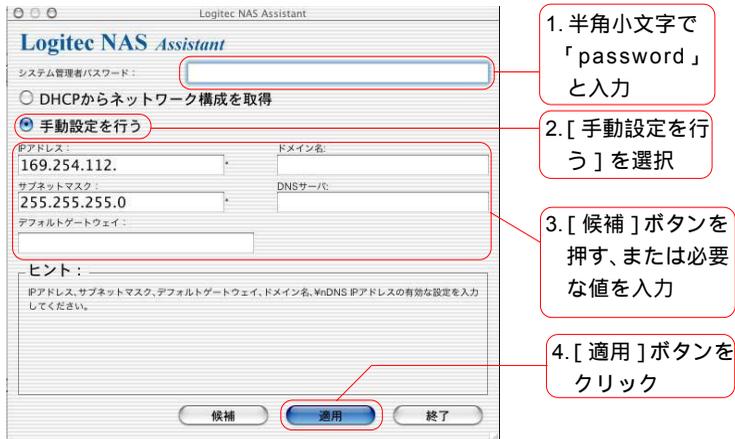
❗ サーバ名の欄には出荷時設定では「LogitecNAS」と表示されます。複数の LogitecNAS シリーズを導入される場合、必ずサーバ名を変更してください。サーバ名が重複すると正常に動作しない可能性があります。サーバ名の変更は「クイックセットアップ」で行えます。

ステップ 2 : IP アドレスの設定

IP アドレスの設定 : Macintosh 環境の場合

IP 状況が Unknown の場合 (Mac OS X)

LAN上にDHCPサーバがない場合などはIPステータスの欄に(Unknown)と表示されます。この時に [管理] ボタンを押すと次のようなネットワーク環境設定画面が表示されます。以下の手順で設定を行ってください。



[システム管理者パスワード] の欄に半角小文字で「password」と入力します。

[手動設定を行う] を選択します。

[候補] ボタンを押し、現在空いている IP アドレスを見つけ出すか、直接必要な値を入力してください。

[適用] ボタンを押してください。

デフォルトゲートウェイやドメイン名が入力されていないと確認のメッセージが表示されますが、特に必要がなければ、[OK] をクリックして先に進んでください。

[システム管理者パスワード] と [IP アドレス] [サブネットマスク] は必須項目ですので必ず入力してください。それ以外の項目が未入力の場合、[適用] ボタンを押した後にメッセージが表示される場合がありますが、[OK] ボタンを押して先に進んでください。

入力する値はネットワークの形態や設定により大きく異なります。この値がわからない場合は、ネットワークを構築した方にご相談ください。

以上で IP アドレスの設定は終了です。次の「クイックセットアップ」へお進みください。



ご注意 :

すでに管理者のパスワードを変更している場合は、システム管理者パスワードの項目に、現在のパスワードを入力してください。

ステップ 2 : IP アドレスの設定

IP アドレスの設定 : Macintosh 環境の場合

2. Mac OS 9.x の場合

インストール時にコピーしたフォルダをダブルクリックして開き、[LogitecNAS Assistant] をダブルクリックします。

表示される画面で IP の状態を確認してください。

画面の下の部分に LAN 上で動作している LogitecNAS シリーズが表示されます。設定する装置の [IP の状態] を確認してください。[IP の状態] により次のいずれかの手順で設定を行います。

[IP の状態] に (DHCP) と表示される場合



1.サーバをダブルクリック

IPの状態を確認してください。

設定する装置をダブルクリックして選択します。

以上でストレージマネージャが起動します。次の「クイックセットアップ」へお進みください。



サーバ名はシリーズに関わらず出荷時設定では「LogitecNAS」と設定されています。複数の LogitecNAS シリーズを導入される場合、必ずサーバ名を変更してください。サーバ名が重複すると正常に動作しない可能性があります。サーバ名の変更は「クイックセットアップ」で行えます。

ステップ 2 : IP アドレスの設定

IP アドレスの設定 : Macintosh 環境の場合

[IP の状態] に (Unknown) と表示される場合 (Mac OS 9.x)

1. この欄にサーバ名が表示されるので選択してください。

2. [管理] をクリック

3. 半角小文字で「password」と入力

4. [マニュアル構成を使用] を選択

5. 必要な値を入力

6. [保存] をクリック

7. 再度設定する装置をクリック

IP の状態を確認してください。

設定する装置を選択します。

[管理] ボタンをクリックします。

パスワードの欄に半角小文字で「password」と入力します。

[マニュアル構成を使用] を選択してください。

IP アドレス、サブネットマスク等の欄にネットワーク環境に応じた値を入力します。

[保存] ボタンをクリックします。

再度設定する装置をクリックします。

以上でストレージマネージャが起動します。次の「クイックセットアップ」へお進みください。

[システム管理者パスワード] と [IP アドレス] [サブネットマスク] は必須項目ですので必ず入力してください。

入力する値はネットワークの形態や設定により大きく異なります。この値がわからない場合は、そのネットワーク管理者にご相談ください。

- サーバ名はシリーズに関わらず出荷時設定では「LogitecNAS」と設定されています。複数のLogitecNASシリーズを導入される場合、区別をつけるためにサーバ名を変更してください。サーバ名が重複すると正常に動作しない可能性があります。サーバ名の変更は「クイックセットアップ」で行えます。

! ご注意 :

すでに管理者のパスワードを変更している場合は、現在のパスワードを入力してください。

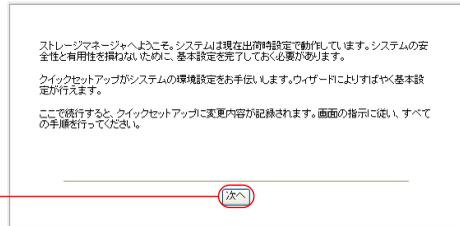
ステップ3 クイックセットアップ

ここでは管理者のパスワード等、基本的な設定を行います。

「ストレージマネージャ」が起動し、以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックしてください。

▶ よろこそ

[次へ] を
クリック

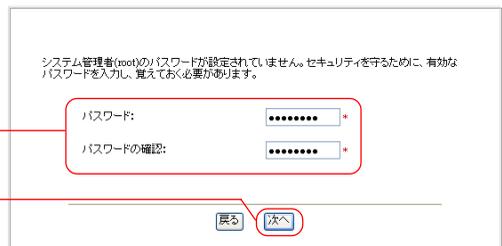


システム管理者のパスワード設定画面が表示されます。セキュリティ上、パスワードは必ず初期状態から変更してください。パスワードには大文字小文字の区別があります。

▶ システム管理者(root)のパスワードを入力してください。

1. 新しいパスワード
を入力（2 度）

2. [次へ] をクリック



⚠️ ご注意 :

管理者パスワードを忘れると、再度システムを設定し直すことができなくなります。決して忘れないように管理してください。忘れた場合、弊社でもサポートいたしかねます。

ステップ3 クイックセットアップ

サーバ名・ドメイン名・DNS サーバを入力する画面が表示されます。

▶ NASサーバの基本設定

1. サーバ名を入力

2. DNS サーバの IP アドレスを入力

3. [次へ] をクリック

複数のLogitecNAS製品を導入される場合、区別をつけるためにデフォルトのサーバ名 (LogitecNAS) を変更してください。サーバ名が重複すると正常に動作しません。

DNS サーバの IP アドレス

- DNS サーバの IP アドレスは電子メール通知の設定を行う際に SMTP サーバをサーバ名で入力するときに、名前解決を行うために必要になります。

未入力の場合、[次へ] ボタンを押した後にいくつかメッセージが表示される場合がありますが、[OK] ボタンを押して先に進んでください。

ドメイン名は特に入力する必要はありません。

- IP アドレスの設定で手動にて設定を行った場合や、DHCPサーバから情報を取得しているような場合は、DHCPサーバより提供される値が登録されています。

Point ポイント :

DNS (Domain Name System) サーバ

DNSとはクライアントから送られたホスト名を、IPアドレスに変換して返す分散型データベースシステムです。TCP/IPを使用したネットワークでは、他のコンピュータなどをアクセスするためにIPアドレスが必要になりますが、IPアドレスは単なる数字の羅列に過ぎないため人間には非常にわかりにくいという欠点があります。

DNSサーバがあれば、この欠点を補って人間にわかりやすいホスト名で他のパソコンにアクセスすることができます。

SMTP (Simple mail transfer protocol) サーバ

E-mailを送信するためのプロトコルです。

SMTPサーバはE-mailを送信するためのサーバとなります。

ステップ3 クイックセットアップ

IPアドレスの設定画面が表示されます。特に問題がなければ次へ進みます。デフォルトゲートウェイが未入力の場合、メッセージが表示される場合がありますが、[OK] ボタンを押して先に進んでください。

▶NASサーバの基本設定 (LANポート 1)

IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを入力してください。

DHCPからネットワーク構成を取得
 手動設定

IPアドレス	192.168.100.51
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.100.9

[次へ] をクリック

Point ポイント :

- ・赤色の星印がついた項目は必須設定項目ですので必ず入力する必要がありますが、オレンジ色の星印がついた項目は推奨項目ですので、必ずしも入力しておく必要はありません。
- ・デフォルトゲートウェイを入力しないと、ルータ(セグメント)を超えたアクセスができません。ルータ(セグメント)を超えたアクセスを行う場合には必ず入力してください。

ステップ3 クイックセットアップ

システムの日付と時刻を設定することができます。

▶システムの日付と時刻を入力してください。

1.日付と時刻を設定して

2. [次へ] をクリック

日付と時刻を24時間形式で設定してください。

時刻: 09 : 54 : 24

日付: 2003 / 09 / 05

地域: (UTC+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo

ネットワーク時間同期 (NTP) を有効にする 周期: 毎日

プライマリ ネットワーク タイムサーバー: _____

セカンダリ ネットワーク タイムサーバー: _____

戻る [次へ]

標準時間帯について

通常問題なければ、(UTC+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo を選択してお使いください。

NTP サーバによる自動時刻合わせを行う場合は、ここで画面下側に表示される「ネットワーク時間同期(NTP)を有効にする周期」という項目で行います。

設定は以下のように行います。

1. 「ネットワーク時間同期(NTP)を有効にする」にチェックを入れます。
2. 時間同期を取る周期を毎日、毎週、毎月から選びます。
3. 「プライマリ ネットワーク タイムサーバー」の欄にNTP サーバのIP アドレスを入力します。
4. [次へ] ボタンを押します。

1.この部分にチェックを入れます

3.NTP サーバのIP アドレスを入力

4. [次へ] をクリック

▶システムの日付と時刻を入力してください。

日付と時刻を24時間形式で設定してください。

時刻: 09 : 54 : 24

日付: 2003 / 09 / 05

地域: (UTC+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo

ネットワーク時間同期 (NTP) を有効にする 周期: 毎日

プライマリ ネットワーク タイムサーバー: _____

セカンダリ ネットワーク タイムサーバー: _____

戻る [次へ]

2. 周期を毎日、毎週、毎月から選択

セカンダリ ネットワーク タイムサーバー - を指定しておく、と、プライマリ ネットワークタイムサーバが参照できないときに、代わりに自動時刻合わせを行います。

Point ポイント :

本製品上に保存されるファイルの更新日付等は本製品に登録された時刻となるため、本製品の時刻を常に正確な状態に保つために日付と時刻の設定が必要になります。

ステップ3 クイックセットアップ

使用する言語を選択する画面が表示されます。下の、「設定内容」と同じであることを確認して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

▶ 言語を選択してください。

1. 下の「設定内容」と同じ事を確認して、

2. [次へ] をクリック

「設定内容」

設定内容が、以下のようにになっていることを確認してください。

表示言語 : Japanese

並び順 : アルファベット

電子メール通知言語 : Japanese

クライアントシステム言語

Windows/Apple : Japanese SJIS (Code Page 932)

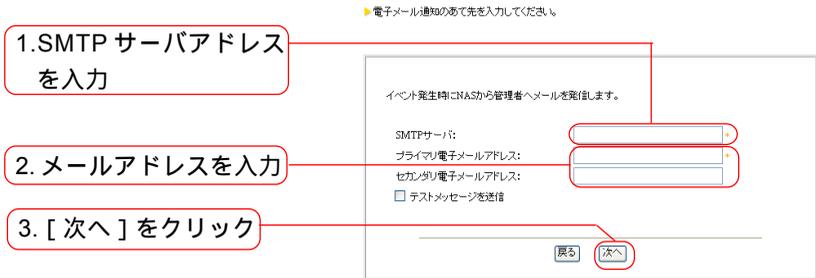
NFS : Japanese EUC

FTP : Japanese SJIS (Code Page 932)

FTP の言語設定は、使用環境に合わせて変更してください。

ステップ3 クイックセットアップ

通知用のメールアドレスを設定することができます。
特に設定する必要のない場合は「テストメッセージを送信」のチェックボックスを外して、「次へ」をクリックしてください。
設定を行う場合は以下の手順をご参照ください。



- SMTPサーバのアドレスをIPアドレスではなくホスト名(例: mail.abc.com)で入力する場合は手順 の画面でDNSサーバが登録されている必要があります。
SMTPサーバがご不明な場合はネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 電子メールアドレスは2つの宛先を指定することができます。2つのアドレスが設定されている場合は、それぞれのアドレスに同時にメールが配信されます。
・「テストメッセージを送信」のチェックボックスにチェックを入れると、設定が正しく行われたかを通知先のメールアドレスで確認することができます。
- [次へ] ボタンを押した後にいくつかメッセージが表示される場合がありますが、[OK] ボタンを押して先に進んでください。

Point ポイント :

SMTP (Simple mail transfer protocol) サーバ

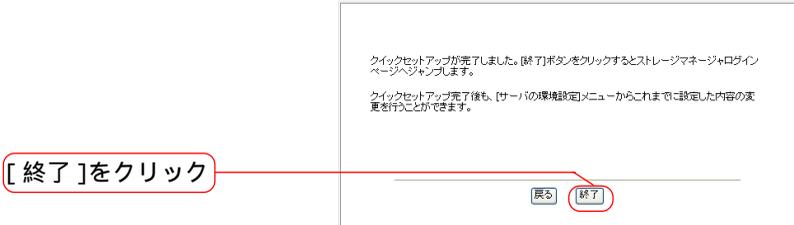
E-mail を送信するためのプロトコルです。

SMTP サーバはE-mail を送信するためのサーバとなります。

ステップ3 クイックセットアップ

終了の画面が表示されます。

▶完了



これで「クイックセットアップ」は終了です。[終了]ボタンを押すと設定が反映され、詳細設定を行う画面に切り替わります。詳細設定については「第2章」にてご説明いたします。

Point ポイント

[戻る]ボタンを押すと、前の画面に戻り設定を修正することができます。各項目で入力した設定内容は最後の[終了]ボタンをすまで装置には反映されません。

「クイックセットアップ」完了後に修正したい項目がある場合は「第2章 NASサーバの詳しい設定」の「基本設定」を参照して修正を行ってください。

特に詳細設定が必要ない場合は画面が切り替わった後にクローズボタンをクリックしてブラウザを閉じてください。ただし、この時点では、まだシステム構成やユーザ権限、ファイル共有などの詳細な設定は行われていません。重要なファイル等の保管や運用は詳細な設定を行った後にすることをお勧めします。

各クライアントコンピュータから共有フォルダへのアクセス方法は「ステップ3： クライアントコンピュータからのアクセス」をご参照ください。

補足事項：設定がうまく行かない場合は...

以下の内容をもう一度確認してみてください。

本機の電源が入っており、LAN ケーブルが正しく接続されているかどうか。

NAS の IP アドレスが重複していないか。

手動で入力したネットワーク設定に間違いがないかどうか。

Microsoft Internet Explorer 5.0 以上をデフォルトブラウザとして使用しているかどうか。

使用しているクライアントコンピュータと、セットアップする NAS シリーズが同じサブネット上に存在しているかどうか。または、同じネットワークアドレス(同一セグメント)上に存在しているかどうか。

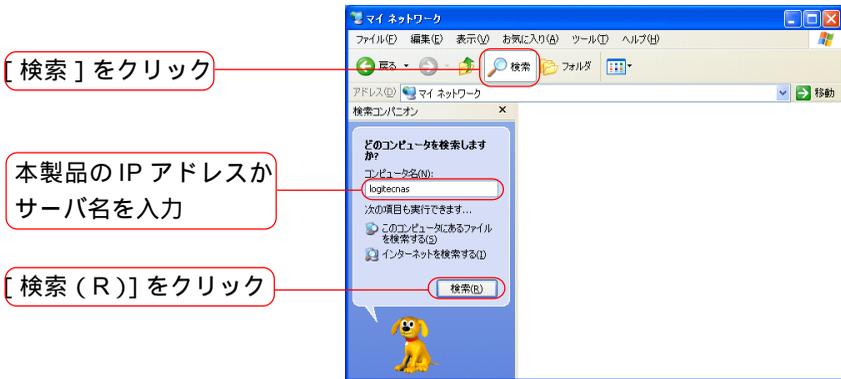
パーソナルファイアウォールをインストールしているパソコンの場合、パーソナルファイアウォールの機能を停止してください。また、Java Script がブロックされていると使用できません。

ステップ 4 クライアントコンピュータからのアクセス

ここでは、アクセス可能となった本製品へのアクセス方法についてクライアント OS ごとにご説明いたします。

Windows XP からのアクセス (SMB 共有)

「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を選択後エクスプローラーバーより「マイネットワーク」をクリックして「マイネットワーク」のウィンドウを開きます。



ツールバーの「検索」をクリックします。ウィンドウ左側に「検索コンパニオン」の画面が表示されますので「コンピュータ名(N)」の欄に本製品の IP アドレスか、サーバ名を入力し、「検索 (R)」をクリックします。

見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックすると、ユーザ名とパスワードの入力画面になるので、特に設定していない場合はユーザ名に半角で guest と入力して [OK] ボタンをクリックしてください。



Windows XP でのユーザ名
とパスワード入力画面

ステップ 4 : クライアントコンピュータからのアクセス

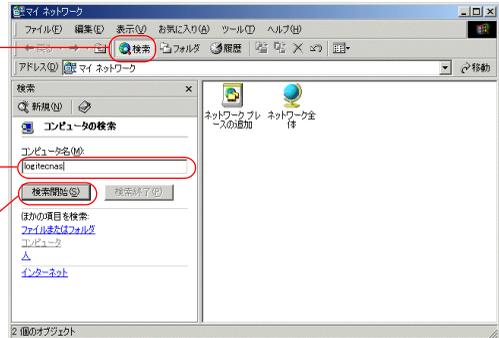
Windows Me , 2000 からのアクセス (SMB 共有)

「マイネットワーク」をダブルクリックし「マイネットワーク」のウィンドウを開きます。

[検索] をクリック

本製品の IP アドレスが
サーバ名を入力

[検索開始(S)] をクリック



ツールバーの「検索」をクリックします。ウィンドウ左側に「コンピュータの検索」画面が表示されますので、「コンピュータ名(M)」の欄に本製品のIPアドレスが、サーバ名を入力し、「検索開始(S)」をクリックします。

Windows Me の場合は見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックすると共有フォルダ (public1) が現れます。

Windows 2000 の場合は見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックすると、ユーザ名とパスワードの入力画面になるので、特に設定していない場合は、ユーザ名に半角で guest と入力し、[OK] をクリックしてください。

1. 半角で guest と入力

2. [OK] ボタンをクリック



Windows 2000でのユーザとパスワード入力画面

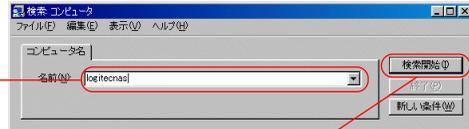
ステップ 4 : クライアントコンピュータからのアクセス

Windows 98 , NT 4.0 からのアクセス (SMB 共有)

「スタート」ボタンをクリックし、「検索 (C)」を選択後、「ほかのコンピュータ」をクリックし、以下のウィンドウを表示させます。

本製品の IP アドレスか
サーバ名を入力

検索開始 (I) をクリック



「名前 (N)」の欄に本製品の IP アドレスか、サーバ名を入力します。

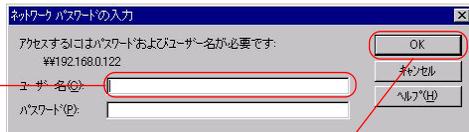
「検索開始 (I)」をクリックします。

Windows 98 の場合は、見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックします。すると共有フォルダ (Public1) が現れます。

Windows NT 4.0 の場合は見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックすると、ユーザ名とパスワードの入力が面になるので、特に設定していない場合は、ユーザ名に半角で guest と入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。

1. 半角で guest と入力

2. [OK] ボタンをクリック



Windows NT 4.0 でのユーザ名とパスワード
入力画面

Point ポイント

本製品に登録したアカウント名とWindowsのログイン名およびパスワードが一致しない場合、Windows XP、2000、NT4.0 では、共有フォルダのアクセス時にユーザ名とパスワードの入力が画面が現れ、そこで正しいユーザ名とパスワードを入力すれば、そのユーザ名でログインできますが、Windows Me、98 の場合はそのまま guest ユーザとしてログインすることになります。

保存できる 1 ファイルの上限容量など OS により仕様の異なる所があります。

「付録 6 : 設定制限表」を参照

ステップ4： クライアントコンピュータからのアクセス

MacOS からのアクセス (AppleTalk 共有)

Mac OS X の場合

[移動]メニューより - [サーバへ接続] を選択します。

共有ボリューム選択画面が現れますので利用したいボリュームを選択します。

[接続] ボタンをクリックします。

サーバホスト名が現れなければ、[アドレス] の欄に IP アドレスを入力し、[接続] をクリックします。

2. 利用したいボリュームを選択

3. [接続] ボタンをクリック

ホスト名がない場合は [アドレス] 欄に IP アドレスを入力して [接続] をクリック
この時、先頭が "afp://" となっているようにしてください。



ユーザー名とパスワードを求めてきますので、本製品にユーザー登録をしていない場合は [ゲスト] のラジオボタンをクリックし、[接続] をクリックします。

Mac OS 9 の場合

Apple メニューより [セレクト] を選択します。

[セレクト] の画面が表示されますので [AppleShare] を選択してください。

[ファイルサーバの選択] に現れたリストからサーバホスト名を選択します。

[OK] ボタンをクリックします。

目的のNASサーバ名が現れなければ、[サーバの IP アドレス] ボタンをクリックして、装置の IP アドレスを入力し、[接続] をクリックします。

2. [AppleShare] を選択

3. サーバ名を選択

4. [OK] ボタンをクリック

サーバ名がない場合は [サーバの IP アドレス] ボタンをクリック



ユーザー名とパスワードを求めてきますので、本製品にユーザー登録をしていない場合は [ゲスト] のラジオボタンをクリックし、[接続] をクリックします。

Linux からアクセスする場合

Linux からのアクセスは NFS により行います。Linux クライアントから、mount コマンドによってマウントすることができます。この使い方の例を以下に示します。

```
mount -t nfs xxx.xxx.xxx.xxx:/volume1/public1 /mnt/nas
```

　　は半角スペースです。
xxx.xxx.xxx.xxx には本製品の IP アドレスが入ります。
volume1 は共有フォルダが存在するボリューム名です。
public1 は共有フォルダ名を示します。
「/mnt/nas」はあらかじめ、mkdir コマンド等で作成しておく必要があります。

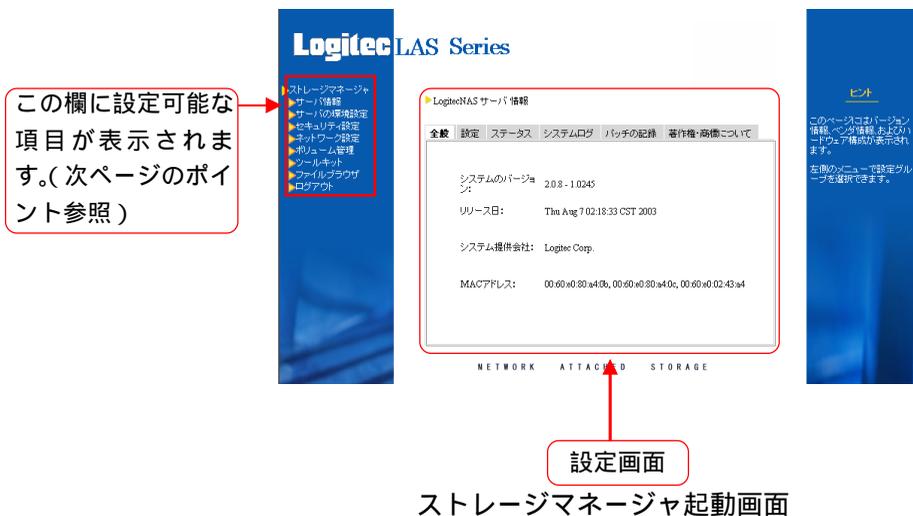
第2章 NASの詳しい設定

第2章では、クイックセットアップ終了後のストレージマネージャにアクセスし、様々な管理をする方法についてご説明します。

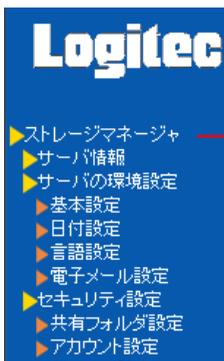
「ストレージマネージャへのログイン」
はじめにログイン方法についてご説明します。

「基本設定」
基本的な設定についてご説明します。これは、第1章のクイックセットアップの内容とほぼ同じものです。ネットワークに関する設定を変更する場合や、フェイルオーバー設定、トランッキング設定等を行う際にご参照ください。

「詳細設定」
「詳細設定」ではユーザーアカウントの設定や、共有フォルダの設定等、詳細な機能の設定方法についてご説明します。



Point ポイント



項目をクリックすることによりその下のメニューの表示 / 非表示を切り替えることができます。

ストレージマネージャメニュー:ここから全ての設定を行います。

各項目を順番に設定する必要はありません。クイックセットアップ終了後は、ストレージマネージャのメニューがブラウザのウィンドウ左側に一覧表示されますので、その中から、設定したい項目を選んで設定を行ってください。(上図参照)

15分間何も操作しないと、自動的にストレージマネージャからログアウトされます。次に設定を行うときは再度ログインする必要があります。

「ストレージマネージャ」画面上の各設定項目欄の右に、赤色の星印がついた項目は必須設定項目です。橙色の星印がついた項目は推奨設定項目です。

ストレージマネージャの起動とログイン

クイックセットアップを終え、そのまま設定を続けている場合は、ログインの必要はありません。「基本設定」「詳細設定」の中の必要なトピックへお進みください。(設定を中断後、再度起動する場合にログインが必要になります。)

クイックセットアップを終え、ストレージマネージャを終了した場合、再び設定を行うためには再度ストレージマネージャを起動し、ログインする必要があります。起動には、以下の2通りの方法があります。

1. インターネットエクスプローラで本製品の IP アドレスまたは、サーバ名を入力し、ストレージマネージャを起動します。
2. LogitecNAS Assistant ツールで本製品を見つけ、そのサーバ名をダブルクリック、または「管理」ボタンをクリックしてストレージマネージャを起動します。

また、Windows の場合は設定を行う NAS サーバの IP アドレスがわかっている場合は、LogitecNAS Finder タブで「サーバー IP を手入力してください」にチェックを入れ、直接 IP アドレスを入力し、ストレージマネージャを起動することもできます。

いずれの場合も以下の画面が表示されますので、[システム管理者 (root)としてログイン] を選択し、パスワードを入力してログインしてください。

1. [システム管理者としてログイン] を選択
2. パスワードを入力
3. [ログイン] をクリック

Logitec NAS Ver. 2.0.0 - 1.0245
サーバ名: LogitecNAS

システム管理者(root)としてログイン
 アカウントを指定してログイン:

パスワード:

Point ポイント

[右のアカウントでログイン]からは、ユーザーアカウントが登録されている場合に、登録されたユーザのみがログインすることができます。

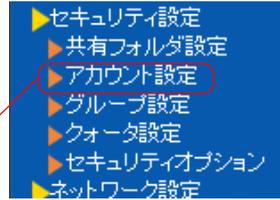
基本設定

システム管理者のパスワードの変更

システム管理者のパスワードを変更する必要がある場合、以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「アカウント設定」を選択します。

1. アカウント設定
を選択



2. [root] を選択

3. パスワードを入力

4. [適用] ボタンを
クリック

 The 'アカウント設定' (Account Settings) form shows a list of accounts on the left with 'root' selected. The form fields include: アカウント名 (Account Name) set to 'root', フルネーム (Full Name) set to 'System Administrator', 電子メール (Email) field, パスワード (Password) and パスワードの確認 (Confirm Password) fields both filled with dots, デフォルトグループ (Default Group) set to 'users', and ユーザークォータ (割当) (User Quota) set to 'Volume1' with a limit of '0MB / 1.89GB'. At the bottom, there are buttons for '削除' (Delete), '作成' (Create), '適用' (Apply), and '取消' (Cancel). The '適用' button is circled in red.

アカウント設定画面より、管理者用アカウント [root] を選択します。

[パスワード] 欄にパスワードを入力し、確認のために [パスワードの確認] 欄にもう一度パスワードを入力します。

[適用] ボタンを押します。

⚠️ ご注意

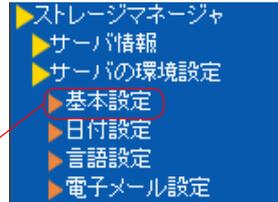
管理者パスワードを忘れると、再度システムを設定し直すことができなくなります。決して忘れないように管理してください。忘れた場合、弊社でもサポートをいたしかねます。

また、パスワードは大文字小文字を判別しますので、正確に管理してください。

サーバ名の変更

以下の手順でサーバ名の変更を行うことができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定] - [基本設定] を選択します。



1. [基本設定] を選択

2. [全般] タブが選択されていることを確認

3. サーバ名を入力

4. [適用] ボタンをクリック

基本設定画面の [全般] タブが選択されていることを確認してください。

[サーバ名] の欄に新しいサーバ名を入力します。

入力が終わったら [適用] ボタンを押します。

ドメイン名やDNSサーバを登録していない場合、メッセージが出ますが、[OK] をクリックしてそのまま進めてください。

これでサーバ名は変更されました。

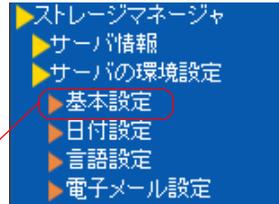
⚠️ ご注意：

複数のNASを導入される場合、サーバ名の重複を避けるため、デフォルトのサーバ名 (LogitechNAS) を変更してください。サーバ名が重複した場合、正しく動作しない場合があります

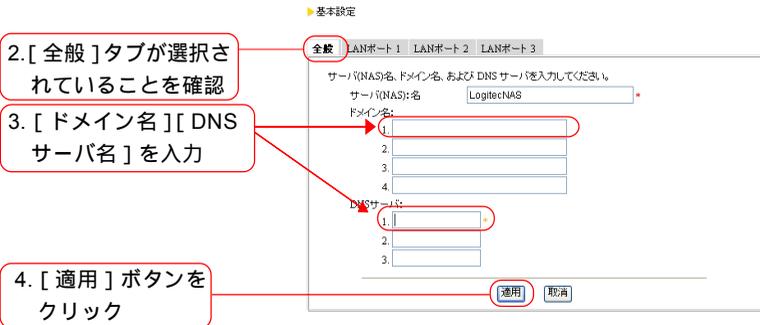
ネットワーク設定 (DNSサーバ、ドメイン (TCP/IP))

以下の手順でドメイン名、DNSサーバの設定を行うことができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定] [基本設定] を選択します。



1. [基本設定] を選択



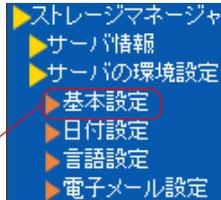
基本設定画面の[全般]タブが選択されていることを確認してください。
[ドメイン名][DNSサーバ]を入力します。(ドメイン名は特に入力する必要はありません)

入力が終わったら [適用] ボタンを押します。

IPアドレスの設定 (LANポート1)

IPアドレスを変更する必要がある場合、以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定]-[基本設定]を選択します。



1. [基本設定] を選択

2. [LANポート1]の
タブを選択

3. 必要な値を入力

4. [適用] ボタンを
クリック

基本設定画面より、[LANポート1]のタブを選択します。

上記の画面が表示されたら、[DHCPからネットワーク構成を取得]もしくは[マニュアル設定を使用]を選択します。

[マニュアル設定を使用]を選択した場合、IPアドレス、サブネットマスクの値を入力してください。また、必要に応じてデフォルトゲートウェイの値を入力してください。

入力が終わったら [適用] ボタンを押します。

Point ポイント

IPアドレスをDHCPサーバから取得する場合は [DHCPからネットワーク構成を取得]を選択して[適用]ボタンを押します。直接入力する場合は、[マニュアル設定を使用]を選択して、各項目に直接値を入力します。

手動設定の場合、IPアドレス、サブネットマスクは必須入力項目です。

IPアドレスの設定 (LANポート2、LANポート3)

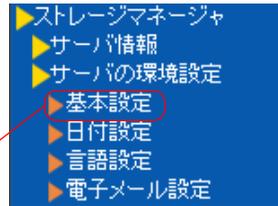
LANポート2はLAS-1URANシリーズ、LAS-RAxxVシリーズのみ
LANポート3はLAS-1URANシリーズのみ

LANポート2またはLANポート3を使用し、「フェイルオーバー」、「トランッキング」、「ギガビットイーサネットポート接続」の各設定を行う場合は、使用するポートを以下のように設定します。

Point ポイント

接続方法については、ハードウェアマニュアル内の「ネットワークの接続設定について」をご参照ください。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定]-[基本設定]を選択します。



1. [基本設定] を選択

2. [LANポート2]または[LANポート3]のタブを選択

基本設定

基本設定画面より、ネットワーク環境に応じて[LANポート2]または[LANポート3]のタブを選択します。

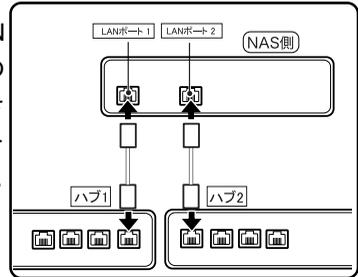
この後は、モードに合わせて設定を行います。次ページ以降をご参照ください。

! ご注意

- ・LANポート1、LANポート2、LANポート3は同一セグメント上にある必要があります。また、ネットワークに接続されていないポートを選択しても設定できません。

フェイルオーバー

フェイルオーバー機能とは、2つのLANポートをクラスタ化し、どちらか1つのLANポートが何らかの障害で通信ができなくなった場合、もう1つのLANポートへ通信を自動的に切り替える機能です。設定は以下のように行います。



LANポート1とLANポート2(または3)を別々のハブに接続します。

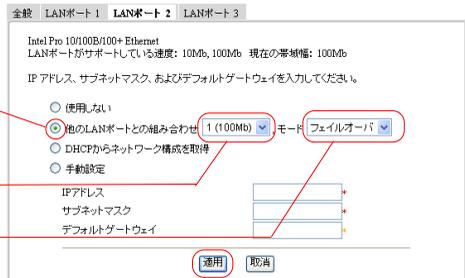
■基本設定

1. [他のLANポートとの組み合わせ] をチェック

2. 相手ポートを選択

3. [フェイルオーバー] を選択

4. [適用] ボタンをクリック



[LANポート2] または [LANポート3] の画面で [他のLANポートとの組み合わせ] のラジオボタンを「ON ()」にします。

ギガビットイーサネットを使用してフェイルオーバーを設定する際には、LANポート3のタグを選択します。

LANポート3とフェイルオーバー設定を行った際は、LANポート3がメイン、それ以外のポートが予備となります。

相手ポートを選択します。

[モード] を [フェイルオーバー] に設定します。

[適用] ボタンをクリックします。

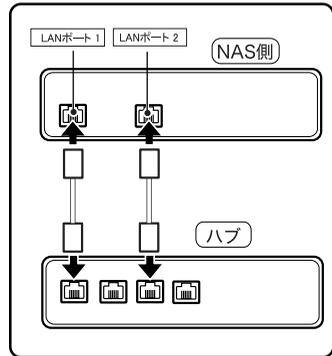
機種によって接続方法が異なりますので、接続についてはハードウェアマニュアルをご参照ください。

トランキング

トランキング機能とは、2つのLANポートをまとめてネットワークの帯域幅を増大させる機能です。

この機能を使用するためには、トランキング対応のハブを使用する必要があります。また、トランキング機能はLANポート1とLANポート2の組み合わせのみ使用可能です。設定は以下の手順で行います。

(LAS-1URANシリーズのみ)



▶基本設定

1. [他のLANポートとの組み合わせ] をチェック

2. 相手ポートを選択

3. [トランキング] を選択

4. [適用] ボタンをクリック



[LANポート2] の画面で [他のLANポートとの組み合わせ] のラジオボタンを「ON ()」にします。

相手ポートを選択します。

[モード] を「トランキング」に設定します。

[適用] ボタンをクリックします。

ギガビットイーサネット接続

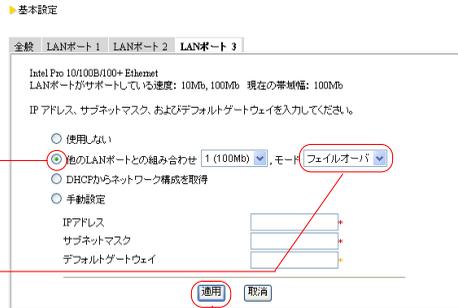
LAS-1URANシリーズでギガビットイーサネット接続の高速転送を利用する場合は、いったんLANポート1とLANポート3をハブに接続し、フェイルオーバーの設定を行った後に、LANポート1の接続を解除します。

LAS-1URANシリーズの設定は以下の手順で行います。

1. [他のLANポートとの組み合わせ] をチェック

2. [フェイルオーバー] を選択

3. [適用] ボタンをクリック



[LANポート3] の画面で [LANポートのトランキング] のラジオボタンを「ON ()」にします。

[モード] を「フェイルオーバー」に設定します。

[適用] ボタンをクリックします。

本製品のLANポート1のLANケーブルを取り外します。

LAS-RAVシリーズ、LHD-NASVシリーズでは、LANポート1がギガビットイーサネットポートとなっていますので、1000BASE-T対応のハブとLANポート1を接続しLANポート1の設定が終わっていたら、ここで設定を行わなくても、ギガビットイーサネット接続での通信が確立されています。

日付の設定

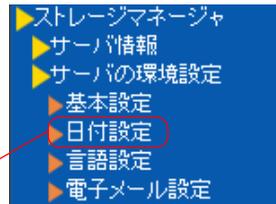
システムの日付と時刻を24時間形式で設定します。

Point ポイント：

本製品上に保存されるファイルの更新日付等は本製品に登録された時刻となるため、本製品の時刻を常に正確な状態に保つために日付と時刻の設定が必要になります。

手動設定

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定] [日付設定] を選択します。



1. [日付設定] を選択

2. [時刻] [日付] [標準時間帯] を選択

3. [適用] ボタンをクリック

日付と時刻を24時間形式で設定してください。

時刻: 10 : 02 : 56

日付: 2003 / 09 / 05

地域: [UTC+09:00] Tokyo, Osaka, Sapporo

ネットワーク時間同期 (NTP) を有効にする 間隔: 毎日

プライマリ ネットワーク タイムサーバ:

セカンダリ ネットワーク タイムサーバ:

日付設定の画面より、[時刻] [日付] [標準時間帯] を選択します。選択が終わったら [適用] ボタンをクリックします。

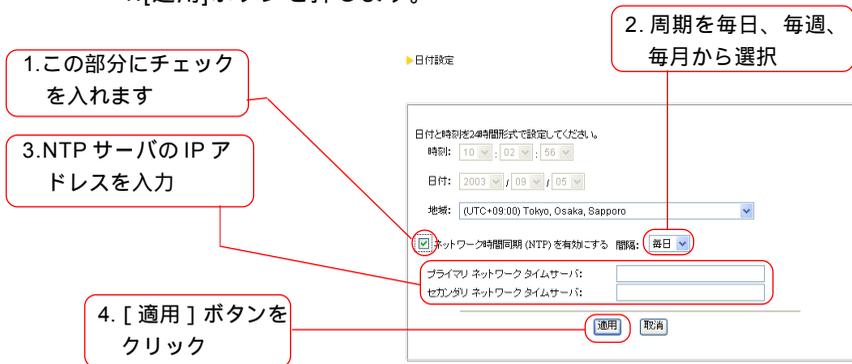
ネットワーク上にあるタイムサーバと同期を取り、製品内部の時計を合わせることができます。設定については次ページの「NTPサーバによる時刻の自動設定」をご参照ください。

標準時間帯について
通常問題なければ、(UTC+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo
を選択してお使いください。

NTPサーバによる時刻の自動設定

ネットワーク時間同期(NTP)を設定し、ネットワーク上にあるタイムサーバと同期を取り製品内部の時計を合わせる場合、設定は以下のように行います。

1. 「ネットワーク時間同期(NTP)を有効にする」にチェックを入れます。
2. 周期を毎日、毎週、毎月から選びます。
3. 「プライマリ ネットワーク タイムサーバ」の欄にNTPサーバのIPアドレスを入力します。
4. [適用]ボタンを押します。

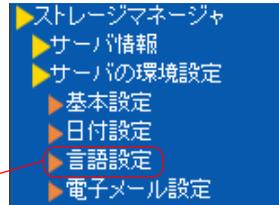


セカンダリ ネットワーク タイムサーバ - を指定しておくこと、プライマリ ネットワークタイムサーバが参照できないときに、代わりにセカンダリ ネットワーク タイムサーバにアクセスし、自動時刻合わせを行います。

言語の設定

言語（コードページ）を設定します。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定] [言語設定] を選択します。



1. [言語設定] を選択

▶言語設定

2. 言語を選択

3. [適用] ボタンをクリック

言語設定の画面より、[表示言語] [電子メール通知言語] [コードページ] を選択します。

選択が終わったら [適用] ボタンをクリックします。

通常は以下の設定でご使用ください。

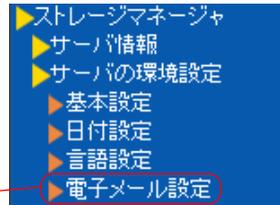
表示言語	:	Japanese
並び順	:	アルファベット
電子メール通知言語	:	Japanese
クライアントシステム言語		
Windows/Apple	:	Japanese SJIS (Code Page 932)
NFS	:	Japanese EUC
FTP	:	Japanese SJIS (Code Page 932)

FTPの言語設定は、使用環境に合わせて変更してください。

通知用メールアドレスの設定

本製品はシステムに何らかのイベントやエラーなどが発生した場合に、その内容を電子メールであらかじめ設定されたアドレスへ通知します。通知先は以下の手順で設定します。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[サーバの環境設定] [電子メール設定] を選択します。



1. [電子メール設定] を選択

▶ 電子メール通知設定

2. SMTPサーバアドレス、
メールアドレスを入力

3. [適用] ボタンを
クリック

イベント発生時にNASから管理者へメールを発信します。

SMTPサーバ:

プライマリ電子メールアドレス:

セカンダリ電子メールアドレス:

テストメッセージを送信

SMTPサーバアドレス・メールアドレスを入力します。
[適用] ボタンを押します。

メールアドレス設定時のポイントは次ページをご参照ください。

Point ポイント

SMTPサーバのアドレスをIPアドレスではなくホスト名（例：mail.abc.com）で入力する場合はストレージマネージャの「サーバの環境設定」-「基本設定」-「全般」の画面でDNSサーバが登録されている必要があります。

電子メールアドレスは2つのあて先を設定することができます。2つのアドレスが設定されている場合は、それぞれのアドレスに同時にメールが配信されます。

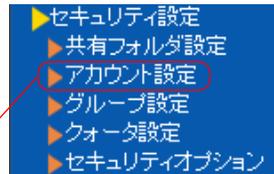
「テストメッセージを送信」のチェックボックスにチェックを入れると、「適用」ボタンで確定後に、設定が正しく行われたか通知先のメールアドレスで確認することができます。

詳細設定

ユーザーアカウントの作成

本製品にアクセスするユーザーのアカウントを作成します。これらのクライアントからは、アカウント名とパスワードを入力することによりNASに登録ユーザーとしてアクセスすることができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[セキュリティ設定]-[アカウント設定]を選択します。



1 [アカウント設定] を選択

アカウント設定

A screenshot of the 'アカウント設定' (Account Settings) page. It features a table with columns 'guest #' and 'root'. Below the table are input fields for 'アカウント名:' (root), 'フルネーム:' (System Administrator), '電子メール:', 'パスワード:', 'パスワードの確認:', 'デフォルトグループ:' (selected as users), and 'ユーザー quota (割当):' (Volume1, 0MB / 1.89GB). At the bottom, there are buttons for '削除', '作成' (highlighted with a red circle), '適用', and '取消'. A note at the bottom left says '# 無効となっているアカウント'.

2. [作成] ボタンをクリック

アカウント設定画面で [作成] ボタンを押します。

この項目は次ページへ続きます。

3. 以下の項目を入力
 [アカウント名]
 [フルネーム]
 [電子メール]
 [パスワード](2 度)

4. デフォルトグループを選択

5. クォータを設定

6. ホームボリュームを設定

7. [OK]を押して設定を終了させるか、[次へ]を押してさらに次のアカウントを登録します。

新規アカウントの設定画面に切り替わるので、ここで[アカウント名] [フルネーム] [電子メール] [パスワード] を入力します。

作成したアカウントにホームフォルダ(管理者とそのユーザのアカウント以外はアクセスできないフォルダ)を作成するかどうかを選択します。

- ・作成する場合には[デフォルトグループ]で[users]を選択します。(作成すると、そのアカウントでNASサーバにアクセスした際に、[home]というフォルダが表示され、使用可能となります。
- ・ホームフォルダを作成しない場合には[guests]を選択します。

作成したアカウントのクォータ(そのアカウントでディスクに保存できるデータの総容量)設定を行います。

複数のボリュームがある場合は、ユーザーのホームフォルダをどのボリュームに設定するかを設定します。(複数のボリュームを作成する方法については「ボリューム設定」をご参照ください)

[OK]を押すと設定終了です。([次へ] を押した場合は、続けて新しいユーザアカウントを追加することができます。)

これで新規アカウントが登録されます。デフォルトグループで[users]を選択した場合、アカウント名と同じフォルダが作成されます。

! アカウント名、パスワード設定時のご注意：

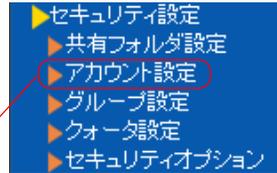
Windows Me, 98のクライアント環境からNASにアクセスする場合、ここで作成するアカウント名、パスワードを、ネットワークにログインする際に使用するログイン名、パスワードと同じ設定にしてください。Windows Me, 98では、ログイン名とアカウント情報が異なると登録したユーザとしてNASにアクセスできません。

Windows XP、Windows 2000、Windows NT 4.0クライアントからNASにアクセスする場合、NASに登録されているアカウント名、パスワードと異なるログイン名とパスワードを使用している場合、NASへアクセスする際に、ログインが必要になります。

ユーザーアカウントの削除

一度登録したユーザーアカウントの削除は、以下の手順で行います。ただし、はじめから登録されている [root] と [guest] は削除することはできません。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[セキュリティ設定] - [アカウント設定] を選択します。



1 [アカウント設定] を選択

▶ アカウント設定

2. 削除するアカウント
を選択

3. [削除] ボタンを
クリック

アカウント設定画面で削除したいアカウントを選択します。
[削除] ボタンを押します。

「このアカウントを削除しますか」というメッセージが表示されるので、
[OK] ボタンをクリックすると削除
が実行されます。

4. [OK] ボタンをク
リック



! ご注意 :

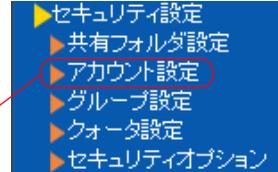
削除するユーザーアカウントのデフォルトグループがusersの場合、そのアカウントのホームフォルダおよびホームフォルダ内のデータも同時に削除されてしまいますので十分ご注意ください。

ユーザーアカウントの変更

一度登録したユーザーアカウントの設定内容の変更は、以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[セキュリティ設定]-[アカウント設定]を選択します。

1[アカウント設定]を選択



2. 変更するアカウントを選択

3. 変更したい項目に、新しい内容を入力

4. [適用] ボタンをクリック

アカウント設定

guest #	root	アカウント名:	user
	user	フルネーム:	user
		電子メール:	user@logitec.co.jp
		パスワード:	*****
		パスワードの確認:	*****
		デフォルトグループ:	<input checked="" type="radio"/> users <input type="radio"/> guests
		ユーザのホームボリューム:	Volume1
		ユーザクォータ(割当):	Volume1 0MB / 1.89GB

無効となっているアカウント

このアカウントを無効にする

削除 作成 適用 取消

アカウント設定画面で変更したいアカウントを選択します。

変更したい項目に新しい内容を入力します。

[適用] ボタンをクリックします。

選択したアカウントを無効にしたい場合は[このアカウントを無効にする]のチェックボックスにチェックを入れ[適用] ボタンをクリックします。

📢 ご注意：

デフォルトグループを users から guests に変更すると、そのアカウントのホームフォルダおよびホームフォルダ内のデータも同時に削除されてしまいますので十分ご注意ください。

📖 参考：

はじめから登録されている [root] と [guest] のアカウント名・デフォルトグループの変更はできません。

[グループ設定] で admins(管理グループ)に加えられたユーザーはデフォルトグループを guests にすることはできません。

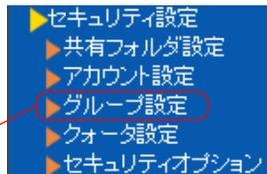
グループ設定

本製品では登録されたアカウントをグループに分けて管理することができます。グループ分けをすることにより、アクセス権の設定の管理を楽にすることができます。

グループ設定：新規グループの作成

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「グループ設定」を選択します。

1. [グループ設定] を選択



2. [ユーザグループ] タブが選択されていることを確認

グループ設定

ユーザグループ

グループメンバー

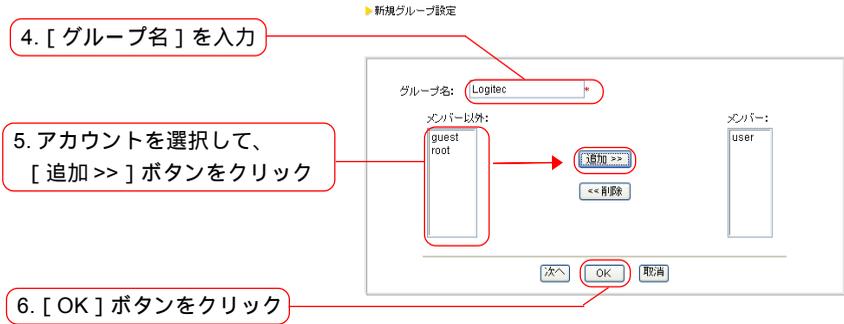


3. [作成] ボタンをクリック

グループ設定画面に切り替わるので[ユーザグループ]タブが選択されていることを確認してください。

[作成] ボタンを押します。

この項目は次ページへ続きます。



[新規グループ設定]画面が表示されます。[グループ名]を入力してください。

次に、[メンバー以外:]の欄から、そのグループに所属させたいアカウント名を選択し、[追加 >>] ボタンを押します。

Point ポイント:

アカウントを選択する際にShiftキーやCtrlキーを押しながら選択すると、一度に複数のアカウントを選択できます。

間違えて追加してしまったアカウントを削除するには、[メンバー:]の欄から、間違ったアカウントを選択し、[<< 削除] ボタンを押します。

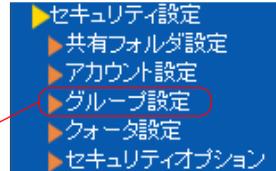
設定が終わったら、[OK] ボタンを押します。

これで、新しいグループが登録されます。グループ設定画面に戻ると、新しいグループが登録されています。

グループ設定：グループメンバーの追加と削除

一度作成したグループに新たにメンバーを加えたり登録されているメンバーを削除する場合は以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「グループ設定」を選択します。



1. [グループ設定] を選択

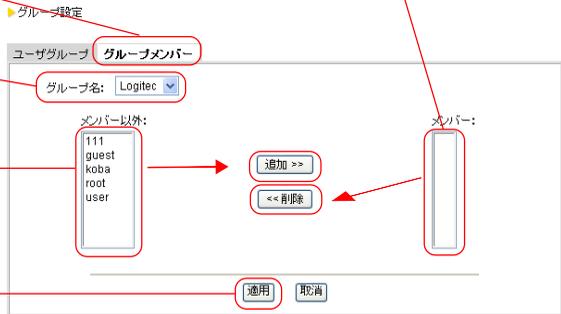
2. [グループメンバー] タブを選択

3. 設定するグループ名を選択

4. 追加するアカウントを選択して、[追加 >>] ボタンをクリック

6. [適用] ボタンをクリック

5. 削除するアカウントを選択して、[<<削除] ボタンをクリック



グループ設定画面で [グループメンバー] タブを選択します。

設定するグループ名を選択します。

選択したグループにメンバーを追加させたい場合は、左側の [メンバー以外:] の欄からアカウントを選択し、[追加 >>] ボタンを押します。

選択したグループから登録されているメンバーを削除したい場合は右側の [メンバー:] の欄からアカウント選択し、[<<削除] ボタンを押します。

設定が終了したら [適用] ボタンを押します。

次ページの注意事項もご参照ください。

! 注意：

usersグループに登録されているアカウントをグループメンバーから削除する場合、削除されたアカウントは自動的にguestsグループへ編入されます。その場合、そのアカウントがもっていたホームフォルダおよびホームフォルダ内のデータは削除されますのでご注意ください。

また、guestに登録されているアカウントを削除すると、そのアカウントは自動的にusersグループへ編入され、自動的にホームフォルダが作成されます。

全てのアカウントは必ず、users、guestsのどちらかのグループに属しています。従って作成したグループからアカウントを削除しても、そのアカウントはusersまたはguestsのどちらかのグループに登録されています。アカウント自体を完全に削除するには「ユーザーアカウントの削除」の項をご参照ください。

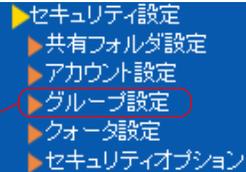
adminsグループに登録する際は、事前にusersグループに登録している必要があります。従ってグループにadminsを選択したときにメンバー以外の欄に表示されるアカウントはusersグループに登録されているアカウントだけです。

グループ設定：グループの削除

作成したグループを削除する場合、以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「グループ設定」を選択します。

1. [グループ設定] を選択



2. [ユーザーグループ] タブが
選択されていることを確認

3. 削除するグループを選択

4. [削除] ボタンをクリック



グループ設定画面に切り替わるので[ユーザーグループ]タブが選択されていることを確認してください。

削除するグループを選択します。

[削除] ボタンを押します。

右のようなメッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。

[OK] ボタンをクリック



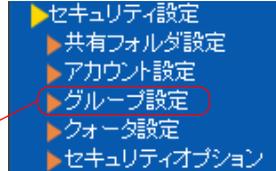
参考：

あらかじめ登録されているグループ (admins, users, guests) を削除することはできません。

グループ設定：グループ名の変更

作成したグループのグループ名を変更する場合、以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「グループ設定」を選択します。



1. [グループ設定] を選択

2. [ユーザーグループ] タブが
選択されていることを確認

グループ設定

ユーザーグループ

グループメンバー

admins
guests
Logitec
users

グループ名:

Logitec
user

グループ名: [Logitec]

メンバー:

user

3. 変更するグループを選択

5. [適用] ボタンをクリック

削除 作成 適用 取消

4. テキストボックスに
新しい名前を入力

グループ設定画面に切り替わるので [ユーザーグループ] タブが選択されていることを確認してください。

名前を変更するグループを選択します。

右側の [グループ名] のテキストボックスに新しい名前を入力します。

[適用] ボタンを押します。

 参考：

あらかじめ登録されているグループ (admins, users, guests) のグループ名を変更することはできません。

グループ設定：補足事項

デフォルトのグループについて

本製品には、あらかじめadmins, users, guestsという3つのグループが存在しています。これらのグループは削除・変更することができます。それぞれのグループの機能は以下の通りです。

- | | |
|--------|--|
| admins | 本システムの設定を行うグループです。デフォルトではrootのみが登録されていますが、usersグループに登録されているアカウントをここに登録することができます。登録されたユーザーはadminsとusersの両方に登録され、システムの設定を行えるようになります。 |
| users | このグループに属するアカウントは全てそのアカウント専用のホームフォルダを持ちます。デフォルトではrootがこのメンバーとして登録されています。ただし、rootアカウントにはhomeフォルダは作成されません。 |
| guests | このグループに属するアカウントは専用のホームフォルダを持ちません。デフォルトではguestがこのメンバーとして登録されています。 |

作成する全てのアカウントはusersまたはguestsに登録されます。usersに登録されているアカウントからのみadminsグループへ加えることができます。

共有フォルダの作成

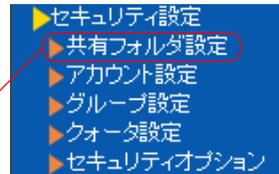
本製品では、共有フォルダを作成し、その共有フォルダにアクセス制限をかけることによって特定のグループやアカウントからしかアクセスできないように設定することができます。ここではまず、共有フォルダの作成・削除・フォルダ設定の変更等、基本的な事項についてご説明します。

作成した共有フォルダに様々な制限を加える方法についてはこの後の「共有フォルダへのアクセス制限の設定方法」をご参照ください。

新規共有フォルダの作成

新しい共有フォルダの作成は以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」を選択します。



1. [共有フォルダ設定] を選択

2. [共有フォルダ] タブが選択されていることを確認

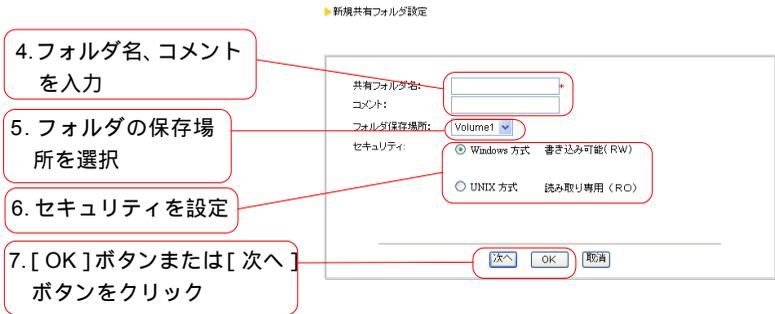


3. [作成] ボタンをクリック

共有フォルダ設定画面で [共有フォルダ] タグが選択されていることを確認します。

[作成] ボタンを押します。

この項目は次ページへ続きます。



新規共有フォルダ設定画面が表示されます。フォルダ名を入力してください。(必要に応じてコメントを入力することもできます。)複数のボリュームがある場合は[フォルダの保存場所]を選択します。

セキュリティを「Windows方式」「UNIX方式」のどちらかから選びます。

設定が終わったら[OK]ボタンを押して設定を終了するか、[次へ]ボタンを押して次の新規共有フォルダを作成します。

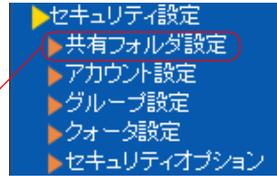
Point ポイント :

Linux をご使用の場合も、通常は Windows 方式をご利用ください。

共有フォルダの削除

共有フォルダの削除は以下の手順で行います。

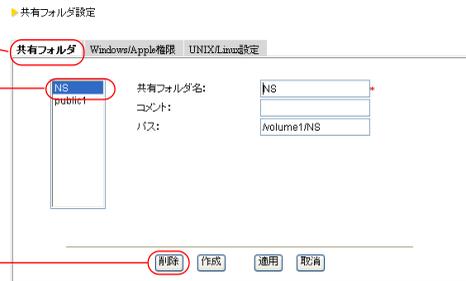
ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」を選択します。



1. [共有フォルダ設定] を
選択

2. [共有フォルダ] タブが選
択されていることを確認

3. 削除するフォルダを選択



4. [削除] ボタンを
クリック

共有フォルダ設定画面で [共有フォルダ] タグが選択されていることを確認します。

削除するフォルダを選択します。

[削除] ボタンを押します。

[選択された共有フォルダを削除してよろしいですか?]というメッセージが表示されます。ここで [OK] ボタンを押すと、選択した共有フォルダと共有フォルダ内に保存されたデータが削除されます。

5. [OK] ボタンを
クリック



❗ 注意：

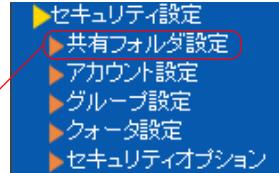
共有フォルダを削除すると、その中のデータも削除されますのでご注意ください。

システムにはじめから登録されている [public1] および、各ボリュームごとにデフォルトで作成される [public n] という共有フォルダは削除/変更できません。("n" はボリューム番号が入ります。)

共有フォルダの修正

共有フォルダの名前やコメントを修正する場合は以下の手順をご参照ください。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」を選択します。



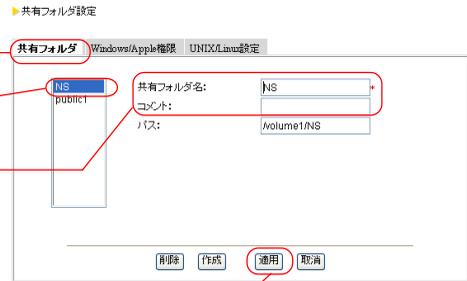
1. [共有フォルダ設定]を選択

2. [共有フォルダ]タブが選択されていることを確認

3. 変更を行うフォルダを選択

4. 変更したい内容を入力

5. [適用]ボタンをクリック



共有フォルダ設定画面で [共有フォルダ] タブが選択されていることを確認します。

変更を行うフォルダを選択します。

必要に応じて [フォルダ名][コメント] を変更します。

変更後 [適用] ボタンを押すと変更内容が反映されます。

次ページもご参照ください。

! ご注意：

[パス]は編集できません。フォルダごとに自動的に正しいパスが設定されています。手動で入力しないでください。

📖 参考：

システムにはじめから登録されている [public1] および、各ボリュームごとにデフォルトで作成される [public *n*] という共有フォルダの名前およびパスは削除/変更できません。("*n*" はボリューム番号が入ります。)

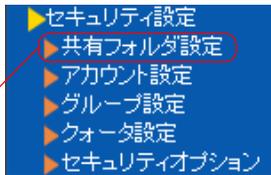
共有フォルダへのアクセス制限の設定方法

ここでは作成した共有フォルダにアクセス制限を加える方法についてご説明します。作成した共有フォルダに全てのアカウントからのアクセスを許可する場合はここでの設定は必要ありません。

Windows/Macintosh クライアントからのアクセス制限

Windows/Macintosh クライアントからのアクセス制限を設定する場合、以下の手順で行います。

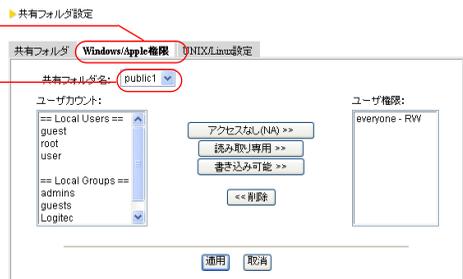
ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」、「共有フォルダ設定」を選択します。



1. [共有フォルダ設定] を
選択

2. [Windows/Apple 権限] タブが
選択されていることを確認

3. アクセス制限をかけたい共有
フォルダ名を選択



共有フォルダ設定画面より、Windows/Apple権限タブを選択します。

「フォルダ名：」の項目よりアクセス制限をかけたい共有フォルダ名を選択します。

この項目は次ページへ続きます。

4. アカウントまたはグループを選択し、中央のボタンで権限を設定します。

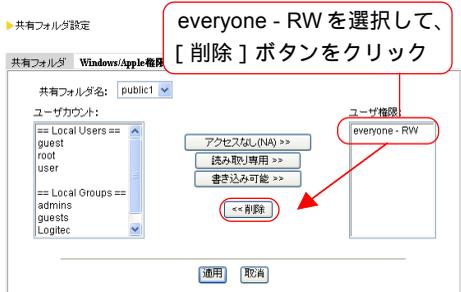
5. [適用] ボタンをクリック



[ユーザーアカウント列]のユーザーまたはグループをマウスで選択し[アクセスなし][読み取り専用]または[書き込み可能]をクリックします。選択したアカウントに権限が設定されます。
[適用] ボタンを押します。

参考：

共有フォルダは、デフォルトでは全てのユーザーに書き込み権限が与えられています。個別にアカウントの権限を設定する場合は、はじめにこの権限を削除します。ユーザー権限の欄から[everyone-RW]を選択し、[<< 削除] ボタンを押してください。



Point ポイント：

一度登録したユーザーを削除する場合、[ユーザー権限]の欄で削除するユーザーを選択し、[削除] ボタンを押します。
一度登録したユーザーの権限を変更する場合にも、[ユーザー権限]の欄でユーザーを選択し[アクセスなし][読み取り専用]または[書き込み可能]の各ボタンを押せば権限の修正をすることができます。

次ページのポイントもご参照ください。

Point ポイント：

画面右側に表示されるユーザー権限欄に表示される記号は以下の意味を持ちます。

[アカウント名-RW]

- ・そのアカウントは読み書き可能です。

[アカウント名-RO]

- ・そのアカウントは読取専用です。

[アカウント名-NA]

- ・そのアカウントはアクセスできません。

[グループ名-RW]

- ・そのグループは読み書き可能です。

[グループ名-RO]

- ・そのグループは読取専用です。

[グループ名-NA]

- ・そのグループはアクセスできません。

また、アカウント名everyoneは全てのアカウントを意味します。

右上の図を例に取ると、ここで設定された共有フォルダは、adminsグループは書き込み可能、userは読み取りだけ可能ということになります。このように、設定は特定のアカウント/グループが特定の権限を持つようにして、それ以外のアカウント/グループと区別するようにします。

ユーザー権限に登録したアクセス内容は矛盾のないようにしてください。

本製品に登録されていないユーザーはguestアカウントとして設定します。

ユーザー権限:

```
== Local Users ==  
user - RO  
  
== Local Groups ==  
admins - RW
```

次ページの参考もご参照ください。

 参考：

グループ単位でのアクセスの制限方法

ある特定のグループに [読み取り専用] [書き込み可能] に設定し、そのグループ内でさらに権限を分けることもできます。ただしこの場合制限があり、グループを書き込み可能に設定するとそのグループに属す個別のアカウントを [アクセスなし] には設定できますが [読み取り専用] には設定できません。これはこのシステムの仕様です。

グループを読み取り専用を設定した場合、そのグループに属するアカウントを、[書き込み可能] [アクセスなし] どちらでも個別に設定できます。

グループにアクセスなしの設定をすると、そのグループに属するアカウントは全てアクセスなしに固定され、個別の設定ができません。

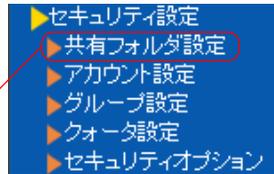
個別に制限を加える場合

個別に権限を設定する場合は、グループとアカウントが重複したり、矛盾しない限り、制限範囲内での設定が可能です。

Linuxクライアントからのアクセス制限

Linuxクライアントからのアクセス制限はWindowsやMacintoshとの共有と違い、ユーザー名でクライアントを区別するのではなく、ホスト名/サブネットで区別します。デフォルトではすべてのホストに対して読み書き許可の設定になっていますが、権限をかけるホストを追加することによりクライアント毎のアクセス権を設定することができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」を選択します。

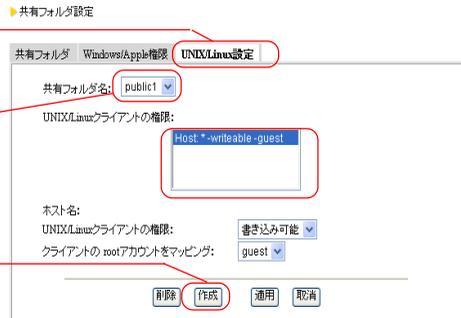


1. [共有フォルダ設定] を
選択

2. [UNIX/Linux設定] タブが選
択されていることを確認

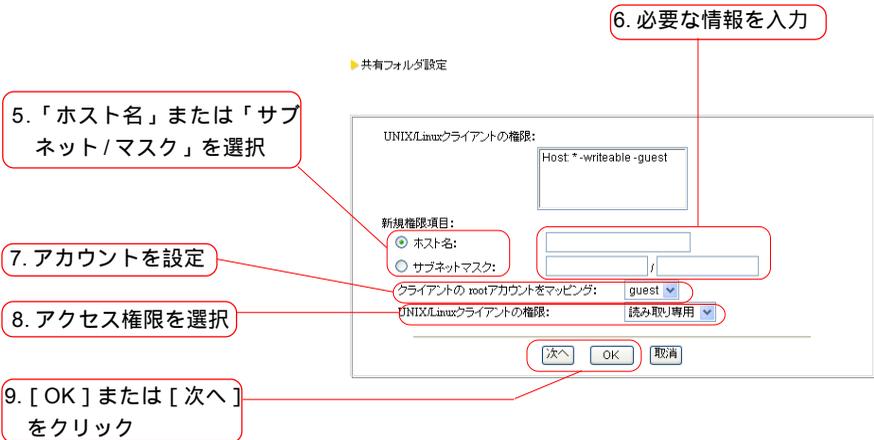
3. 設定するフォルダを
選択

4. [作成] ボタンを
クリック



共有フォルダ設定画面より「UNIX/Linux設定」タブを選択します。
設定する共有フォルダを選択します。
「作成」ボタンを押します。

この項目は次ページへ続きます。



NFS クライアント設定画面に切り替わります。

ホスト名でクライアントを区別するか、サブネットで区別するかをラジオボタンで選択します。

権限をかけるクライアントの情報を、ホスト名を選択した場合はホスト名に、サブネット/マスクを選択した場合はサブネット/マスクに情報を入力します。ホスト名の欄は IP アドレスもしくはホスト名(フルドメイン)で入力します。ホスト名(フルドメイン)で入力する場合は本製品に DNS サーバの登録(「ネットワーク設定 (DNS サーバ、ドメイン (TCP/IP))」参照)が必要です。ホスト名に「*」と入力すればすべてのホストを指すことになります。クライアントの root アカウントをマッピングさせるユーザアカウントを設定します。

UNIX/Linux クライアントの権限でアクセス権限を選択します

「OK」ボタンを押して設定を確定します。続けてクライアントを設定する場合は「次へ」を押します。

root アカウントのマッピングについて

クライアントから NFS でデータを NAS に書き込んだ際はパーミッションが 755 になります。

root アカウントのマッピングを使用することにより、ファイルのオーナーがマッピングしたユーザになります。

- ・アカウントのグループは NAS 上の設定が引き継がれます。
- ・NAS 上の各アカウントに上位下位の区別はありません (NFS で使用する場合)。
- ・root アカウントをマッピングしないと、全てのユーザが読み書きできてしまいます (パーミッション 777)。

Point ポイント：パーミッション 777 とは・・・

Linuxではファイル/フォルダ毎にアクセス権が設定されており、それを2進数3桁で表します。アクセス権の詳細は以下の通りになります

owner	groups	etc
r w x	r w x	r w x

owner = ファイルを作成した人(オーナー)
 groups= オーナーと同じグループの人
 etc = それ以外の人
 r = 読み込み可能
 w = 書き込み可能
 x = 実行可能

となり、対応している権限に1、対応していない権限に0が立ちます。この数字を3桁の2進数の数字にして表記します。例えば755のアクセス権と云うのは・・・

owner	groups	etc
r w x	r w x	r w x
1 1 1	1 0 1	1 0 1
7	5	5

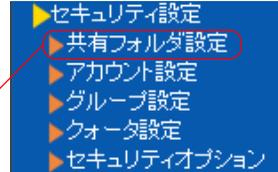
となります。このファイルはオーナーは読み/書き/実行が可能で、オーナーと同じグループの人と、それ以外の人読み込みと実行のみが可能だということになります。

パーミッション777とは全てのユーザが読み書き実行が自由ということです。

Linuxクライアントのアクセス権限の削除

以下の手順で登録したLinuxクライアントの設定を削除できます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」を選択します。



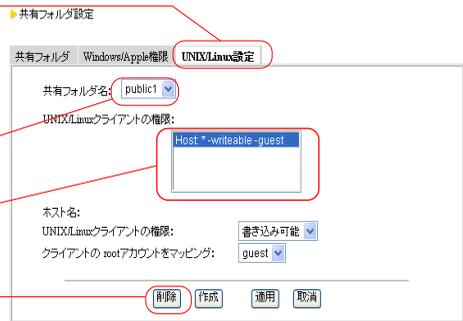
1. [共有フォルダ設定]を選択

2. [UNIX/Linux設定]タブが選択されていることを確認

3. 設定するフォルダ名を選択

4. 削除したいホストを選択

5. 削除ボタンをクリック



共有フォルダ設定画面より「UNIX/Linux設定」タブを選択します。
設定する共有フォルダを選択します。

「UNIX/Linuxクライアントの権限」より、削除したいホストを選択します。

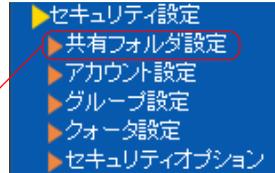
選択後、「削除」ボタンを押します。

画面中央から削除した権限が消去されます。

Linuxクライアントのアクセス権限の変更

以下の手順で登録したLinuxクライアントの設定を変更できます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「共有フォルダ設定」を選択します。



1. [共有フォルダ設定]を選択

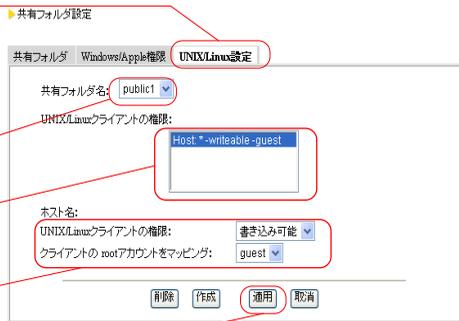
2. [UNIX/Linux設定]タブが選択されていることを確認

3. 設定するフォルダ名を選択

4. 変更したいホストを選択

5. 内容を修正

6. 適用ボタンをクリック



共有フォルダ設定画面より「UNIX/Linux設定」タグを選択します。

設定する共有フォルダを選択します。

「UNIX/Linuxクライアントの権限」より、アクセス権限を変更したいホストを選択します。

「ホスト名」の欄で権限の修正を行います。

修正後、「適用」ボタンを押します。

設定内容が反映されます。

アクセスコントロールリスト (ACL) 設定について

(LAS-1URAN シリーズのみ)

下位フォルダのアクセス権の設定について

本製品は共有フォルダの下位に存在する下位のフォルダやファイルに関してもアクセス権を設定することが可能です。

但し、設定可能なOSとOS毎に設定可能な項目が異なりますので注意が必要です。また、共有フォルダでのアクセス権の設定と違い、下位のフォルダやファイルのアクセス権の設定・変更はNASの管理者だけでなく、該当するフォルダやファイルを作成したユーザー(以下オーナーと呼びます)からも可能となります。

また、設定した内容はすべてのOSのクライアントからのアクセスに反映されます。

アクセス権の設定方法

WindowsXP Professional、Windows2000、WindowsNT4.0の場合

フォルダやファイルを右クリックし、プロパティを開きます。プロパティウインドウの中のセキュリティタグを選択します。(1)

右のような画面が表示されますので必要に応じてアクセス権限を設定してください。



1 WindowsXP のプロパティ画面でセキュリティタグが現れない場合は、フォルダオプションにて「簡易ファイル共有」を解除してください。

MacOS 9、MacOS X の場合

フォルダの情報を開いて所有権とアクセス権の項目から設定の変更が可能です。

Linux の場合

パーミッションの設定によるアクセス権の設定が可能です。chmod コマンドにて設定を変更することが可能です。

本製品の仕様によりls-alコマンドなどで表示されるパーミッション情報が実際と異なる場合がありますのでご了承ください。



ご注意：

WindowsXPhone、WindowsMe、Windows98 ではアクセス権を設定することはできませんが、他OSで設定されたアクセス権は有効になります。

ワークグループの設定

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「ネットワーク設定」-「Windows ネットワーク」を選択します。



1. [Windows ネットワーク]
を選択

2.Windows ネットワークを
使用するをチェック

Windows ドメイン

3. ワークグループ名を入力

4.[適用]ボタンをクリック

Windows ドメイン画面にて、[Windows ネットワークを使用する] にチェックを入れます。

[ワークグループ] 欄にワークグループ名を入力します。

[適用] ボタンを押します。

参考：

デフォルトでは、[ワークグループ] の欄に WORKGROUP と入力されています。

Windows ドメインへの参加

(全シリーズ共通)

本製品は、Windows 2000 / NT 4.0 ドメインを参照することができます。ドメインに参加するとドメインコントローラに登録されているユーザ、グループに対して本製品のアクセス権を設定することができます。

クライアントから本製品にアクセスしようとする、アカウントとパスワードの情報がドメインサーバに転送された後、検証され、結果が合格であれば、アクセスが許可されます。

 注意：

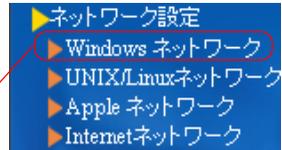
本製品はWindows 2003 Serverをドメインコントローラとする環境には対応していません。

2

Windows ドメインコントローラへのアクセス

設定方法

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「ネットワーク設定」-「Windows ネットワーク」を選択します。



1. [Windows ネットワーク] を選択

▶ Windows ドメイン

2. ドメイン名を入力

3. アカウント名、パスワードを入力

4. [適用] ボタンをクリック

Windows ドメイン画面にて、ドメイン名を入力します。

[アカウント名] に Windows ドメインコントローラの管理者 (Administrator) 名を入力します。

[パスワード] に Windows ドメインコントローラの管理者のパスワードを入力します。

[適用] ボタンを押します。

本製品とドメインコントローラに類似するアカウント、グループが存在する場合は情報の結合を促すメッセージが表示されますので「結合」を押します。

これで Windows ドメインへのアクセスが完了し、Windows ドメインに参加できました。

注意：

ユーザー登録可能数を越えるアカウントを登録しているドメインサーバへのアクセスはできません。この場合はドメインサーバのアカウント数を減らさないと、本製品を Windows ドメインへ参加させることはできません。

本製品のユーザ登録可能数は付録4をご参照ください。

Point ポイント：

1. 「NTドメインアカウントタブ」のアカウント情報を「ローカルアカウント」へ追加すると、Windowsドメインユーザーのパスワードをそのままローカルマシンに重複させることができなくなります。そうしたアカウントのパスワードは「ローカルアカウント」タブに手動で追加する必要があります。したがって、PDCに設定されているのと同じパスワードを設定するようにしてください。
2. アカウント/グループ名は最長20文字まで表示されます。アカウント情報をWindowsのドメインに追加すると、Windowsドメインコントローラで20文字を超えるアカウント/グループ名はNASサーバに重複されなくなります。警告メッセージが1つ表示され、重複したすべてのアカウントを知らせます。

UNIX/Linux ネットワークの設定

このオプションでは、サーバをNISドメインの一部にするかどうかを選択します。次の手順で選択を行ってください。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「ネットワーク設定」-「UNIX/Linux ネットワーク」を選択します。

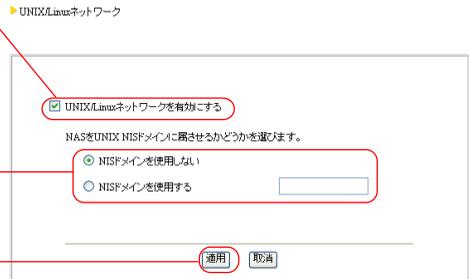


1. UNIX/Linux ネットワークを選択

2. UNIX/Linux ネットワークを有効にするをチェック

3. NISドメインの一部に設定するかどうかを選択し、設定する場合はドメイン名またはドメインサーバのIPアドレスを入力

4. [適用] ボタンをクリック



UNIX/Linux ネットワーク画面にて、[UNIX/Linux ネットワークを有効にする] にチェックを入れます。

NIS ドメインの一部に設定しない場合は [NIS ドメインを使用しない] を選択します。

NIS ドメインの一部にする場合は [NIS ドメインを使用する] を選択し、ドメイン名またはドメインサーバのIPアドレスを入力します。

[適用] ボタンを押します。

次ページの注意事項もご参照ください。

NISドメインに加えると、「セキュリティ設定」 - 「アカウント設定」に「UNIX NIS アカウント」という新しいタブが現れます。またすべての利用可能なユーザーアカウントがNIS サーバ上に表示されます。

 **注意：**

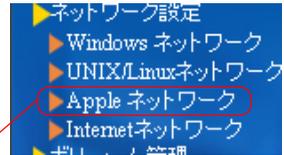
本 NAS サーバが NIS ドメインに参加している場合に、もし NIS サーバが使用不可になった場合、本 NAS サーバの起動に時間がかかる場合があります。

本 NAS サーバを再起動 / 電源投入する際には、NIS サーバが使用可能であることをご確認ください。

Apple ネットワークの設定

このオプションでは、Macintosh クライアントが AppleTalk および TCP/IP を使用している場合に、本 NAS サーバへアクセスする方法を設定します。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[ネットワーク設定] - [Apple ネットワーク] を選択します。



1. Apple ネットワークを選択

2. 通信プロトコルを選択します。Apple Talk を選んだ場合はサブネットと Apple Talk ゾーンを必要に応じて選択してください。

Apple ネットワーク

3. [適用] ボタンをクリック

Apple Networking 画面より通信プロトコルを「AppleTalk プロトコル」「TCP/IP プロトコル」から選択します。両方を選ぶことも可能です。AppleTalk を選択した場合、サブネットと AppleTalk ゾーンを必要に応じて選択します。

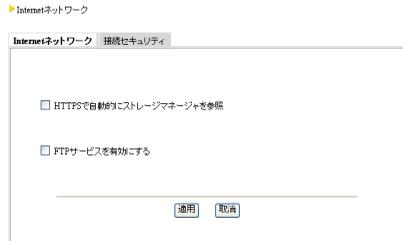
[適用] ボタンを押します。

インターネットネットワークの設定

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[ネットワーク設定] - [internetネットワーク]を選択すると、下のような設定画面が表示されます。



1. Internet ネットワーク
を選択



FTP サービス

FTPサービスを有効にするをチェックして[適用]ボタンを押すと、FTP プロトコルを利用してNASへアクセスすることができます。その場合、以下の手順を参考に接続セキュリティタグを開いてアクセス権限を必ず設定してください。

1. 接続セキュリティタグ
を選択

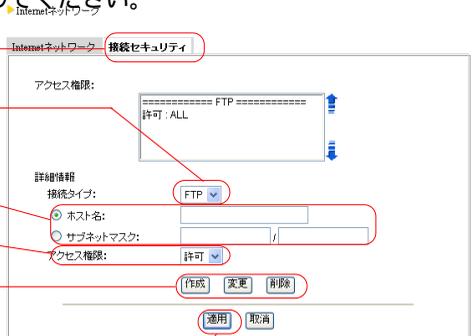
2. 接続タイプを選択

3. ホスト名またはサブ
ネットマスクを入力

4. アクセス権限を指定

5. 状況に応じて「作成」「変更」
「削除」をクリック

6. [適用] ボタンをクリック



接続セキュリティタグを選択します。

接続タイプを選択します。

制限をかけるホスト名または、サブネットマスクを入力します。

アクセス権限を指定します。

新たに設定する場合は「作成」ボタンを、修正した場合は「変更」ボタンを、削除する場合は「削除」ボタンを押します。

[適用] ボタンを押します。

Point ポイント：

FTPサービスは、セキュリティ上の理由から、rootアカウントおよび、パスワードが設定されていないユーザからのNASへのログインはできません。

HTTPSで自動的にストレージマネージャを参照

この機能はサポートしていません。

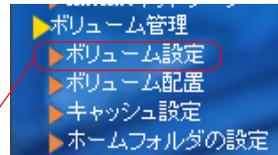
ボリューム管理

(LAS-1URANシリーズのみ)

本製品はすべての記憶領域を1つのRAID5ボリュームとして構成した形で出荷されています。ここでは、ボリュームの管理方法についてご説明します。

ボリューム設定

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[ボリューム管理]-[ボリューム設定]を選択すると、下のよう設定画面が表示されます。



1. ボリューム設定を選択

▶ ボリューム設定

2. [削除] ボタンをクリック

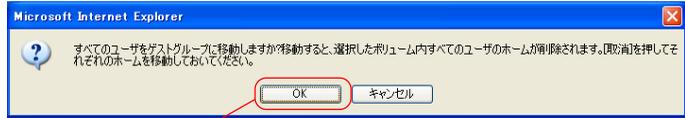


ボリューム設定画面が表示されます。出荷時設定から、設定を変える場合 [削除] ボタンを押して、現在のボリュームを削除します。既に新しいボリュームを作成可能な場合は上の画面で[作成] ボタンをクリックし、手順へお進みください。

3. [OK] ボタンをクリック



確認のメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。



4. [OK] ボタンを
クリック

既に、本製品内にデータを保存している場合、上のメッセージが表示されます。製品内のデータを削除しても問題ないことを確認して [OK] ボタンをクリックしてください。

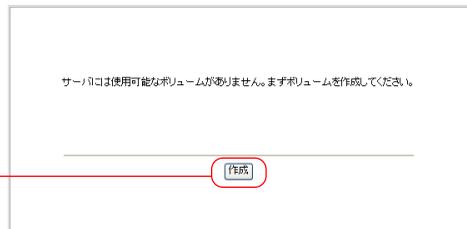
! ご注意 :

ボリュームを削除すると、そのボリューム内に存在するデータは、すべて消去されます。重要なデータがある場合は、必ずバックアップを取っておいてください。

また、ボリュームを削除することにより、作成したユーザアカウントはゲストグループに変更されます。

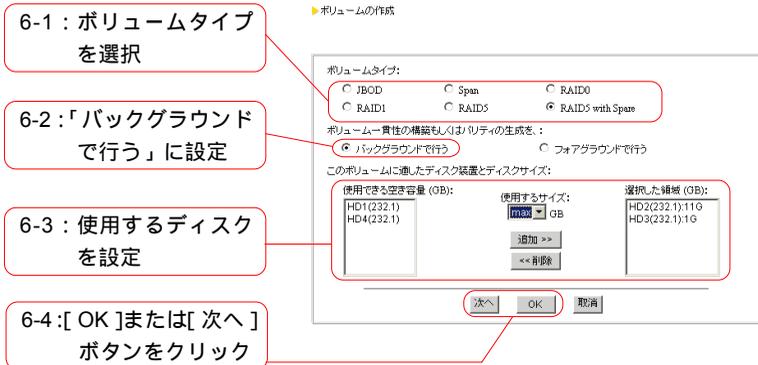
ユーザにホームフォルダを与えたい場合は、「ユーザアカウントの変更」を参照して、再度設定してください。

▶ ボリューム設定



5. [作成] ボタン
をクリック

削除が実行され、進行状況が画面に表示されます。ボリュームの削除が終了すると、上の画面が表示されます。[作成] ボタンをクリックしてください。



6-1 : ボリュームタイプ
を選択

6-2 : 「バックグラウンド
で行う」に設定

6-3 : 使用するディスク
を設定

6-4 : [OK] または [次へ]
ボタンをクリック

[ボリュームの作成] 画面が表示されます。

6-1 「ボリュームタイプ」を選択してください。(ボリュームタイプについては「付録1」をご参照ください)

6-2 ボリューム一貫性の構築もしくはパリティの生成を、「:」の項目を [バックグラウンドで行う] に設定します。

[フォアグラウンドで行う] を選択すると、ボリュームの作成が終わるまで、すでに存在しているボリュームへのアクセスができなくなります。

6-3 ボリュームの作成に使用するディスクを「使用できる空き容量 (GB)」の欄から選択し、サイズを指定して [追加] ボタンをクリックしてください。

間違ったディスクを追加した場合は、「選択した領域 (GB)」の欄でディスクを選択し、[削除] ボタンをクリックします。

6-4 設定が終わったら [OK] ボタンをクリックします。

一度に複数のボリュームを作成する場合は [次へ] ボタンをクリックします。

進行状況が表示され、終了すると、ボリューム設定画面に戻ります。以上でボリュームの作成は終了です。

手順 で [次へ] クリックした場合はボリューム作成画面に戻るので、続けて設定を行います。

Point ポイント：

- ・サポート可能なボリュームの最大数は、ハードディスクの搭載台数の1.5倍です。4台のハードディスクが搭載されている機種では、最大で6ボリュームまで設定可能です。ボリュームを作成、削除、修復した後に、それを有効にするためにサーバを再起動する必要はありません。
- ・サブディスク装置図の色にて現在のボリュームに設定されているディスク容量と状態を確認することができます。

青色：正常

赤色：クラッシュ(ハードディスクの故障)

オレンジ色：再構築中(リビルド時または、ボリューム作成中)

紫色：スペアディスク(RAID5+ スペア時)



ボリュームの再作成

(LAS-1URANシリーズ)

ディスク障害によりボリュームがクラッシュした場合、「ボリューム設定」画面の「状態」欄に「クラッシュ」と表示され、画面下に「再作成」ボタンが新たに表示されますので、このボタンをクリックして、該当ボリュームを復旧してください。

ご注意：

- ・再作成機能は、クラッシュしたボリュームの、構造のみ(共有フォルダとユーザーのホームフォルダ、デフォルトに設定されていた場合は、デフォルトのボリューム)再作成します。フォルダ内に保存されていたデータは復元できませんのでご注意ください。

また、ボリュームが1つしかない状態でボリュームがクラッシュすると、データだけでなく、フォルダ構造も失われ、ユーザーのアカウントはすべて guests グループに移動します。

ボリュームの修復

(LAS-1URAN シリーズ)

RAID1、RAID5、ホットスベア搭載RAID5に設定されているボリュームの場合にボリュームに使用しているいずれかのセグメントに破損が起きますと、「ボリューム設定」画面の状態欄に「劣化」と表示され、「修復」ボタンが画面内に表示されます。

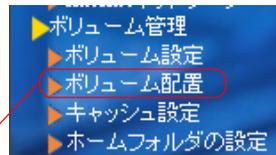
「修復」ボタンをクリックすると、サーバ内の使用可能なハードディスクの空き容量を検索し、そのディスクに障害が発生したディスクのデータを書き込みます。

！ ご注意：

- ・ボリュームの修復では破損したボリュームを作成したハードディスクを選択することはできません。

ボリューム配置

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[ボリューム管理]-[ボリューム配置]を選択すると、下のよう画面が表示されます。



1. ボリューム配置を選択

ボリューム配置

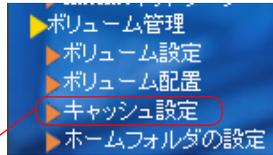
名前	ボリュームタイプ	状態	合計サイズ (GB)	使用中 (GB)
Volume1	RAID 5	正常	162.27	1.62
HD1:	[Progress Bar]			合計 232.18 GB
HD2:	[Progress Bar]			合計 232.18 GB
HD3:	[Progress Bar]			合計 232.18 GB
HD4:	[Progress Bar]			合計 232.18 GB
未割当領域: 合計 708.74 (GB)				

この画面では設定しているボリュームが、ハードディスク内にどのように配置されているかが表示されます。

キャッシュ設定

(LAS-1URAN シリーズのみ)

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[ボリューム管理]-[キャッシュ設定]を選択すると、下のよう画面が表示されます。



1. キャッシュ設定を選択

▶ キャッシュ設定

2. 必要に応じてチェックを入れます

2. チェックした場合、ボリュームを選択します

4. [適用]ボタンをクリックします



必要に応じて「RAID 5 キャッシュ サポートをオン」にチェックを入れます。

有効にするボリュームを選択します。

[適用] ボタンをクリックします。

⚠️ ご注意：

- ・「RAID5キャッシュサポートをオン」に設定した場合、ハードディスクの読み書き性能が向上し、パリティ作成が高速に行われるようになります。

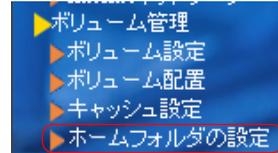
ただし、瞬停等により不意に電源が落ちるとデータを失う場合がありますので、UPS を使用した上で設定することをお勧めします。

ホームフォルダの設定

(LAS-1URAN シリーズのみ)

このページではusersグループに登録されたアカウントのホームフォルダを保存するボリュームを変更することができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、[ボリューム管理]-[ホームフォルダの設定]を選択すると、下のような画面が表示されます。



1. ホームフォルダの設定を選択

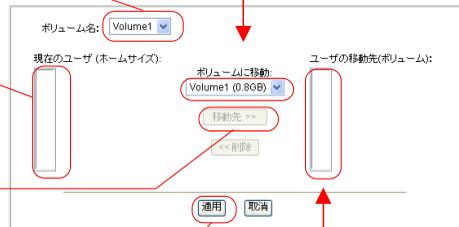
4. 移動先のボリュームを指定

2. ボリュームを選択

3. 移動するホームフォルダを選択

5. [移動先] ボタンをクリック

7. [適用] ボタンをクリック



6. この欄に内容が反映されます。

ボリュームを選択します。

「現在のユーザー」欄に、そのボリュームにあるユーザーのホームフォルダの一覧が表示されるので、フォルダを移動させるユーザーを選択します。

移動先のボリュームを指定します。

[移動先] ボタンをクリックします。

「ユーザーの移動先」欄に内容が反映されます。

[適用] ボタンをクリックします。

Point ポイント：

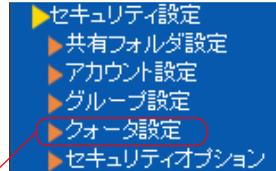
- ・多数のアカウントを1つのボリュームに保存していると、ボリュームの負荷が過大になったり、空き容量が不足する場合があります。このような場合、ホームフォルダの設定から、ユーザーのホームフォルダを複数のボリュームに分散させることで、負荷の集中を低減させることができます。

ディスク割当の設定

ディスク割当の設定では、ユーザー別またはボリューム別で使用可能な最大ディスク容量を設定することができます。設定は以下の手順で行います。

ユーザー別で設定する場合

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「クォータ設定」を選択します。



1. クォータ設定を選択

2. [ユーザークォータ] タブを選択

3. 設定するユーザー名を選択

4. ボリュームを選択

5. ユーザーに割り当てる容量を設定します。

6. [設定 >>] をクリック

7. [適用] ボタンをクリック



この部分に設定内容が反映されます

ディスククォータの設定画面に切り替わります。[ユーザークォータ]タブが選択されていることを確認してください。

ユーザー名のプルダウンメニューから設定したいユーザー名を選択します。左側の現在[使用されている/ディスククォータ](MB)で、選択したユーザーが使用しているボリュームを選択します。

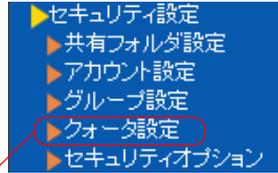
[新しいディスククォータの設定]のラジオボタンにチェック()を入れ、テキストボックスに割り当てる容量を入力するか、[無制限]ラジオボタンにチェック()を入れて、そのボリュームでユーザーが使用できる容量を設定します。

[設定 >>] ボタンをクリックします。新しいディスク割当の欄に設定内容が反映されます。

[適用] ボタンをクリックします。

ボリューム別で設定する場合

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「クォータ設定」を選択します。



1. クォータ設定を選択

2. [ボリュームクォータ]タブを選択

ディスククォータの設定

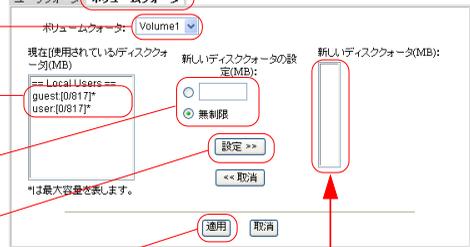
3. 設定するボリュームを選択

4. ユーザーを選択

5. ボリューム内のユーザーに割り当てる容量を設定します。

6. [設定 >>] をクリック

7. [適用] ボタンをクリック



この部分に設定内容が反映されます

ディスククォータの設定画面に切り替わります。[ボリュームクォータ]タブが選択されていることを確認してください。

ボリュームクォータのプルダウンメニューから設定したいボリュームを選択します。

左側の現在[使用されている/ディスククォータ] [MB] で選択したボリュームにホームフォルダを持つユーザーを選択します。

[新しいディスククォータの設定] のラジオボタンにチェック () を入れ、テキストボックスに割り当てる容量を入力するか、[無制限] ラジオボタンにチェック () を入れて、選択したユーザーがそのボリューム内で使用できる容量を設定します。

[設定 >>] ボタンをクリックします。新しいディスク割当の欄に設定内容が反映されます。

[適用] ボタンをクリックします。

Point ポイント：

もし設定を間違った場合には、[適用] ボタンを押す前に [<< 取消] をクリックしてください。

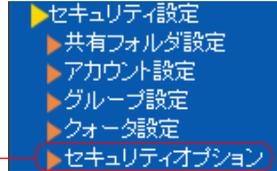
guest ユーザーのデフォルト設定値は無制限です。また新規登録したユーザーのデフォルト値も無制限です。

ボリュームを作成することで、ボリュームごとの容量制限を設定することができます。

セキュリティオプション

セキュリティオプションでは、今後新たに作成される共有フォルダと、ユーザーアカウントのデフォルト値の設定を行います。設定は以下の手順で行います。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「セキュリティ設定」-「セキュリティオプション」を選択します。



1. セキュリティオプションを選択

2

▶ セキュリティオプション

2. 新規フォルダおよび新規アカウントのデフォルト値を設定

 The screenshot shows the 'セキュリティオプション' (Security Options) configuration page. It has two main sections:

- 新たに作成したフォルダのデフォルト設定** (Default settings for newly created folders):
 - everyoneの権限: 書き込み可能(RW) 読み取り専用(RO) アクセス権なし
 - UNIX/Linux設定: 書き込み可能(RW) 読み取り専用(RO) アクセス権なし
- 新たに作成したアカウントのデフォルト設定** (Default settings for newly created accounts):
 - デフォルトグループ: users guests
 - デフォルトディスククォータ: MB
 - ユーザーのホームボリューム: (dropdown menu)

 At the bottom, there are two buttons: [適用] (Apply) and [取消] (Cancel). The [適用] button is circled in red.

3. [適用]ボタンをクリック

[新たに作成したフォルダのデフォルト設定] および「新たに作成したアカウントのデフォルト設定」を行います。設定内容については次ページのポイントをご参照ください。
設定後 [適用] ボタンを押します。

設定内容については次ページのポイントをご参照ください。

Point ポイント

・[新たに作成したフォルダのデフォルト設定] は以下の様に行います。

1. everyone に以下の権限 : 書込み可能 読取り専用
アクセスなし

新規に作成されるフォルダに対して、Windows、Macintosh の各ユーザーがデフォルトで書込み許可(「書込み可能」)か、書込み禁止(「読取り専用」)とするか、アクセス不可(「アクセスなし」)とするかを設定します。

2. UNIX/Linux 設定 : 書込み可能 読取り専用
アクセスなし

新規に作成されるフォルダのLinuxでのアクセス権限に関してのデフォルト値を、書込み許可(「書込み可能」)か、書込み保護(「読取り専用」)とするか、アクセス不可(「アクセスなし」)とするかを設定します。

・[新たに作成したアカウントのデフォルト設定] は以下の様に行います。

1. デフォルトグループ : users guests
新規ユーザーを、デフォルトでどのグループに属させるかを設定します。また新規ユーザーに、ユーザー名と同じホームフォルダを持たせたい場合には「users」を選び、ホームフォルダを持たせたくない場合には「guests」を選びます。
2. デフォルトディスククォータ : _____MB 無制限
この設定により、新たにユーザーに設定する記憶領域の最大値を制限することができます。また無制限に設定することもできます。
3. ユーザーのホームボリューム :
新たに設定するユーザーのホームフォルダをどのボリュームに作成するかを設定します。

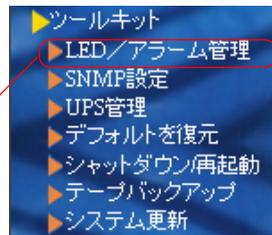
LED/アラーム管理

(LAS-1URAシリーズのみ)

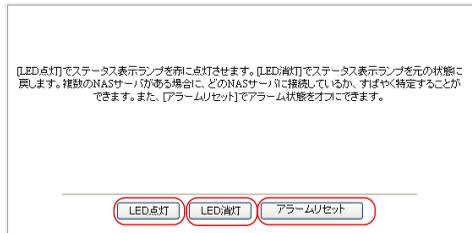
LED/アラーム管理画面では、本製品前面のシステム状態ランプの点灯・点滅ができる他、本製品の電源ユニットに何らかの異常が発生した場合になる警報音をオフにできます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより、「ツールキット」→「LED/アラーム管理」を選択します。

1. LED/アラーム
管理を選択



▶ LED/アラーム管理



上の画面が表示されますので、必要に応じて[LED点灯] [LED消灯] [アラームリセット] の各ボタンをクリックします。

Point ポイント：

- ・同一ネットワーク上に複数のNASサーバがある場合、この管理画面からシステム状態ランプを点灯・点滅させて、どのNASサーバに接続しているかを確認することができます。

UPS 管理

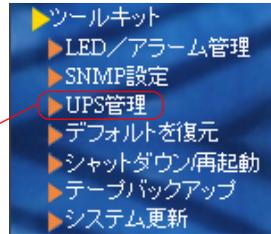
UPS 管理は制御方法により設定が異なります。次にご説明する手順より、該当する管理方法をご参照ください。

シリアルポートで UPS を制御

本製品の電源コードを UPS に接続します。

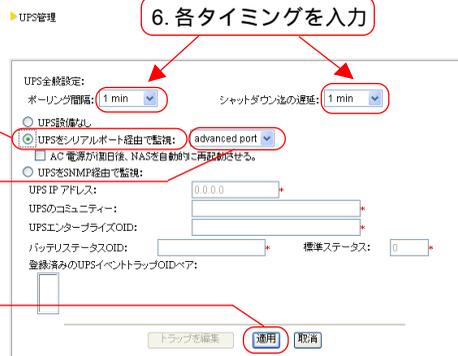
本製品のシリアルポートと UPS のシリアルポートを接続します。

UPS、本製品を稼働後、ストレージマネージャで[ツールキット]-[UPS 管理] を選択します。



3. UPS 管理を選択

2



4. UPS をシリアルポート経由で監視を選択

5. [advanced port] を選択します。

7. [適用] ボタンをクリック

6. 各タイミングを入力

UPS 管理画面で [UPS をシリアルポート経由で監視] を選択します。

[advanced port] を選択します ()。

[UPS 全般設定] で [ポーリング間隔] と [シャットダウン迄のデレイ] のタイミングを入力します。

[適用] ボタンを押します。

advanced port を選択するには、本製品の電源ケーブル、UPS ケーブル共に直接 UPS に接続されている必要があります。

! 注意：

UPSの設定を行った場合、シリアルケーブルでUPSとNASサーバが接続されていることを確認してください。接続されていないとNASサーバが起動後、自動的にシャットダウンしてしまいます。

Point ポイント：

ポーリング間隔

UPS に対しての問い合わせの間隔を意味します。

シャットダウン迄のディレイ

UPSがバッテリー駆動に移行したことを確認してから、NASをシャットダウンするまでの遅延時間を意味します。

advanced port、basic port

advanced portは、システムがUPSを検出できないときに、自動レスポンスを提供します。ベーシックポートにはこの機能がありません。UPSに拡張ユニットが増設されていて、拡張ユニットとNASを接続する際に、basic portを選択します。

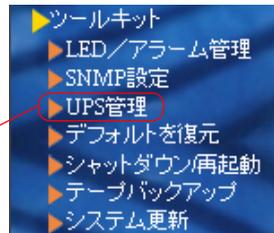
SNMPでUPSを制御

SNMPとはTCP/IPネットワークにおいて、ネットワークに接続された通信機器を監視・制御するためのプロトコルです。このプロトコルを利用してUPSの制御を行うには以下の手順で設定を行います。

本製品の電源コードをUPSに接続します。

UPSをネットワークに接続します。

UPS、本製品を稼動後、ストレージマネージャで[ツールキット]-[UPS管理]を選択します。



3. UPS管理を選択

UPS管理

4. UPSをSNMP経由で監視を選択

5. [UPS IP アドレス]
[UPSのコミュニティー]
[UPS エンタープライズ
OID]を入力

6. 「バッテリーステータス
OID」、「標準ステータス」を
入力

UPS 管理画面で [UPS を SNMP 経由で監視] を選択します。

[UPS IP アドレス] と [UPS のコミュニティー] [UPS エンタープライズ OID] を入力します。()

「バッテリーステータスOID」、「標準ステータス」を入力します。

()

これらの値について分からない場合、この項目の最後の「各項目の説明」をご参照ください。

▶ UPSイベントトラップ管理

7. [イベント OID の始点]
[イベント OID の終点]
を入力

8. [トラップペア追加]
ボタンをクリック

9. [閉じる] ボタンを
クリック

「UPS event trap OID pairs」の登録

SNMP 機能を搭載したUPS には通常trap 機能が装備されています。trap 機能は予定した検査信号を待たずに UPS ステータスの異常を検出するのに使用します。

UPS 管理画面で [trap を編集] をクリックして、UPS の event trap OID を追加または削除します。

[event OID の始点] に「臨界イベントトラップOID」を入力し、
[event OID の終点] に [トラップOID] を表す情報を入力します。

入力後 [trap pair を追加] ボタンを押します。

「閉じる」ボタンを押すと、UPS 管理画面に戻るので [適用] ボタンをクリックします。

次の「各項目の説明」もご参照ください。

各項目の説明

[UPS IP アドレス] と [UPS のコミュニティー]

SNMP 機能搭載 UPS に IP アドレスが設定されます。その IP アドレスをそれぞれの列に入力します。UPS ターミナルの SNMP ユーザーインターフェイスにそれぞれの Community が登録されます。

それぞれ1つかそれ以上のホスト名と IP アドレスが表示されます。表示されたホストは UPS から情報を読み取ることができ、その内容を確認できます。SNMP から UPS を制御したいときは、一覧表示されたコミュニティーのどれか1つに本製品を登録し、そのコミュニティーの名前を [UPS コミュニティー] 入力欄に入力します。

[UPS エンタープライズ OID]

この設定は UPS の MIB ファイルに保存されています。UPS が SNMP アクセスをサポートされている場合は、そのメーカーが MIB ファイルを用意しているはずですが、必要な場合はメーカーのウェブサイトからダウンロードします。ファイルに「一般企業番号」が記載されているはずですが、APC 社の「Private Enterprise Number」は 318 です。したがって、このフィールドの値が 1.3.6.1.4.1.318 となります。ここで 1.3.6.1.4.1 は静的な値であり、変更してはいけません。HP OpenView などの SNMP プログラムで MIB ファイルを参照し、「Private Enterprise Number」を検索することもできます。

[バッテリーステータス OID]

この設定は MIB ファイルに保存されている「バッテリーステータス OID」に該当します。APC 社の UPS の値は 1.3.6.1.4.1.318.1.1.1.2.1.1 です。この値を入力するか、または APC 製品を使用する場合は短縮形の 1.1.1.2.1.1 を入力します。

[標準ステータス]

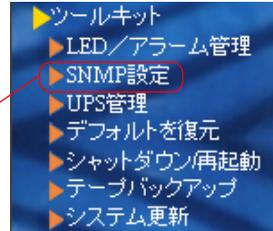
MIB ファイルから取得する「バッテリーステータス OID」(上記参照) はステータスの番号を表します。たとえば、2 は「標準」、1 と 3 はそれぞれ「不明」と「放電」を表します。上記の項目 4 と 5 の値を入力した場合は、上記で選択した間隔で UPS が検査されます。バッテリーステータスの異常が認められると、入力された遅延時間が経過した後でコンピュータがシャットダウンします。

SNMP 環境設定

SNMP アクセスを許可する

ストレージマネージャで[ツールキット]-[SNMP設定]を選択します。

1. SNMP 設定を選択



2. [SNMPアクセスを許可]をチェック

3. [システムの保存場所]に本製品の場所を入力

4. [適用]ボタンをクリック



SNMP 環境設定の画面が表示されます。ここで、[SNMPアクセスを許可]のチェックボックスにチェックを入れます。

[システムの保存場所]に本製品の場所を入力します。

[適用]ボタンを押します。

参考：

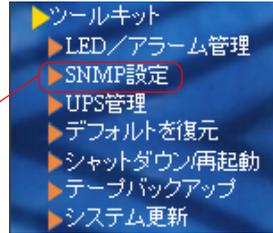
[アクセス権限]横のテキストボックスには、以下の3つの内容が登録されます。

本製品の属する Community。これはシステム管理者が選択します。
その Community のホストまたはサブネット。

SNMP 経由でのコミュニティのホストまたはサブネットのアクセス権限です。

SNMP アクセス権限を追加する

ストレージマネージャで[ツールキット] - [SNMP 設定] を選択します。



1. SNMP 設定を選択

▶ SNMP設定

 A screenshot of the 'SNMP設定' (SNMP Settings) dialog box. It has a checked checkbox for 'SNMPアクセス許可' (SNMP Access Permission). Below it, 'システムの保存場所:' (System Save Location) is set to 'Unknown'. The 'アクセス権限:' (Access Permissions) field contains 'private localhost-writeable' and 'public 192.168.1.0/255.255.255.0-readonly'. At the bottom, there are buttons for '削除' (Delete), '作成' (Create), '適用' (Apply), and '取消' (Cancel). The '作成' button is circled in red.

2. [作成] ボタンをクリック

SNMP 環境設定の画面で、[作成] ボタンを押します。

3. コミュニティ - 名、およびそのコミュニティ に属するホストまたはサブネットマスクを選択

4. [読み取り専用] または、[書込み可能] に設定

5. [OK] または、[次へ] ボタンをクリック

▶ SNMP設定

 A screenshot of the 'SNMP設定' (SNMP Settings) dialog box, showing the '新規アクセス権限:' (New Access Permissions) section. The 'アクセス権限:' field contains 'public 192.168.1.0/255.255.255.0-readonly' and 'private localhost-writeable'. The 'コミュニティ名:' (Community Name) field is empty. The 'ホスト名:' (Host Name) and 'サブネットマスク:' (Subnet Mask) fields are also empty. The 'SNMPアクセス権限:' (SNMP Access Permissions) dropdown is set to '読み取り専用' (Read-only). At the bottom, there are buttons for '次へ' (Next), 'OK', and '取消' (Cancel). The '次へ' button is circled in red.

SNMP 環境設定の新しいダイアログが現われます。[新規アクセス権限] の欄に、コミュニティ名、およびそのコミュニティに属するホストまたはサブネットを入力します。

[SNMP アクセス権限] を、[読み取り専用] または [書込み可能] に設定します。(次ページのポイント参照)

[OK] ボタンを押すと設定内容が反映されます。[次へ] ボタンを押して、別のアクセス権限を追加することもできます。

SNMP アクセス権限の削除

SNMP アクセス権限を削除するには、[アクセス権限] からオプションを選択し(複数選択はCtrl、連続選択はシフトキーを使用)、[削除] をクリックします。

SNMP アクセス権限の修正

既存のアクセス権限を修正するには、[アクセス権限] からオプションを選択、削除し、新しいアクセス権限を追加します。

Point ポイント：SNMPのアクセス権限について

「読取り専用」とは、
コミュニティのホストにSNMPによる情報の読取りだけを許可することを表します。

「書き込み可能」とは、
コミュニティのホストに一部の読取り書き込みフィールドの修正を許可することを表します。OK をクリックして確定するか、または[次へ] で別のアクセス権限を追加します。

 参考：

SNMP (Simple Network Management Protocol) とは、TCP / IP ネットワークにおいて、ルータやパソコン、端末など、ネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。

SNMP アクセス権限を設定しておけば、SNMP 機能搭載UPS がこのプロトコルを利用して本製品を監視し不意の電源切断に備えるという設定ができるようになります。

 参考：「コミュニティ名」とは

SNMP で管理しているグループの名前です。

工場出荷時への戻し方

本製品では、どの設定についても出荷時の初期値に復元したり、システムに設定されているすべてのユーザー設定やデータを削除することができます。

ストレージマネージャで[ツールキット]-[デフォルトを復元]を選択します。

1. デフォルトを復元
を選択



▶デフォルトを復元

2. 復元レベルを選択

デフォルトを復元する項目を選択してください。選択された項目が出荷時設定に初期化されます。

- NASの基本設定を復元(基本設定、コードページ、通知設定)
- すべての共有フォルダと内部ファイル削除
- すべてのユーザー、グループ、共有フォルダ、ユーザーのホームフォルダと内部ファイルを削除
- NAS出荷時状態にもどす。(すべてのデータを削除)
- システムログの内容を移行(推奨)

3. [適用] ボタンをクリック

[適用]

用途に合わせて復元レベルを選択します。(復元レベルは次ページを参考にしてください。)

「適用」ボタンを押します。

! ご注意：

- ・ネットワーク設定をクリアした場合、ネットワークにDHCPサーバがない環境では終了画面(ログイン画面)が表示されません。10分ほどしてからブラウザを閉じLogitech NAS Assistantで再度検出しネットワーク設定を行ってください。
- ・完全に終了するまでは電源を切らないようにしてください。ハードディスクへのアクセスランプが点滅から点灯のみに変わった場合は、初期化が終了しています。
- ・選択したすべての設定が初期値と置き換わるか、または削除されます。このオプションをご使用の際は十分ご注意ください。詳しくは次ページの表をご覧ください。

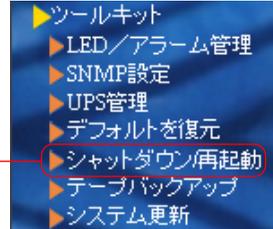
	サーバーの環境設定を復元	すべての共有フォルダと各内部ファイルを削除	すべてのユーザー、グループ、共有フォルダ、ユーザーのホームフォルダと内部ファイルを削除	出荷時に戻す	
ネットワーク設定	システム管理者パスワード			password	
	IPアドレス/ サブネットマスク 1	DHCPより取得		DHCPより取得	
	ドメイン名	DHCPより取得		DHCPより取得	
	DNSサーバ	DHCPより取得		DHCPより取得	
	デフォルトゲートウェイ	DHCPより取得		DHCPより取得	
	サーバ名			LogitecNAS	
	時刻				
	タイムゾーン	UTC+9:00 Tokyo...			UTC+9:00 Tokyo...
	通知メールSMTPサーバ	未設定			未設定
	通知メールアドレス	未設定			未設定
	ワークグループ			WORKGROUP	WORKGROUP
	ドメイン(Windows)			未設定 (ドメイン/NT_PDCホスト名)	未設定 (ドメイン/NT_PDCホスト名)
	WINSサーバ				
	ログ	システムログ			2
StorageManagerログ				2	
接続ログ				2	
共有情報	アカウント		削除 3	削除 3	
	グループ		削除 4	削除 4	
	Public1内のデータ		削除 5	削除 5	
	共有フォルダ/内部データ		削除 5	削除 5	
	homeフォルダ/内部データ		削除	削除	
	ディスク割り当ての設定			出荷時状態に戻る	出荷時状態に戻る
	セキュリティオプション値	出荷時状態に戻る			出荷時状態に戻る

- 1 LAN2、LAN3 含む
 - 2 「システムログの内容は残す」のチェックボックスを外すことにより削除ができます。
 - 3 root、guest は消えません。
 - 4 admins、users、guests は消えません。
 - 5 public1 フォルダ自体は消えません。
- NAS の設定内容は変化しません。

シャットダウン/再起動

以下の手順で本製品をシャットダウンまたはリポートします。

ストレージマネージャで[ツールキット]-[シャットダウン/再起動]を選択します。



1. シャットダウン/
再起動を選択

▶ シャットダウン/再起動

2. シャットダウン/再起動
を開始するまでの待ち
時間を指定



3. [シャットダウン] または
[再起動] ボタンをクリック

必要に応じて、シャットダウン/再起動する時間を指定します。
[シャットダウン] または [再起動] ボタンを押します。

⚠️ ご注意：

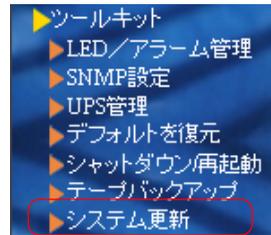
正常なシャットダウンを行わずに電源を切断した場合、データが破損する可能性があります。

正常なシャットダウン手順以外での電源OFFは絶対に行わないでください。

サーバの設置場所を移動する時などには、本製品の電源ランプが消灯（サーバの動作が完全に停止）してから行ってください。

システムの更新

本製品のシステムの更新を行います。更新方法については更新ファイルに添付のマニュアルにてご確認ください。



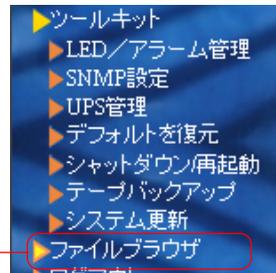
2

ファイルブラウザ

共有フォルダに保存されたファイルを確認できます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより「ファイルブラウザ」を選択します。

1. ファイルブラウザ
を選択



別ウインドウが開き、共有フォルダとその中のファイルが確認できます。また、ファイル名をクリックすることによりファイルをダウンロードすることが可能です。

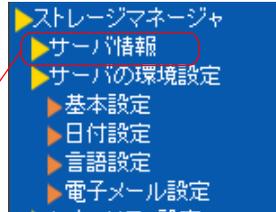
管理者にアクセス権限のないフォルダとhomeフォルダは表示されません。

サーバ情報の確認

現在の本製品の情報を知ることができます。

ブラウザ左側のストレージマネージャのメニューより「サーバ情報」を選択します。

1. サーバ情報を選択



タグ

全般 | 設定 | ステータス | システムログ | パッチの記録 | 著作権・商標について

システムのバージョン:	2.0.8 - 1.0221
リリース日:	Wed Jul 2 22:01:42 CST 2003
システム提供会社:	Logitec Corp.
MACアドレス:	00:60:e0:80:22:db, 00:60:e0:80:22:de, 00:60:e0:02:43:e1

各タブを選択すると画面内に以下の情報が表示されます。

「全般」タグ

本製品のシステムのバージョンや本製品ネットワークのMACアドレスが確認できます。

「設定」タグ

本製品に登録されたネットワーク情報が確認できます。

「ステータス」タグ

本製品のCPUの温度、接続、ディスクの状態が確認できます。詳細はブラウザ右側のヒントを参照ください。

「システムログ」タグ

本製品の動作履歴を確認できます。サポート時に弊社テクニカルサポートよりお問い合わせする場合がございます。

「パッチの記録」タグ

本製品のファームウェアのアップデート履歴が表示されています。

「著作権・商標について」タグ

本製品の著作権 / 商標に関する表記です。

第3章 バックアップ

本章では、データのバックアップ方法についてご説明します。
データのバックアップを行う方法は、以下の3通りの方法があります。

- ・本製品に SCSI のテープドライブを接続し、ストレージマネージャよりNASのシステム情報、データをテープドライブにバックアップする方法。
- ・LogitecNAS Backup ツールを使用し、NAS のシステム情報、データをクライアントパソコンのローカルハードディスクまたは、LAN上に接続されている他のパソコンへバックアップを行う方法。
- ・LogitecNAS Client Backupツールを使用し、クライアントパソコンのデータを NAS にバックアップする方法。

NAS のデータおよび設定のバックアップ

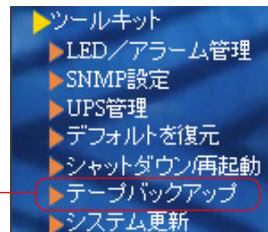
NASのデータおよび設定のバックアップは、テープドライブを使用する方法と、LogitecNAS Backup ツールを使用する方法があります。ここでは、それぞれの方法について順番に説明します。

1. テープバックアップによるバックアップ手順

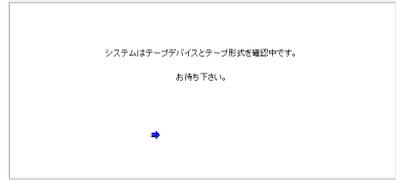
バックアップ手順

ストレージマネージャで [ツールキット]-[テープバックアップ]を選択します。

1. テープバックアップ
を選択



テープドライブの検索画面が表示されます。



テープドライブとテープ形式の確認が終了すると、以下の画面に切り替わります。

- ・バックアップデータの書き込み方法
- ・バックアップオプション
- ・テープ圧縮

の各項目（下記参照）を設定し、[次へ] ボタンを押してください。

テープバックアップ

テープバックアップ | ローカルテープの復元

テープ情報:
 テープラベル: NAS_Backup
 フォーマット時間: 2003/09/05 08:36:37

バックアップデータの書き込み方法を選択:
 元のデータを置き換え
 テープの最後にデータを追加

バックアップオプション:
 完全バックアップ
 テープ圧縮を有効にする

[次へ]

1. 書き込み方法を選択
2. バックアップオプションを選択
3. 圧縮する場合はチェックを入れます
4. [次へ]をクリック

バックアップデータの書き込み方法

「元のデータの置き換え」

- ・この項目を選択するとテープドライブに保存されているデータをすべて削除し、バックアップを行います。

「テープの最後にデータを追加を選択」

- ・この項目を選択するとテープドライブに保存されている最後のデータの後ろへバックアップを行います。

バックアップオプション

- ・はじめの一回は、完全バックアップを選択してください。
- ・完全バックアップを行わないと、差分（増分）バックアップのメニューは現れません。

テープ圧縮を有効にする

このチェックボックスにチェックを入れておくと、バックアップの際、圧縮されたデータがテープに書き込まれます。

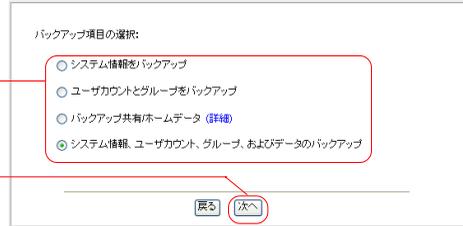
以下の画面が表示されます。バックアップする項目を選択し、[次へ] ボタンをクリックしてください。

項目の内容については次ページの「ポイント」をご参照ください。

▶ テープバックアップ

1. バックアップ項目を選択

2. [次へ] をクリック



以下の画面が表示されます。設定内容を確認し、バックアップファイルの説明を入力する場合は、「バックアップの詳細」欄に、テープにラベルをつける場合は「テープラベル」欄にそれぞれ入力し、[バックアップ開始] ボタンを押してください。

▶ テープバックアップ

1. 設定内容を確認

2. バックアップファイルの説明を入力

3. テープラベルを入力

4. [バックアップ開始] をクリック



バックアップが開始されます。バックアップ中は右の画面が表示されます。

▶ テープバックアップ



バックアップが完了すると、右の画面が表示されます。[終了] ボタンを押してください。

▶ テープバックアップ

バックアップサマリー:	
バックアップ結果:	バックアップ成功
合計のテープカウント:	1
テープラベル:	NAS_Backup
バックアップの資料:	Backup1
バックアップ開始時間:	2003/09/05 10:59:50
バックアップ終了時間:	2003/09/05 11:00:54
バックアップされた合計MB:	1MB以下
書き込み方法:	元のデータ置き換え
バックアップオプション:	完全バックアップ
バックアップ項目:	システム情報、ユーザアカウント、グループ、およびデータのバックアップ
圧縮:	有効

[終了] をクリック

終了

Point ポイント

データのバックアップとリストアは以下のような4種類のデータについて行うことができます。

1. システム情報をバックアップ：
データ、言語、通知設定などをバックアップ/リストアできます。
2. ユーザーアカウントとグループをバックアップ：
すべてのユーザーアカウントとユーザーグループの設定などをバックアップ/リストアできます。
3. バックアップ共有/ホームデータ：
ユーザーアカウント、ユーザーグループ、すべての共有フォルダに保存されているデータ、ユーザーのhomeフォルダに保存されているデータなどをバックアップ/リストアできます。
4. システム情報、ユーザーアカウント、グループ、データ
上記1項と3項の内容をバックアップ/リストアできます。

ヒント

上記2～4を選択してバックアップを行う場合、データのバックアップ中にNASサーバがWindowsドメインに属している場合は、Windowsのドメイン情報(ドメイン名、PDC名、PDCに持つアカウント)も同時にバックアップすることができます。したがって、NASサーバにデータを復元する場合は、ドメイン情報とすべてのドメインユーザーのファイルも一緒に復元され(2の場合はドメイン情報のみ復元)、本NASサーバがWindowsドメインに統合されます。

バックアップ内容を確認するには

前回行ったバックアップの内容は以下の手順にて確認することができます。

1. バックアップを行うと以下のように画面上に（前回のバックアップオプションサマリー）という表示があらわれます。

▶ テープバックアップ

テープバックアップ | ローカルテープの復元

テープ情報:
テープラベル: NAS_Backup
フォーマット時間: 2003/09/05 10:59:51

バックアップデータの書き込み方法を選択:
 元のデータを置き換え
 テープの最後にデータを追加

バックアップオプション:
 完全バックアップ
 増分バックアップ (前回のバックアップオプションサマリー)
 テープ圧縮を有効にする

次へ

この表示をクリックして確認!

2. (前回のバックアップオプションサマリー) をクリックすると書き込み方法、クアアップオプション、圧縮、バックアップ項目、バックアップ日、バックアップの詳細、テープラベルの情報を確認することができます。

増分バックアップについて

増分バックアップを行うためには、前項の「バックアップ手順」に従って最初に完全バックアップを行っておく必要があります。

完全バックアップを行った後、ストレージマネージャより「テープバックアップ」を選択すると、「バックアップオプション」の部分に「増分バックアップ」という項目が追加されます。

[テープの最後にデータを追加][増分バックアップ]をそれぞれ選択して、必要に応じて[テープ圧縮を有効にする]にチェックを入れて、[次へ]ボタンを押してください。

▶テープバックアップ

テープバックアップ ローカルテープの復元

テープ情報:
 テープラベル: NAS_Backup
 フォーマット時間: 2003/09/05 10:59:51

バックアップデータの書き込み方法を選択:
 元のデータを置き換え
 テープの最後にデータを追加

バックアップオプション:
 完全バックアップ
 増分バックアップ (前回のバックアップオプションサマリー)
 テープ圧縮を有効にする

[次へ]

1. [テープの最後にデータを追加]を選択
2. [増分バックアップ]を選択
3. [次へ]をクリック

[バックアップの詳細]欄にファイルの説明を入力し[バックアップ開始]ボタンを押してください。前回のバックアップより、追加/変更されたデータのみテープデバイスへバックアップされます。

▶テープバックアップ

バックアップサマリー:

書き込み方法: テープの最後にデータを追加
 バックアップオプション: 増分バックアップ
 圧縮: 有効
 バックアップの詳細: Backup-1

[戻る] [バックアップ開始]

1. バックアップファイルの説明を入力
2. [バックアップ開始]をクリック

テープデバイスからのリストア

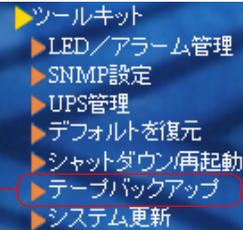
Point ポイント：

保存されている項目(データ)が複数のテープにまたがっている場合、正しく復元を行うために、バックアップを行った順番にテープを挿入する必要があります。

差分バックアップを行った場合、一番最後に行ったバックアップデータ(差分ファイル)を選択することにより、すべてのデータを復元することができます。

ストレージマネージャで [ツールキット]-[テープバックアップ] を選択します。

1. テープバックアップ
を選択



3

テープドライブの検索が行われ、バックアップ画面が表示されたら、[ローカルテープの復元] タグを選択し、画面左側のリストから、リストアするファイル名を選択し、[次へ] ボタンを押してください。

1. [ローカルテープの復元]
タグを選択

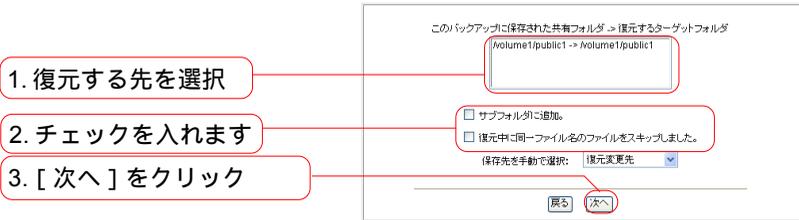
2. リストアするファイル
を選択

3. [次へ] をクリック



復元する先を選択し、[サブフォルダに追加][復元中に同一ファイル名のファイルをスキップ]をそれぞれチェックして[次へ]ボタンをクリックしてください。自動的にリストアが開始されます。

▶ ローカルテープの復元



! ご注意 :

フルバックアップを行ったファイルを消してしまった場合には、復元できませんので注意してください。

2.LogitecNAS Backup によるバックアップ手順

(Windows のみ)

LogitecNAS Backup タブではNAS サーバ上のデータをローカルディスク上にバックアップするバックアップ機能とバックアップされたファイルから、NAS サーバ上にデータを戻す復元 (リストア) 機能があります。

バックアップの方法は、任意で行うバックアップと (通常のバックアップと呼びます) Windows のタスクに登録して、自動的にバックアップを行うスケジュールバックアップがあります。



ご注意：

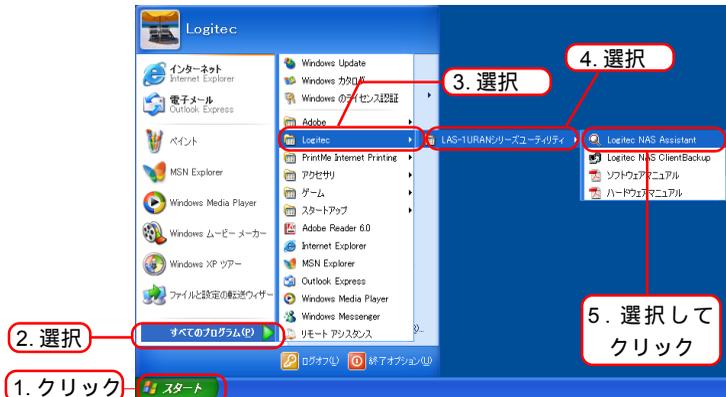
Logitec NAS Backup は Windows クライアントでしかご使用になれません。

バックアップおよびリストアを行う場合、NASのシステムのバージョンとツールのバージョン (下4桁) が一致していないと正常に動作しません。

通常のバックアップ手順

[スタート] ボタンから [プログラム] (Windows XP の場合は 「すべてのプログラム」) を選択し、 [Logitec] - [*** シリーズユーティリティ] から、 [Logitec NAS Assistant] を選択してください。

[*** シリーズユーティリティ] の [***] の部分には本製品のシリーズ名が入ります。



選択画面 (Windows XP の例)

LogitecNas Assistant が起動しますので、「LogitecNas Backup」タグをクリックします。

「LogitecNas Backup」
タグをクリック



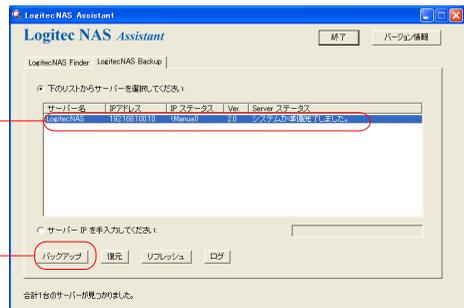
ネットワーク上に接続されている本装置を自動的に検索し示しますので、バックアップを行うNASサーバを選択（クリック）し、[バックアップ] ボタンをクリックします。

複数表示されている場合にはバックアップを行う装置を選択してください。

3

1.NASサーバを選択

2. [バックアップ] を
クリック

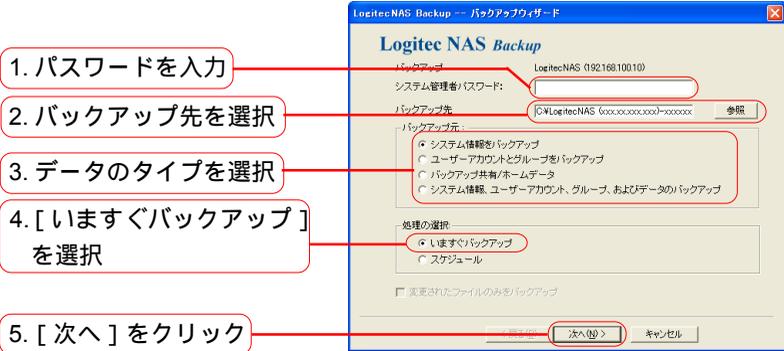


参考：

装置の IP アドレスが判明している場合、直接 IP アドレスを入力する事もできます。その際には、「サーバー IP を手入力してください」のチェックボックスを「ON()」にして、IP アドレスを入力してください。（右図参照）



バックアップウィザードが起動します。システム管理者のパスワードを入力し、バックアップ先、バックアップ元のデータのタイプ（次ページ参照）を選択し、処理の選択で[いますぐバックアップ]を選んで、「次へ」ボタンをクリックしてください。



バックアップ先にはバックアップファイルを保存する場所を指定します。パスを直接入力するか、[参照]をクリックして選びます。以下の点にご注意ください。

- ・NASの使用容量と同等かそれ以上の空き容量のドライブを選択してください。
- ・Windows XP や Windows 2000 でバックアップを行う場合、NTFS形式でフォーマットされたドライブを選択してください。

「変更されたファイルのみをバックアップ」機能はサポートしておりません。

右の画面が表示されますので、全てのチェックボックスにチェック「レ」がついている事を確認して、「次へ」ボタンをクリックします。

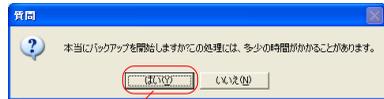
1. 全てにチェックがついていることを確認

2. [次へ]をクリック



以下の画面が表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。

[はい]をクリック



Point ポイント

データのバックアップとリストアは以下のような4種類のデータについて行うことができます。

1. システム情報をバックアップ：
言語、通知設定などをバックアップ/リストアできます。
2. ユーザーアカウントとグループをバックアップ：
すべてのユーザーアカウントとユーザーグループの設定などをバックアップ/リストアできます。
3. バックアップ共有/ホームデータ：
ユーザーアカウント、ユーザーグループ、すべての共有フォルダに保存されているデータ、ユーザーのhomeフォルダに保存されているデータなどをバックアップ/リストアできます。
4. システム情報、ユーザーアカウント、グループ、データ
上記1項と3項の内容をバックアップ/リストアできます。

ヒント

上記2～4を選択してバックアップを行う場合、データのバックアップ中にNASサーバがWindowsドメインに属している場合は、Windowsのドメイン情報(ドメイン名、PDC名、PDCに持つアカウント)も同時にバックアップすることができます。したがって、NASサーバにデータを復元する場合は、ドメイン情報とすべてのドメインユーザーのファイルも一緒に復元され(2の場合はドメイン情報のみ復元)本NASサーバがWindowsドメインに統合されます。

バックアップ作業が始まります。バックアップ中は以下の画面が表示されます。以下の点にご注意ください。

- ・「キャンセル」ボタンがアクティブなので、スペースやEnterキーには触らないようにしてください。
- ・バックアップ作業中でもNASサーバへのアクセスは可能ですが、バックアップを開始してからファイルを修正してもバックアップされません。



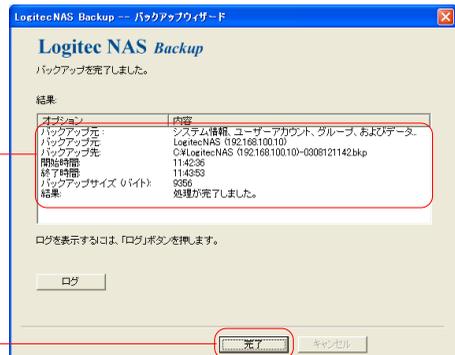
バックアップ作業が完了すると、右のような画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてください。

[OK] をクリック



バックアップ結果が表示されますので、内容を確認して [完了] ボタンをクリックしてください。以上でバックアップは完了です。

1. 内容を確認



2.[完了] をクリック

 **ご注意：**

OSやアプリケーションにより、扱える1つのファイルサイズに制限があります。

FAT32形式でフォーマットされたWindowsシステムでLogitec NAS Backupを実行し、このクライアントのハードディスクドライブなどへNASサーバ上のファイルをバックアップする場合などには、バックアップファイルが自動的に複数の4GBサイズのファイルに分割され、各ファイルの拡張子が".bkp"、".001"、".002"、順などになります。また、これらのファイルは同じディレクトリに保存する様にしてください。その後、NASサーバ上にデータをリストアするときは、".bkp"ファイルを指定すればその他の関連ファイルも自動的にリストアされます。分割されたファイルを1つずつ手動でリストアする必要はありません。

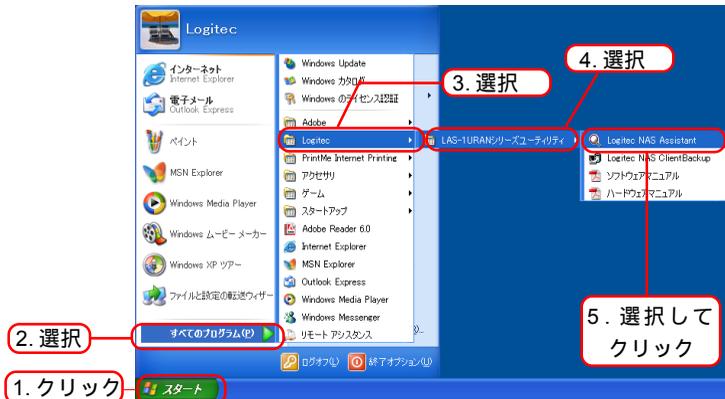
スケジュールでのバックアップ手順

Windows のタスクに登録して自動的にバックアップを行う、スケジュールバックアップでも、基本的な設定方法は通常のバックアップと同じです。ここでは、通常のバックアップと同じ部分については手順のみをご説明いたします。

！ ご注意：

スケジュールバックアップは Windows のタスク機能を使用します。Windows のタスク機能を使うためには、管理者権限で Windows パソコンにログインする必要があります。

[スタート] ボタンから [プログラム] (Windows XP の場合は「すべてのプログラム」) を選択し、[Logitech] - [LAS-1URAN シリーズユーティリティ] から、[Logitech NAS Assistant] を選択してください。



選択画面 (Windows XP の例)

LogitechNas Assistant が起動しますので、「LogitechNas Backup」タグをクリックします。

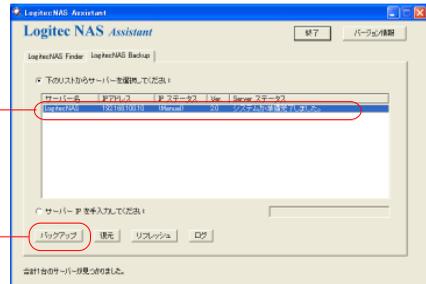
「LogitechNas Backup」
タグをクリック



ネットワーク上に接続されている本装置を自動的に検索し示しますので、バックアップを行うNASサーバを選択(クリック)し、[バックアップ]ボタンをクリックします。

1.NASサーバを選択

2.[バックアップ]をクリック



バックアップウィザードが起動します。システム管理者のパスワードを入力し、バックアップ先、バックアップ元のデータのタイプ、を選択し、処理の選択で[スケジュール]を選んで、「次へ」ボタンをクリックしてください。

1.パスワードを入力

2.バックアップ先を選択

3.データのタイプを選択

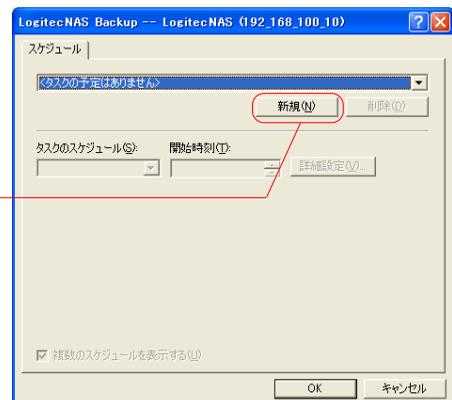
4.[スケジュール]を選択

5.[次へ]をクリック



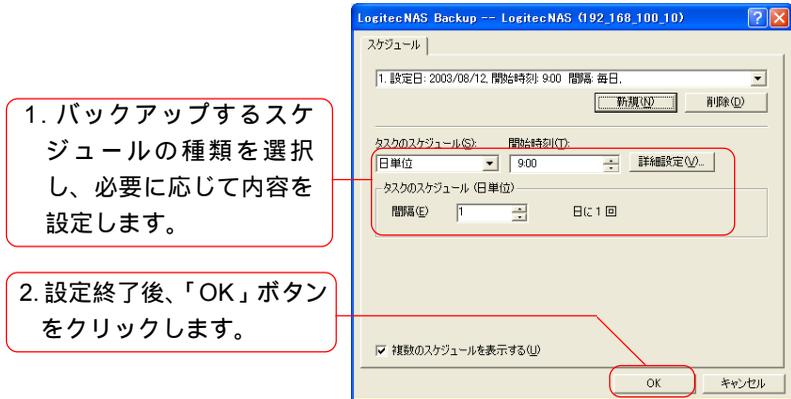
右の画面が表示されます。
[新規]ボタンをクリックしてください。

[新規]をクリック



設定画面がアクティブになりますので、「タスクのスケジュール」のプルダウンメニューからバックアップをするスケジュールの種類とバックアップを実行するタイミングを設定します。(設定方法の詳細は下の「スケジュールの種類」をご参照ください。)

設定が終わったら [OK] ボタンを押してください。



1. バックアップするスケジュールの種類を選択し、必要に応じて内容を設定します。

2. 設定終了後、「OK」ボタンをクリックします。

Point ポイント： スケジュールの種類

「日単位」

このオプションを選ぶと下の欄で「間隔」を設定するすることができますようになります。たとえば3日に1回バックアップを行う場合は「間隔」横のテキストボックスに「3」と入力します。

「週単位」

このオプションを選ぶと下の欄で「間隔」と曜日を設定することができますようになります。たとえば週に1回月曜日にバックアップをする場合は「間隔」横のテキストボックスに「1」と入力し、「月」のチェックボックスにチェックを入れます

「月単位」

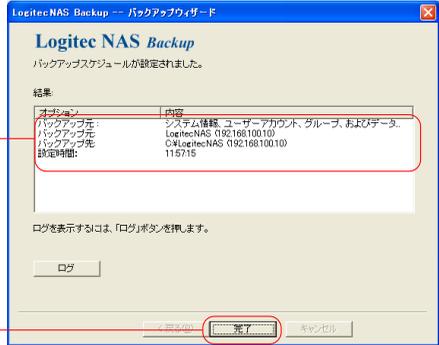
このオプションを選ぶと下の欄で「実行日」または「間隔」と「実行する月の選択」をすることができます。はじめに「実行日」か「間隔」のいずれかを選択します。特定の日付（毎月25日等）設定する場合は「実行日」を、第1週の火曜日にバックアップを行うというような設定をする場合は「間隔」を選びそれぞれ設定します。「実行する月の選択」ではバックアップを行う月を選択することができます。

「1回のみ」

このオプションでは特定の日を指定してバックアップを行うことができます。

以下の画面が表示されます。設定内容に間違いがないか確認し、[完了]ボタンをクリックしてください。

1. 内容を確認



2. [完了]をクリック

「LogitecNAS Assistant」画面に戻るので、「終了」ボタンを押してください。

[終了]をクリック



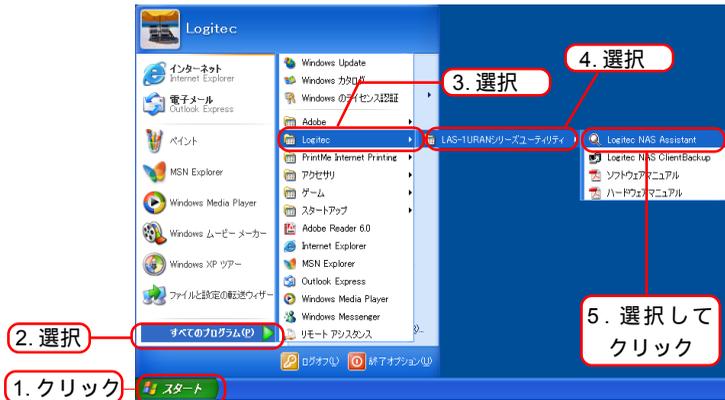
以上でバックアップスケジュールの設定は終了です。これで、設定時刻がくれば自動的にバックアップが行われます。

⚠️ ご注意：

- ・スケジュールにてバックアップ作業を行っている場合には、バックグラウンド上で処理されておりまして画面上には表示されません。
- ・夜間や、無人の時間帯に設定を行う場合、設定した時間帯でもネットワークが稼働（ハブや作業を行うコンピュータの電源が着られないこと）していることを確認してください。

LogitecNAS Backup からのリストア

[スタート] ボタンから [プログラム] (Windows XP の場合は 「 すべてのプログラム 」) を選択し、 [Logitec] - [LAS-1URANシリーズユーティリティ] から、 [Logitec NAS Assistant] を選択してください。



選択画面 (Windows XP の例)

LogitecNas Assistant が起動しますので、「LogitecNas Backup」タグをクリックします。

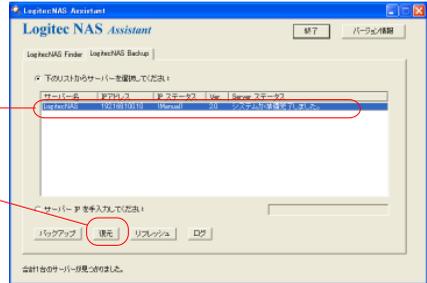
「LogitecNas Backup」
タグをクリック



ネットワーク上に接続されている本装置を自動的に検索し示しますので、リストア（復元）を行うNASサーバを選択（クリック）し、[復元]ボタンをクリックします。

1.NASサーバを選択

2.[復元]をクリック



以下の画面が表示されますので、復元先の装置を確認し、必要項目（下のポイント参照）を設定し、「次へ」ボタンをクリックします。

1. 復元先を確認

2. 必要な項目を設定



Point ポイント：

手順 で設定する項目の内容は以下の通りです。

システム管理者パスワード：バックアップを行うNASの管理者パスワードを入力します。

復元元：バックアップファイルを選択します。

復元するデータがすでにサーバ上にある場合：

データを置き換える：ファイルが存在していても、無条件でリストア（上書きコピー）を行います。

スキップして続行：ファイルが存在する場合には、リストア（コピー）を行いません。ファイルが存在しない場合には、リストア（コピー）を行います。

以下のような画面が表示されますので、リストア（復元）を行う内容のチェックボックスにチェック「レ」が入っていることを確認し、リストアを行わない項目のチェックは外して、「次へ」ボタンをクリックします。

1. リストアする項目に
チェックが入っている
ことを確認

2. [次へ] をクリック



! **ご注意：**

管理者（root）パスワードは、標準ではリストアされません。デフォルト復元など新規状態からの復元（リストア）を行う場合には、必要に応じて、チェックを付けて、リストアを行ってください。

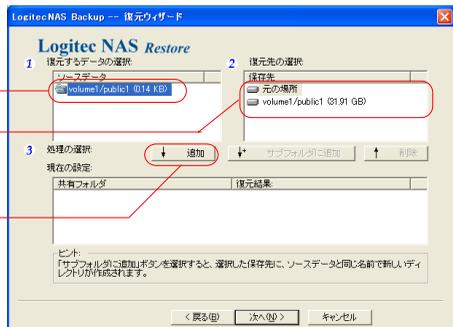
以下のような画面が表示されますので、

1. [復元するデータの選択] から、ソースデータを選択します。
2. [復元先の選択] から、保存先（復元先）を選択します。
通常は、元の場所を選択します。
3. [処理の選択] から、[追加] ボタンをクリックします。

1. ソースデータを選択

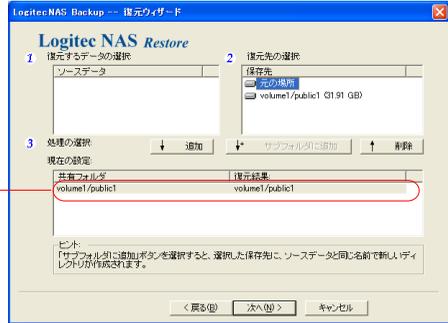
2. 復元先を選択

3. [追加] ボタンを
クリック



[現在の設定] 欄に復元(リストア)結果が表示されますので、確認後[次へ] ボタンをクリックします。

1. 復元結果を確認



以下のような画面が表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。

[はい] をクリック



復元作業が始まります。復元中は以下の画面が表示されます。以下の点にご注意ください。

- ・「キャンセル」ボタンがアクティブなので、スペースやEnterキーには触らないようにしてください。
- ・バックアップ作業中でもNASサーバへのアクセスは可能ですが、バックアップを開始してからファイルを修正してもバックアップされません。



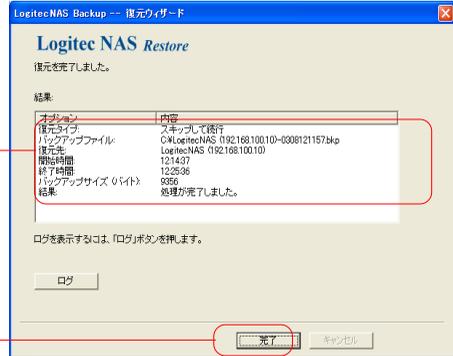
復元作業が完了すると、右のような画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてください。

[OK] をクリック



復元結果が表示されますので、内容を確認して [完了] ボタンをクリックしてください。以上で復元は完了です。

1. 内容を確認



2.[完了] をクリック

！ ご注意：

- ・NAS サーバからバックアップされた後に、NAS サーバのシステム情報（構成）を変更すると、復元（リストア）が正常に行えない場合があります。そのため、NASサーバのシステム情報を変更された場合には、その都度バックアップを行ってください。
- ・データのリストア（復元）を行う場合には、本製品上にリストアを行う分の記憶容量があることを確認して作業を行ってください。記憶容量がありませんと、正常にリストア（復元）作業を完了することができません。
- ・データのバックアップやリストアの作業中は多数の一時ファイルが本製品上に作成されます。そのため、本製品上に作業領域として約20MBほどの空き記憶容量が必要になります。約20MBほどの空き記憶容量が確保できない場合には、データのバックアップやリストア作業を行うことができません。

 **ご注意：**

リストアを行うフォルダーがユーザの Home フォルダの場合、NAS 上にもそのユーザの Home フォルダが存在していないと、リストアを行うことができません。これは、セキュリティを目的とした処理です。

例 その1

	NAS 上バックアップファイル	
フォルダ名	総務	人事
ファイル名	1.TXT	1.TXT 2.TXT

- ・「データを置き換える」の設定を行った場合
NAS 上に新たに「人事」フォルダが作成され、作成された人事フォルダ内に「1.TXT」および「2.TXT」ファイルが、リストア(コピー)されます。
- ・「スキップして続行」の設定を行った場合
NAS 上に新たに「人事」フォルダが作成され、作成された人事フォルダ内に「1.TXT」および「2.TXT」ファイルが、リストア(コピー)されます。

例 その2

	NAS 上	バックアップファイル
フォルダ名	総務	総務
ファイル名	1.TXT	1.TXT 2.TXT

- ・「データを置き換える」の設定を行った場合
バックアップファイル内の
「1.TXT」ファイルは、NAS 上にリストア(上書きコピー)されます。
「2.TXT」ファイルは、NAS 上にリストア(コピー)されます。
- ・「スキップして続行」の設定を行った場合
バックアップファイル内の
「1.TXT」はリストアされません。
「2.TXT」ファイルは、NAS 上にリストア(コピー)されます。

クライアントパソコンのデータのバックアップとリストアについて

(LogitecNAS Client Backup) (Windowsのみ)

データを失わないようにするための方法の一つにバックアップがあります。しかし、多忙なあまり、バックアップを欠かさないことの大切さが忘れられることがあります。忘れることなく、効率的に適宜バックアップしていただくために、Logitec NAS Client Backup には全自動バックアップ機能が搭載されています。この機能では次の事が行えます。

1. Windows クライアントのファイルフォルダをモニタし、変更が加えられるとその内容を自動的にバックアップ(自動モニタリング/自動バックアップ機能)。
2. ファイルのパスワード保護によるセキュリティ強化。
3. バックアップファイルの圧縮によりサーバの記憶容量を節約。
4. バージョン管理を可能にし、最大 20 バージョンをサーバに記録。
5. タグ管理を可能にし、最も代表的なバージョンにタグを付け、最大 20 個のタグを保存。
6. 必要なときにファイルをサーバからクライアントコンピュータに復元し、ファイルのバックアップ、管理、保護を容易にする。

！ ご注意：

- ・モニタ機能にてバックアップを行えるのは、LogitecNAS Client Backup がインストールされているコンピュータ上のローカルディスク内のフォルダおよびファイルのみです。
そのため、ネットワークドライブやその他の外部記憶装置をモニタすることはできません。
- ・モニタ機能にてバックアップを行う場合、ルートディレクトリ(\)に保存されているファイルは指定する事ができません。
モニタ機能の対象はルートディレクトリ下のサブフォルダーのみです。
- ・モニタ機能を使用する場合には、LogitecNAS Client Backup がシステムに常駐する必要があります。
- ・Windows が使用しているシステムファイルなどは、アップロードやモニタ機能で NAS へバックアップすることができません。

LogitecNAS Client Backup の使用環境

使用条件

- ・本製品とクライアントパソコンを結ぶネットワークの中にルータなどのセグメントを越えるネットワークでは使用できません。
- ・バックアップを行うクライアントとNASサーバは同一セグメント上である必要があります。
- ・ハードディスク上にアプリケーションのインストール用領域として5MBの空き容量が必要
- ・対応 オペレーティングシステム：
Windows Me/98
Windows XP/2000/NT 4.0
- ・画面の最適解像度：800x600 以上



ご注意：

- ・Windowsなどのシステムが使用しているファイルはバックアップすることができません。
- ・システムファイルを含んだファイルをバックアップする場合、タグ管理を行うことができません。

クライアントデータを NAS にバックアップ

初めて使用する - 全体をバックアップ

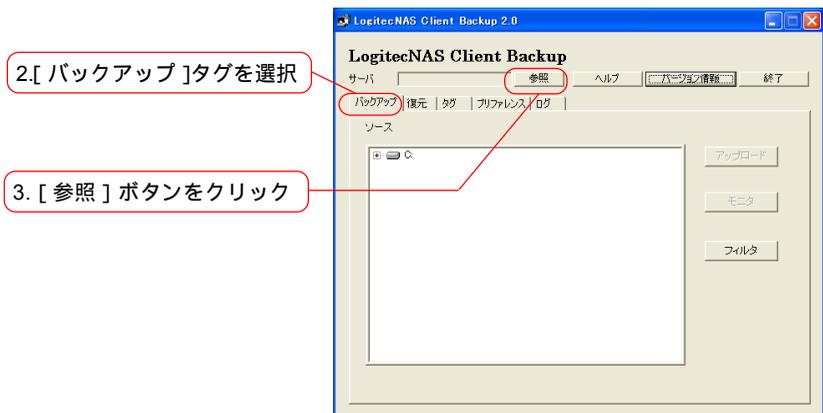
LogitecNAS Client Backup をはじめて実行するときは、コンピュータのフォルダ内のすべてのファイルをNASにバックアップすることで、その後に行われるファイル修正や作成をモニタできるようにしておく必要があります。

[スタート] ボタンから [プログラム] を選択し、[Logitec] - [*** ** シリーズユーティリティ] から、[LogitecNAS ClientBackup] を選択してください。

「*****」の部分には、製品のシリーズ名が入ります。

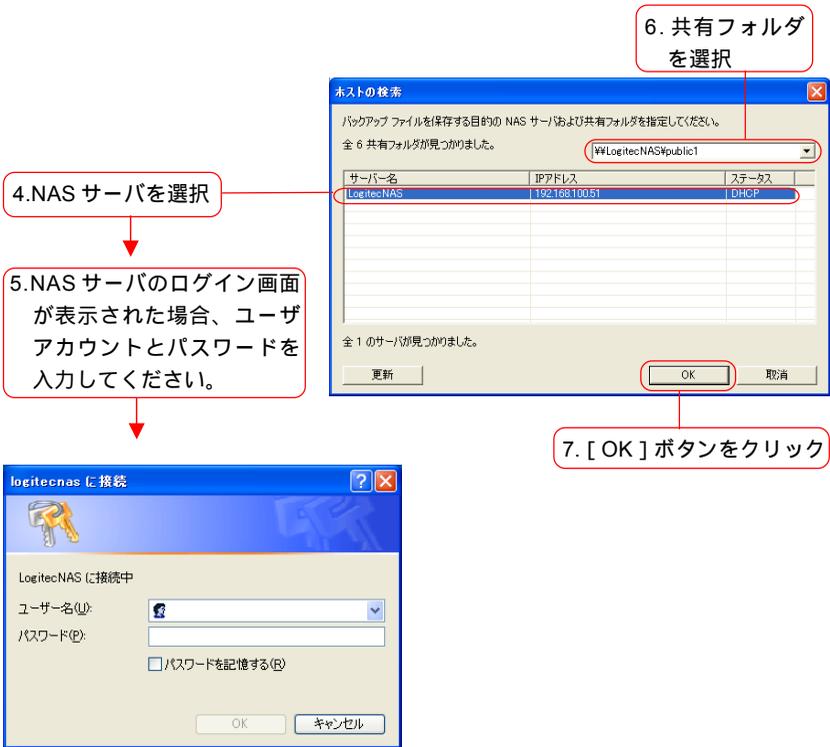


選択画面 (Windows 2000 の例)



[LogitecNAS Client Backup] を起動し、[バックアップ] タグを開きます。[サーバ] 入力欄で、[バックアップファイル] の保存先を選択します。[参照] ボタンをクリックしてください。

クライアントデータをNASにバックアップ



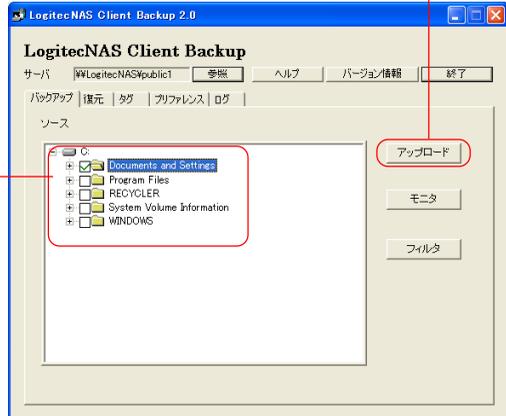
[ホストの検索]画面が表示されますので、NAS サーバをを選択します。
NAS サーバのログイン画面が表示された場合、ユーザアカウントとパスワードを入力します。
共有フォルダを選択します。
選択したら、[OK] をクリックします。

Point ポイント :

- ・「Public1」などの共有フォルダにバックアップ先に指定しておく、他のクライアントパソコンから不用意に削除されてしまったり、内容を参照されたり、修正されてしまう事もありますので、セキュリティも兼ねて、バックアップ先はHomeフォルダを選択することを推奨します。
- ・なお、Homeフォルダを使用する場合には、事前にアカウント登録が必要です。

9. [アップロード] ボタンをクリック

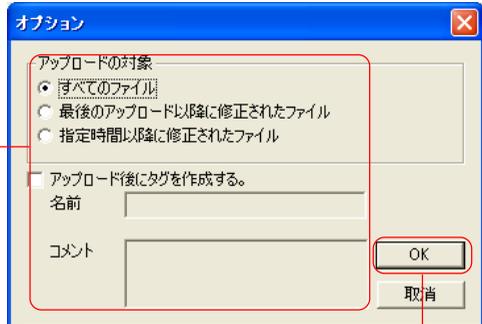
8. フォルダを選択し、
チェックボックスに
チェック「レ」マーク
をつけます



起動画面に戻ります。バックアップ/モニタしたいフォルダをツリー構造から選択し、左側のチェックボックスにチェック「レ」マークをつけます。

[アップロード] ボタンをクリックします。

10. 各設定を行います



11. [OK] ボタンをクリックします

[オプション] のダイアログボックスが表示されます。次ページのポイントを参照して必要な設定を行ってください。

設定が終わったら、[OK] ボタンをクリックします。選択したフォルダ内のファイルが指定したNASサーバにバックアップされます。

Point ポイント：

LogitecNAS Client Backup でバックアップするのは今回がはじめての場合、[アップロードの対象] で [すべてのファイル] を選択します。

復元時のバックアップファイルを容易に確認できるようにしたい場合は、[アップロード後にタグを作成する] を選択します。アップロード完了後、このバックアップにタグがつけられますので、すぐに確認でき、その後の復元を容易に行えます。(次ページの「参考」をご参照ください。)

参考

LogitecNAS Client Backup では最大 20 個のタグを作成できます。タグを作成するのは、どの時点でのバックアップであるかを記録しておくためです。たとえば、プログラムのバージョン 1.0 が完成しており、バージョン 2.0 のプログラミングに取り掛かる場合、バージョン 1.0 のバックアップには特別な意味があります。バージョン 1.0 のすべてのプログラムが完成しているので、バージョン 2.0 ではそれぞれの時点におけるファイルを表すタグを作成していきます。バージョン 2.0 の修正中にトラブルが発生したら、バージョン 1.0 のすべてのプログラムを自分のコンピュータに復元して修正を続けることができます。

コンピュータのファイルとフォルダをモニタする

初回のバックアップが終わると、それぞれのコンピュータのファイルフォルダをモニタできるようになります。フォルダ内のファイルに変更が加えられると、その内容がNASサーバに保存されます。

コンピュータに保存されているファイルフォルダをモニタしたい場合は、[LogitecNAS Client Backup] を起動し、そのコンピュータとバックアップ先サーバのファイルフォルダを選択して、[モニタ] ボタンをクリックします。LogitecNAS Client Backup がタスクトレイに常駐し、モニタを開始します。

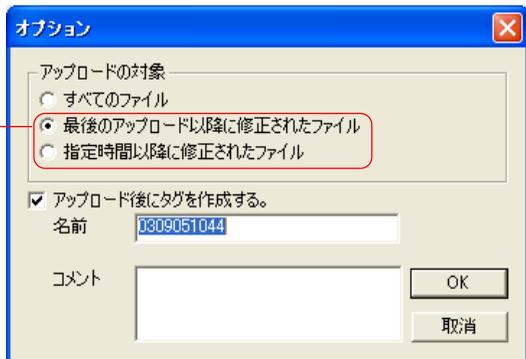
変更されたデータのみバックアップ

保存されているファイルが大きく、頻繁に変更が加えられる場合、変更の都度サーバに自動的にバックアップするとネットワークトラフィックがビジー状態になりかねません。NASサーバの性能を低下させないため、初回のバックアップが終了後は、自動モニタリングを実行せず変更されたファイルのみNASサーバへ手動でアップロードする事も可能です。

または、初回のバックアップが終わった時点で、ファイルが変更されるまで(ネットワークを切り離しておくなどの理由により)モニタリングを開始したくない場合は、変更されたファイルをサーバにバックアップしておいてからモニタするようにします。

変更されたファイルをバックアップするには、コンピュータとバックアップ先サーバのファイルフォルダを選択し、右側の[アップロード]ボタンをクリックし、[最後のアップロード以降に修正されたファイル]を選択して直前のアップロード以降に変更されたファイルをバックアップするか、または[指定時間以降に修正されたファイル]を選択して指定時間以降に変更されたファイルをバックアップします。

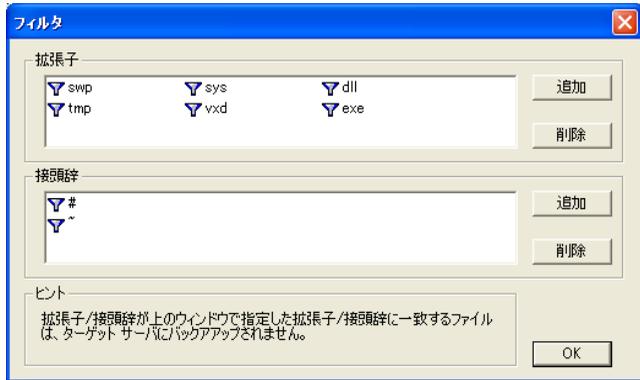
どちらかを選択



ファイルにフィルタをかける

特定のファイル群をバックアップしないようにできます（例：Windows のクライアントが作成する .tmp ファイルや一時ファイル）。

バックアップしないファイルをファイルタイプを基準にして設定するには、[バックアップ] タグを選択してから、右側の [フィルタ] をクリックし、[フィルタ] 画面からバックアップしたくないファイルの拡張子を追加 / 削除することで、その拡張子 / 接頭辞が付いたファイルをバックアップしないようにできます。



接頭辞

ファイル名の先頭の文字です。

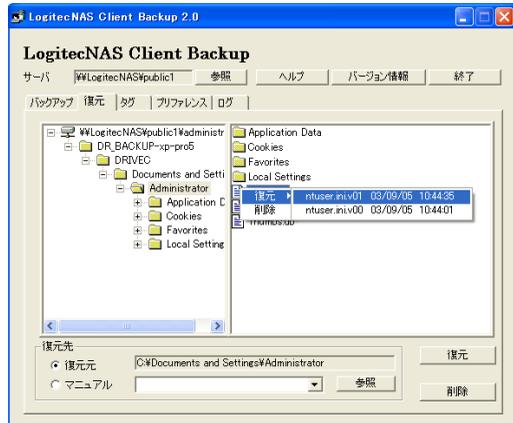
例

ファイル名： ~TEST.TXT

この場合の場合 ~ が接頭辞になります。

NAS から Windows クライアントにファイルを復元

[復元] タブを選択します。NAS サーバに保存されているバックアップファイルのディレクトリが左側に表示されます。デフォルト設定では、Windows のクライアントファイルが NAS サーバのディレクトリ “ Account_Name¥DRBACKUP-client computer name¥thiscomputer ” にアップロードされます。ディレクトリごとにすべてのサブディレクトリ/ファイルが右側に表示されます。



復元するファイルの保存先(コンピュータのパス) をページの一番下の復元先から選択します。復元するデータが復元元と復元先とで同じ場合には、「復元元」のラジオボタンを「ON ()」にしてください。別な場所に復元する場合には「マニュアル」のラジオボタンを「ON ()」にしてください。

ひとつずつのフォルダやファイル単位で復元するには、右側からファイルまたはファイルフォルダを選択し、マウスを右クリックし、参照機能の [復元] をクリックします。

また指定したフォルダ全体を復元するには右側からフォルダを選択し、ウィンドウの一番下にある [復元] ボタンをクリックします。

Point ポイント :

ファイルを個別に復元する場合は、バージョンまたはタグを復元基準にすることができます。複数のファイルまたはフォルダを復元する場合（ファイルのバージョンがそれぞれ異なる場合）は、[現在のバージョン]またはタグのみ選択できます。

タグ管理

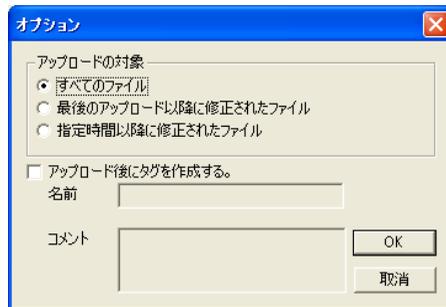
Logitech NAS Client Backup では最大 20 個のタグを作成できます。タグを作成するのは、どの時点でのバックアップであるかを記録しておくためです。

タグを作成したら、削除しない限り、タグが付いたファイルが削除されることはありません。

タグが作成された日時がタグの名前のデフォルトになります。たとえば、“111072228”であれば、そのタグが2001年11月7日午後10時28分に作成されたという意味です。タグ名は任意の名称をつけることができます。

タグのつくり方には次の2通りがあります。

1. ファイルのアップロード後に付ける



ファイルのアップロード後にタグを作成する場合は、[バックアップ]パネルで作成します。

タグの作成時に、NAS サーバのバックアップディレクトリに保存されている最新版のファイルが保存されます。次の2つの例で作成方法を説明します。

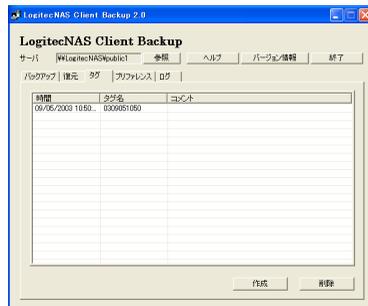
例 1

[すべてのファイル] をアップロードする際に、[アップロード後にタグを作成する] を選択し、[OK] をクリックすると、NAS サーバにアップロードされたすべてのファイルのタグがアップロード後に作成されます。

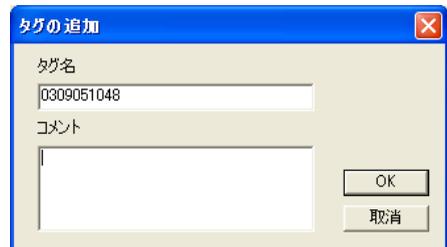
例 2

[最後のアップロード後に修正されたファイル]または[指定時間以降にアップロードされたファイル]をアップロードする場合は、[アップロード後にタグを作成する]を選択し、[OK]をクリックします。すると、アップロードされた(最新版の)すべてのファイルのタグが作成されます。また、(変更が加えられていなかったために)アップロードされなかったものでも、すでにNAS上に存在していた最新バージョンのファイルも同時に、新たにタグが作成されます。

2. [タグ]パネルで新しいタグを作成する。



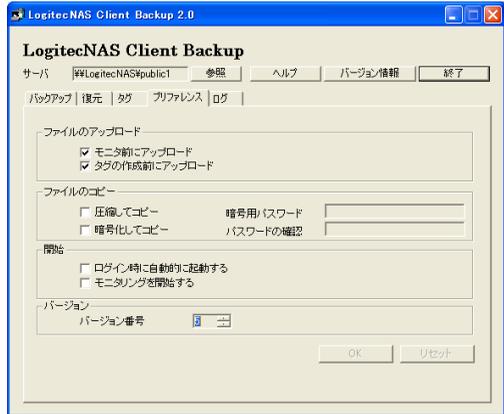
[タグ名]と[コメント]に入力したら、[タグ]パネルを選択し、[作成]ボタンをクリックし、[OK]をクリックします。NASのバックアップディレクトリに保存されている最新バージョンのファイルごとにタグが作成されます。[プリファレンス]タグのアップロードで[タグの作成前にアップロード]にチェックを入れると、変更が加えられたファイルがサーバにアップロードされ、アップロードが終わるとタグが作成されます。これは、作成されるすべてのタグがクライアントステーションに保存された最新版のファイルを表すようにするために行います。(特にモニタ機能をはじめて起動する場合に行います。)



プリファレンス

LogitecNAS Client Backup ツールの初期値の設定を行うことができます。

アップロード



1. モニタ前にアップロード

このオプションをクリックすると、モニタリングのたびに、バックアップされていないファイルがないかを確認します。そうしたファイルが存在する場合は、自動的にアップロードします。この方法は、ネットワークが切り離されたり、初回のバックアップ実行直後にモニタリングが実行されなかった場合に、クライアントのコンピュータによってファイルが変更されることがないようにするために行います。

2. タグの作成前にアップロード

このオプションをクリックすると、タグが新たに作成される前に、変更が加えられたファイルがクライアントからサーバにアップロードされ、アップロードが終わるとタグが作成されます。これは、作成されるすべてのタグがクライアントステーションに保存された最新版のファイルを表すようにするために行います。これは、特にモニタ機能をはじめて起動する場合に行います。

ファイルのコピー

1. 圧縮してコピー

記憶容量を節約するために、このオプションにチェックが入っていると、NAS サーバに保存されているすべてのバックアップファイルが圧縮されます。

2. 暗号化してコピー

データのセキュリティを確保し、データ不正な流出を防ぐために、このオプションによって、サーバに保存されているファイルをパスワードで保護することができます。

注意：

データをリストアする際に、このパスワードが必要になりますので、忘れないように注意してください。

初期化設定

1. ログイン時に自動起動

クライアントの電源を投入してから LogitecNAS Client Backup を実行します。

2. 起動時にモニタ開始

LogitecNAS Client Backup を起動してからモニタリングを実行します。
[モニタ前にアップロード] にもチェックを入れておくと、ログインした時点でモニタ機能実行前にアップロードされていなかったすべてのファイルがあらかじめアップロードされます。

世代管理

LogitecNAS Client Backup は最大20世代まで対応しています。バックアップするファイルのバージョン数を選択することができます。

20 世代をバックアップする場合は、バックアップファイルの拡張子がバージョン番号を表します（例：最初のバージョンのバックアップファイルの拡張子が “v00 ” になります）。この番号は新しいバージョンのファイルがバックアップされるたびに増分します。20 バージョンすべてを使い切ると、ファイル拡張子が “v20 ” になり、拡張子 “0 ” のファイルが削除されます。拡張子のこの付け方にならってファイル拡張子が増分し、“v99 ” まで増分すると “0 ” に初期化され、新しいサイクルが始まります。

他社製バックアップソフト (Rtrospect) を使用した NAS のデータのバックアップ方法

ここでは他社製バックアップソフト (Retrospect) を使用して、NAS のデータをバックアップする方法についてご説明いたします。

バックアップ、リストア可能な項目

すべての共有フォルダおよび、ホームフォルダ

エージェントサポート

エージェントをインストールすることなく NAS サーバをバックアップすることができます。

一般的な注意事項

NAS サーバを、Windows と Macintosh の混在環境などで使用している場合、データのバックアップはできますが、詳細なファイル情報がコピーされない場合があります。例えば、Mac OS のリソースフォークファイルは Windows 系のバックアップソフトウェアではコピーされないなどの問題が発生することがあります。

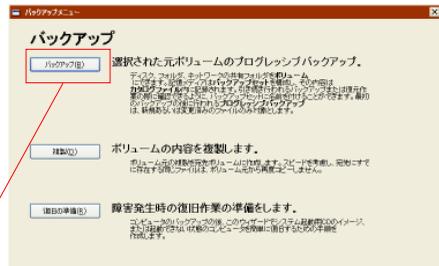
このような環境では、Mac OS 版のバックアップソフトウェアを使うなどの工夫が必要になります。

Rtrospect でのバックアップ手順

Retrospect を起動します。

バックアップメニューより
[バックアップ (B)] をク
リックします。

[バックアップ (B)] を
クリック



ソース選択画面にて [マイネットワーク (N)] をクリックします。

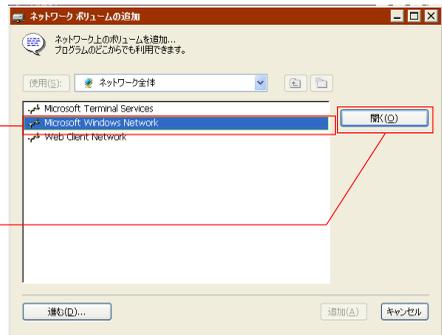
[マイネットワーク] を
クリック



ネットワークボリュームの追加画面画表示されるので、[Microsoft Windows Network] を選択し、[開く (O)] ボタンをクリックします。

1. 選択

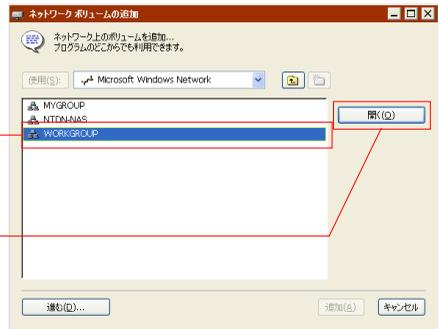
2. [開く] をクリック



次に [WORKGROUP] を選択し、[開く (O)] ボタンをクリックします。

1. [WORKGROUP] を選択

2. [開く] をクリック

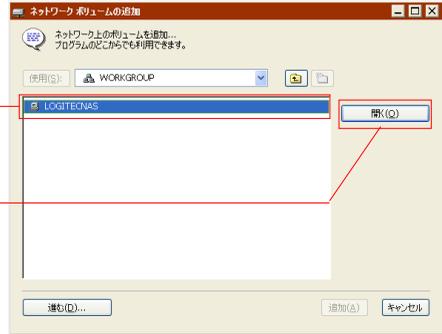


NASの設定にてワークグループをお客様にて変更した場合はお客様が設定したワークグループ名を選択します。

次にバックアップするNASサーバを選択し、[開く(O)]ボタンをクリックします。

1. サーバ名を選択

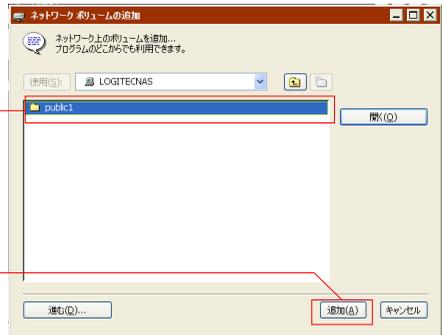
2. [開く]をクリック



バックアップを行う共有フォルダを選択し、[追加(A)]ボタンをクリックします。

1. フォルダを選択

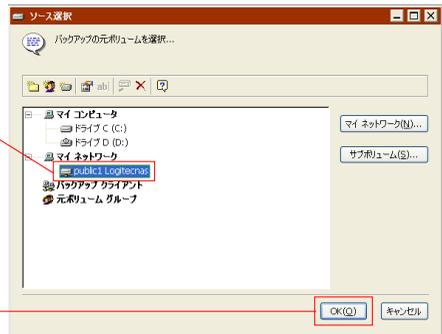
2. [追加]をクリック



ソース選択画面に戻りますので、マイネットワーク欄に登録されていることを確認します。[OK]ボタンを押すと、デバイスの検索を行い、バックアップが開始されます。

1. 確認!

2. [OK]をクリック



付録

付録 1 : RAID とは

RAID は "Redundant Array of Independent Drives" の略語です。RAID は、少容量低コストの多数のディスク装置を結合して"ディスクアレイ"を構成し、同等容量の1台の大型ディスク装置に勝る性能を可能にすると共に、個別のディスク装置のメリットを活かしてシステムを効率化する技術です。RAID では、読み書きを個々のディスク装置に分散することによりデータアクセスを高速化します。これにより、大型のディスク装置1台の場合と比べて、アクセス要求待機時のボトルネックを解消します。言い換えれば、ディスクアレイにデータを書き込む際に多数のブロックに分割し、複数のディスク装置に記憶します。同様に、データを読み取る際には、複数のディスク装置から同時に読み出すことにより、ディスクアレイのアクセス速度を高速化します。これに加えて、RAID によっては記憶領域の一部をデータのミラーリングに利用する仕様のものがあります。つまり冗長なデータを記憶します。これにより、ディスクアレイにしたディスク装置の1台が故障してもシステムの整合性が損なわれることはありません。

RAIDレベル	特徴
JBD	同じハードディスク上の隣接する空き容量に単純ボリュームを作成する必要がある場合に使用します。選択した空き容量が独立の非RAID構成のハードディスクとして作成されます。単純ボリュームを作成する場合は、選択できるハードディスクは1ボリュームあたり1台のみです。
Span	2台以上のハードディスクの空き容量を結合することで、その間にまたがったボリュームを作成します。選択したハードディスクが1台の連続した大規模ボリュームとして作成されます。各ハードディスク上で選択する空き容量は同じサイズである必要はありません。
RAID 0	ストライピング: 複数のディスク装置を使用して1台の大型仮想ディスク装置の働きをします。冗長性は備えていません。

付録 1 : RAID とは

RAID 1	ディスクの半数をミラーリングに使用します。すなわち、ディスク A の内容とディスク B の内容を重複させることで、データの整合性を保ちます。実際にデータ記録に使用できるのはディスク装置の総記憶容量の半分になります。
RAID 5	RAID 5 ではバックアップオプションが用意されています。複数ディスクを1台の仮想ディスクとして取り扱い、アクセス速度を高速化します。パリティモードにより1台のディスク装置のサイズに匹敵する記憶領域に冗長なデータを記憶します。4台のディスクで実際にデータ記録に使用できる容量は3台分となります。
ホットスベア搭載 RAID 5	ホットスベア搭載 RAID 5 は、RAID 5 のディスクアレイに1台のスベアディスクを追加し、1台目を冗長記憶に使用し、2台目をスベアに使用します。4台のディスク装置のシステムで実際にデータ記録に使用できる記憶領域は、2台分となります。

RAID 0 (ストライピング)

RAID 0 では、データを分割し、別々の場所に記録します。ただし、フォールトトレラントではありません。RAID 0 では、ディスクアレイは1台の大型ディスク装置として取り扱われます。そのサイズは、個々のディスク装置をすべて結合したサイズとほぼ同じです。複数ディスク装置への並列アクセスにより、読み書きの高速化が可能となり、個別にディスク装置を使用する場合より動作が高速化されます。そのため、RAID 0 は大量のストリーミングデータを効率的に転送することが必要とされる用途に最適です。

RAID 0 では冗長性を備えていません。従ってディスクアレイのうち1台のディスク装置に障害が起きると、ディスクアレイ全体が使用不能になります。

RAID 1 (ミラーリング)

RAID 1 では、ディスク装置がペア配列されます。データは常に両方のディスク装置にペアで書き込まれます。RAID 1 は比較的障害に対しての安全性が考慮されています。他の方法より費用がかさみますが、それは実際には2倍の物理的記憶容量を搭載する必要があるからです。RAID 1 は、安全性が重視される複数ユーザーの環境で使用することが多いといえます。

RAID 5

RAID 5 は、RAID 0 と同じく、複数のディスク装置を使用して1台の大型仮想ディスクの働きをさせます。ただし、パリティデータ (Parity) 形式によって冗長なデータを記録します。データの書込み中にデータをスキャンし、冗長な (redundancy) データをディスクアレイ内の別のディスク装置に記録します。そのパリティ情報を分割して別々のディスクに記録します。記録は実際のデータと一緒に行います。ディスクアレイ内の1台のディスク装置が使用不能になっても、データ保護用のディスクに保存されているパリティデータを使用して情報全体を復元することができます。

ホットスペア対応 RAID5

ホットスペア搭載 RAID 5 は、RAID 5 にさらに1台のスペアディスクを装備した構成です。アレイ内のディスク装置がどれか1台使用不能になると、スペアディスクが自動的にオンラインになり、損傷したデータを復元します。

注意 :

RAID はシステムの可用性のレベルを大幅に引き上げますが、データの安全を保障するものではありません。定期的にデータをバックアップすることは習慣にしておいてください。不意な電源切断などで、RAID でもデータを復元できない場合があります。RAID 5 は1台のディスクで起きる使用不能を補償する手段にすぎません。2台のディスクが同時に使用不能になると、データは消失してしまいます。

付録 2 : トラブルシューティング

パスワードを忘れた場合

一般アカウントのパスワードを忘れたら、システム管理者に個人設定を設定し直してもらいます。ただし、システム管理者のパスワードを忘れた場合、設定の変更やバックアップなどを行うことは一切できなくなりますのでご注意ください。

Assistant ツールで NAS が認識されない

以下の点をご確認ください。

1. 本製品が LAN に接続しているかを確認する。
2. 本製品が電源に接続され、電源が入っているかを確認する。
3. 本製品の IP アドレスが他のネットワーク機器と重複していないか確認する。
4. 使用しているクライアントコンピュータとセットアップする NAS サーバが同じサブネット上(ネットワークアドレス上)に存在していることを確認する。
5. 常駐プログラム(アンチウィルスソフト等)を外す。
6. 別のクライアントでためしてみる。
7. ハブを変えてみる。
8. ハブのポートを変えてみる。

ハードディスクエラー

Non-RAID のシステムはデータの冗長性がありません。したがって、ハードディスクが損傷すると、そこに保存されているすべてのデータが失われます。データのバックアップは必ず定期的に行ってください。

RAID 5 のシステムでは、どれか 1 台のハードディスクで障害が起きた場合もデータは保持されています。障害が起きたディスクを、新品と交換してください。

新しいハードディスクに自動的にデータが復元されます。復元中もクライアントのアクセスは行えます。次ページにあげる事項にご注意ください。

1. RAID 5 であってもバックアップは必ず行ってください。
2. RAID 5 の場合、復旧が可能なのは 1 台のハードディスクが破損した場合 だけです。複数のハードディスクが同時に使用不能になった場合はシステム自体も完全に使用不能になり、システムに保存されているすべてのデータが失われます。

ハードディスクリビルドエラー

ハードディスクのリビルドが失敗する原因として考えられるものを以下に記します。

1. 交換したハードディスクも損傷している。
2. リビルドするハードディスクとは別に残りのハードディスクも損傷している。

高速設定の日付 / 時刻ページにボタンが表示されない

アンチウィルスソフトウェアのファイアウォール機能によっては、クイックセットアップの日付/時刻ページが表示されない状態になることがあります。ファイアウォールを無効にし、再度試みるか、または他のクライアントからセットアップを行ってください。

ストレージマネージャとクライアントターミナルとの 接続が失われる

ネットワークトラフィックが重いためにセットアップ実行中にストレージマネージャが応答しなかったり、フリーズする場合は、別の箇所をクリックしてから元の箇所を再度クリックしてみてください。これでうまくいかない場合は、ブラウザのウィンドウを閉じ、ストレージマネージャを再度開きます。ネットワーク環境設定を変更したら、NAS に接続できないネットワークの環境設定を修正し(サーバアドレス、ドメイン、DNS データ、等を含みます) ネットワーク設定を再度確認し、必要に応じて変更します。ブラウザを閉じ、ストレージマネージャに再度接続を試みてください。サーバから電子メールで通知されない場合は、ストレージマネージャで「サーバ情報」「システムログ」へ移動し、ログに記録されているメッセージを確認します。電子メール通知の未配達に関するエラーメッセージを以下に示します。

1. Cannot resolve the host address(ホストのアドレスを解明できません):
xxxxxx,rcode:xxx.

このメッセージは、SMTP サーバの名前としてつけられた名前を DNS サーバが確認できなかったことを表します。以下の原因が考えられます。

- DNS データエラー
- DNS サーバの電源障害
- ドメイン名間違い
- SMTP サーバ間違い

上記のオプションを確認し、再度試みてください。

2. Cannot connect to host (ホストに接続できません):

xxxxxx(xxx.xxx.xxx.xxx)

このメッセージは、SMTP サーバに接続できなかったことを表します。以下の原因が考えられます。

ネットワーク接続が切れた。ネットワーク接続を確認し、再度試みます。

SMTP サーバが使用不能。サーバが正しく動作しているかを確認します。

SMTP サーバがメッセージを拒絶した。SMTP サーバがジャンクメッセージを区別していないことを確認します。

システム管理者に問い合わせるか、または他のSMTP サーバを使用してみます。

3. Mail server connection failed (メールサーバが接続できませんでした。)

このメッセージはSMTP サーバがタイムアウトし、30 秒間以内に応答しなかったことを表します。SMTPサーバが正しく動作しているかを確認します。

4. Send email error (電子メール送信エラー):xxx.

このメッセージは不明な電子メールエラーを表します。エラーコードをメモし、メールサーバなどのシステム管理者に問い合わせてください。

5. Cannot create socket resource.(ソケット資源を作成できません)

このメッセージは、電子メールを送信するだけの資源がないことを表します。サーバを再起動して障害を解消してください。

クライアント PC から本製品にアクセスできない

Windows/Macintosh/Linux クライアントがサーバにアクセスできない場合は、以下を確認してください。

1. クライアント PC に正しく IP アドレスが設定されているかを確認します。
2. ストレージマネージャの「ネットワーク設定」が正しく設定されているかを確認します。
3. 本製品を Windows ドメインに加えてある場合は、Windows PDC が正しく動作しており、本製品のアカウントが依然としてその PDC 上に存在することを確認してください。NAS サーバのアカウントを PDC 上に作り直し、サーバをストレージマネージャの Windows ドメインに追加してみます。また、NAS サーバにアクセスできなかったクライアントが Windows の同じドメインに正しくログオンしているかも確認してください。
4. 本製品を UNIX NIS ドメインに加えてある場合は、UNIX NIS サーバが正しく機能しているかを確認します。
5. 本製品と同じ IP またはサーバ名を使用しているホストがネットワーク上に存在しないかを確認します。存在する場合は、競合しないように IP アドレスとサーバ名を変更してください。
6. LogitecNAS では、同時にネットワークにログオンできるクライアントは最大 2048 です。しばらく待ってから再度接続を試みる必要がある場合があります。
7. Windows 2000 クライアントが不意にアクセス権限フォルダにアクセスできなくなった場合は、NAS サーバにログインする際にサーバから一度ログアウトし、再度ログインし直してみてください。
8. 上記の設定がすべて正しい場合は、NAS サーバを再起動してください。

ローカルユーザーがストレージマネージャにアクセスできない

ローカルマシンに設定したユーザーのアカウントがストレージマネージャに接続できない原因として以下のものが考えられます。

1. 元々ユーザーのアカウントがWindows PDC アカウントだった。ローカルアカウントに追加するときにパスワードを設定しなかった。
2. ストレージマネージャで使用している言語とクライアントが使用している言語とが異なる場合は、ストレージマネージャ使用時にクライアントがランダムコードを読み込んでいる可能性があります。
ストレージマネージャに設定されている言語をリセットして、クライアントから読めるようにする必要があります（「設定について」の「ステップ3：NASサーバの詳しい設定」内の「言語の設定」をご参照ください）。

本製品に保存されているデータをバックアップ/ リストアできない

本製品へのデータバックアップ/リストアが失敗すると、「設定について」の「ステップ3：NASサーバの詳しい設定」内「エラー通知用メールアドレス設定」で設定したあて先に電子メールが到着します。エラーコードによってデータバックアップ/リストアの失敗内容がわかります。ストレージマネージャの「システムログ」タブでログファイルに記録されているエラーコードを検索することもできます。電子メールで通知されるエラーコードの説明を以下に記します。

エラーコード1

システムエラーが起きました。

本製品の再起動を試みます。再起動できない場合は弊社テクニカルサポートに問い合わせください。

エラーコード2

データのリストア中はWindows ドメインに統合できません。バックアップ中に本製品をWindows ドメインに統合すると、Windows のドメイン情報も同時にバックアップされます。

Windows のドメイン情報は、本製品へのデータリストアと同時に、後でリストアできます。

リストア中にWindows のドメインが存在しない場合は、ドメインが断路しているか、またはPDC がダウンし始めているおそれがあります。その場合はWindows のドメイン情報を正しくリストアできません。

エラーコード 3

データのリストア時にすでに NAS が別の Windows ドメインに統合されていました。そのため、元の Windows ドメインに再統合する際にエラーが起きることになります。バックアップ中に NAS サーバを Windows ドメインに統合すると、Windows のドメイン情報も同時にバックアップされます。Windows のドメイン情報は、NAS へのデータリストアと同時に、後でリストアできます。データリストア時に NAS サーバがすでに別の Windows ドメインに統合されていた場合は、元の Windows ドメインに再統合することができません。

エラーコード 4

NAS の記憶領域がデータ復元に不十分です。ファイルのリストアを中止しました。

エラーコード 5

データのバックアップまたはリストア中にネットワークが突然切断されたか、または、ユーザーが [キャンセル] をクリックしたため処理を停止しました。

Macintosh クライアントで本製品が見つからない。

以下の事項を確認してください。

1. 本製品の電源が入っていて、LAN に接続されていることを確認します。
2. Macintosh クライアントが他の AppleTalk サーバに接続できるかを確認します。接続できない場合、この Macintosh クライアントのネットワーク設定が正しくない可能性があります。
3. 管理者 (root) が、「ネットワーク設定」 - 「アップルネットワーク」内の Apple Talk または TCP/IP プロトコル上で Apple ネットワーキング接続を有効にしていることを確認します。

Macintosh クライアント経由で、本製品上にある特定の共有フォルダのファイルにアクセスできない

1. 本製品にそのような共有フォルダがあるか確認します。
2. フォルダ名ファイル名に 31 文字を越える文字列を使用していないか確認します。
3. 管理者(root)が、AppleTalk または TCP/IP プロトコル上で Apple ネットワーキング接続を有効にしていることを確認します。
4. このアカウントが、共有フォルダに対するアクセス権があるか確認します。
5. ユーザーが guest としてログインする場合に、システムアドミニストレータが guest アカウントにパスワードを設定していないことを確認します。
6. 本製品と同じ IP またはサーバ名を使用しているホストがネットワーク上に存在しないかを確認します。存在する場合は、極力早期に状態を正します。
7. 本製品では、同時にネットワークにログオンできるクライアントは最大 2048 です。しばらく待ってから再度接続を試みる必要がある場合があります。
8. 上記の設定がすべて正しい場合は、NAS サーバを再起動してください。

Windows クライアントがNAS サーバに直接保存したファイルを Macintosh クライアントが実行できない

Macintosh クライアントおよび Windows クライアントは同じフォルダを共有できます。しかし、Macintosh のシステムおよび Windows のシステムは異なる方法でファイルの関連を処理するため、pdf や html などの Macintosh システムおよび Windows システムの両方がサポートするファイルへのアクセスは制限されることがあります。

たとえば、Windows クライアントが html ファイルを NAS サーバに保存する場合、Macintosh クライアントは、ウェブブラウザを自動的に起動させてファイルを開くためにこのファイルをサーバ上でダブルクリックすることができません。Windows システムが「関連するファイルの種類」を保存する方法が Macintosh システムの方法と異なっているため、Macintosh システムは、Windows システムで作成された html ファイルをどのプログラムで開くことができるか判断できません。2 つの解決方法があります。

1. このファイルの関連を Macintosh クライアント上で設定し直します。
2. Macintosh クライアントでそのファイルを実行するために使用するプログラムを最初に起動します。この場合、Internet Explorer を起動し、次にそのブラウザでファイルを開きます。もう一つの方法として、新規ファイルを Macintosh の形式で保存するために、[別名で保存]を使用してそのファイルを Macintosh クライアントで保存します。ファイルを開く場合は、それをダブルクリックします。

Macintosh クライアントが NAS サーバに保存したファイルを Windows クライアントが直接開くことができない場合にも同じ方法で解決することができます。

Macintosh クライアントが 4GB を超える単一ファイルを NAS サーバに保存できない。

これは Macintosh クライアントのシステムの制限によるためです。
「付録 6 : 設定制限表」を参照

Macintosh クライアントが NAS サーバに保存したファイルを Windows クライアントが削除できない

Macintosh システムでは、ファイル名の最後の桁をスペースにすることができますが、Windows システムではこの形式を使用することはできません。したがって、Macintosh クライアントがこの形式のファイルを NAS サーバ上に保存する場合、Windows クライアントはそれを認識できないためファイルを削除することができません。NAS サーバ上で Windows クライアントとファイルを共有する必要がある場合、Macintosh ユーザーはファイル名の最後をスペースとして保存しないようにすることをお勧めします。

機種依存文字って何？

機種依存文字とは、OS により異なる文字コードを持った文字のことです。したがって、異なる OS でファイルを共有する際には機種依存文字に気をつけなければなりません。ファイル名に機種依存文字を使用しないようにしてください。

< 機種依存文字の例 >

株 など

ネットワーク環境設定を変更したら NAS サーバに 接続できない

ネットワークの環境設定を修正し(サーバアドレス、ドメイン、DNS データ、等を含みます) ネットワーク設定を再度確認し、必要に応じて変更します。ブラウザを閉じ、ストレージマネージャ に再度接続を試みてください。

複数の NAS サーバがネットワーク上に存在する ときに、同じサーバ名前を設定すると NAS サーバが 見えない

それぞれの NAS サーバ名を重複しない別の名前に変更してください。

電子メール通知が到着しない

サーバから電子メールで通知されない場合は、ストレージマネージャで「サーバ情報」「システムログ」へ移動し、ログに記録されているメッセージを確認します。電子メール通知の未配達に関するエラーメッセージを以下に示します。

1. Cannot resolve the host address (ホストのアドレスを解明できません):xxxxxx, errcode:xxx.

このメッセージは、SMTP サーバの名前としてつけられた名前を DNS サーバが確認できなかったことを表します。以下の原因が考えられます。

DNS データエラー
DNS サーバの障害
SMTP サーバの間違い

上記のオプションを確認し、再度試みてください。

2. Cannot connect to host (ホストに接続できません):xxxxxx (xxx.xxx.xxx.xxx).

このメッセージは、SMTP サーバに接続できなかったことを表します。以下の原因が考えられます。

ネットワーク接続が切れた。ネットワーク接続を確認し、再度試みます。

SMTP サーバが使用不能。サーバが正しく動作しているかを確認します。

SMTP サーバがメッセージを拒絶した。SMTP サーバがジャンクメッセージを区別していないことを確認します。システム管理者に問い合わせるか、または他のSMTPサーバを使用してみます。

3. Mail server connection failed (メールサーバが接続できませんでした。)

このメッセージはSMTP サーバがタイムアウトし、30 秒間以内に応答しなかったことを表します。SMTP サーバが正しく動作しているかを確認します。

4. Send email error (電子メール送信エラー):xxx.

このメッセージは不明な電子メールエラーを表します。エラーコードをメモし、システム管理者に問い合わせます。

5. Cannot create socket resource.(ソケット資源を作成できません)

このメッセージは、電子メールを送信するだけの資源がないことを表します。本製品を再起動して障害を解消してください。

付録 3 : 電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%の温度が標準に復帰しました	お知らせ サーバ%HOSTNAME%の温度が標準に復帰しました。 以下のサイトの[ツールキット-->LED管理]でLEDをリセットしてください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%の温度が上昇しています	お知らせ サーバ%HOSTNAME%の温度が上昇しています。 CPU ファンが正常に作動していないおそれがあります。 ただちにサーバを調べ、必要に応じて電源を落としてください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%が過熱しています	お知らせ サーバ%HOSTNAME%が極度に高熱です。 CPU ファンが正常に作動していないおそれがあります。 ただちにサーバを調べ、必要に応じて電源を落としてください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の温度が臨界に達しました	お知らせ サーバ%HOSTNAME%の温度が臨界点に達したため、自動的にシャットダウンします。 標準温度に復帰したら、サーバを再起動し、原因を調べてください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%に交流電源障害があり、UPSで稼働しています。システムをシャットダウンします	お知らせ 交流電源障害のため、一時的にUPSから電源を供給しています。 開いているファイルをすべて保存し、%HOSTNAME%をシャットダウンしてください。 電源が復旧するまでお待ちになってからサーバを再起動してください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%でメモリエラーが起きました	お知らせ サーバ%HOSTNAME%でメモリエラーが起きました。 メモリチップに不具合があるおそれがあります。 ただちに修理してください。 以上 %COMPANY_NAME%

付録3：電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%でメモリエラーが 起きました	お知らせ %HOSTNAME%でメモリエラーが起きました。 メモリチップに不具合があるおそれがあります。 ただちに修理してください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のシステムファンが故 障しました	お知らせ %HOSTNAME%のシステムファンが故障しました。 できる限り速やかにシステムファンを交換してください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のファンクションが故障 しました。	お知らせ %HOSTNAME%のファンが故障しました。 できる限り速やかにファン%NUM%を交換してください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のファン%NUM%が標準 の動作状態になりました	お知らせ %HOSTNAME%のファン%NUM%が標準の動作状態になりました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の電源%NUM%が故障し ました	お知らせ %HOSTNAME%の電源%NUM%が故障しました。 できる限り速やかに電源%NUM%を交換してください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	バッテリー%NUM%が取り外されました	お知らせ %HOSTNAME%のバッテリー%NUM%が取り外されました。 確認し、新しいバッテリーをケースに入れてください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のバッテリー%NUM%が故 障しました。	お知らせ %HOSTNAME%のバッテリーが故障しました。 できる限り速やかにバッテリー%NUM%を交換してください。 以上 %COMPANY_NAME%

付録 3 : 電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%のディスクケージ%NUM%が標準の温度に復帰しました	お知らせ サーバ%HOSTNAME%のディスクケージ%NUM%が標準の温度に復帰しました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%のディスクケージ%NUM%が過熱しています	お知らせ サーバ%HOSTNAME%のディスクケージ%NUM%が極度に高温です。ディスクファンが正常に作動していないおそれがあります。ただちにサーバを調べ、必要に応じて電源を落としてください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のバッテリー%NUM%が標準の動作状態になりました	お知らせ %HOSTNAME%のバッテリー%NUM%が標準の動作状態になりました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のシステムファン%NUM%が標準の動作状態になりました。	お知らせ %HOSTNAME%のシステムファン%NUM%が標準の動作状態になりました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	バッテリー%NUM%がケースに入りました	お知らせ %HOSTNAME%のバッテリー%NUM%がケースに入りました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の電源%NUM%が回復しました。	お知らせ %HOSTNAME%の電源%NUM%が回復しました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のLANカード%NUM%がオフラインです。	お知らせ LANカード%NUM%がオフラインです。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のLANカード%NUM%がオンラインです。	お知らせ LANカード%NUM%がオンラインです。 以上 %COMPANY_NAME%

付録 3 : 電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	%HOSTNAME%のローカルUPS設定が完了していません	お知らせ [UPS管理]ページの設定が完了していません。 設定が完了しないとUPSモニタデーモンが動作しません。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%がローカルUPSを検出できません	お知らせ UPSモニタデーモンがローカルUPSを検出できません。 以下の原因が考えられます。 1. シリアルケーブルのゆるみ。 2. シリアルケーブルの種類が間違っている。 3. UPSモニタデーモンがご使用のUPSタイプを認識できない。 UPSのモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS管理]ページで再起動します。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%がローカルUPS電源の異常状態を検出しました	お知らせ UPSモニタデーモンがローカルUPS電源の異常状態を検出しました。 ローカルUPSの交流電源が消失し、バッテリー電源で動作している可能性があります。 UPSのモニタデーモンを動作させるには、障害を解消し、[UPS管理]ページで再起動します。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%がローカルUPSの異常状態を検出しました	お知らせ UPSモニタデーモンがローカルUPSの不明な異常状態を検出しました。 障害を解消し、[UPS管理]ページでUPSモニタデーモンを再起動してください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のリモートUPS設定が完了していません	お知らせ [UPS管理]ページの[UPSバッテリステータス]が完了していません。 設定が完了しないとUPSモニタデーモンが動作しません。 以上 %COMPANY_NAME%

付録3：電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	%HOSTNAME%がリモートUPSを検出できません	お知らせ UPSモニターモジュールがリモートUPSを検出できません。 以下の原因が考えられます。 1. リモートUPSのIPアドレスに間違いがある。 2. リモートUPSへのアクセス権限が許可されていないCommunityが設定された。 3. リモートUPSのエンタープライズOIDに間違いがある。 4. リモートUPSがSNMPに対応していない。 UPSのモニターモジュールを動作させるには、障害を解消し、[UPS管理] ページで再起動します。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%がリモートUPS電源の異常状態を検出しました	お知らせ UPSモニターモジュールがリモートUPS電源の異常状態を検出しました。 リモートUPSの交流電源が消失し、バッテリー電源で動作している可能性があります。 UPSのモニターモジュールを動作させるには、障害を解消し、[UPS管理] ページで再起動します。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のリモートUPS設定に間違いがあります	お知らせ [UPS管理] ページで設定された[ステータスOID]をリモートUPSが認識できません。 以下の原因が考えられます。 1. [ステータスOID]設定に間違いがある。 2. リモートUPSがSNMPに対応していない。 UPSのモニターモジュールを動作させるには、障害を解消し、[UPS管理] ページで再起動します。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%がリモートUPSの異常状態を検出しました	お知らせ UPSモニターモジュールがローカルUPSの不明な異常状態を検出しました。 障害を解消し、[UPS管理] ページでUPSモニターモジュールを再起動してください。 以上 %COMPANY_NAME%

付録3：電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%がシャットダウンしました	お知らせ 交流電源障害またはローカル/リモートUPSのバッテリー放電のため、このメール送付直後にサーバ%HOSTNAME%がシャットダウンしました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%がUPSの臨界イベントを受信しました	お知らせ サーバ%HOSTNAME%がUPSの臨界イベントを受信しました。 (%TRAPID%) [ツールキット/UPS管理]で指定された時間経過後にシステムをシャットダウンします。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%がUPS通知イベントを受信しました	お知らせ サーバ%HOSTNAME%がUPS通知イベントを受信しました。 (%TRAPID%) シャットダウン手順がキャンセルされました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%がUPSの環境設定を読み取れませんでした	お知らせ UPSデーモンを起動しようとしたが、サーバ%HOSTNAME%がUPSの環境設定を読み取れませんでした。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%がリモートUPSに接続できませんでした	お知らせ UPSデーモンを起動しようとしたが、サーバ%HOSTNAME%をリモートUPSに接続できませんでした。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%がシャットダウンしました	お知らせ 交流電源障害またはローカルUPSのバッテリー放電のため、このメールの送付直後にサーバ%HOSTNAME%がシャットダウンしました。 以上 %COMPANY_NAME%

付録 3 : 電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	%HOSTNAME%に電源障害があり、UPSで稼働しています。シャットダウンします。	お知らせ 交流電源障害により、一時的にUPSから電源を供給しています。 [ツールキット/UPS管理]の指定時間内に交流電源が復旧しない場合は、サーバ%HOSTNAME%をシャットダウンします。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%の交流電源が復旧しました	お知らせ サーバ%HOSTNAME%の交流電源が復旧しました。シャットダウン手順がキャンセルされました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%のローカルUPSバッテリーが消耗しました	お知らせ ローカル UPS のバッテリーがなくなります。ただちにサーバ%HOSTNAME%をシャットダウンします。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	サーバ%HOSTNAME%のローカルUPSが過負荷です	お知らせ サーバ%HOSTNAME%のローカルUPSが過負荷です。この状態が解消しない場合は、[ツールキット/UPS管理]で指定した時間が経過した時点でサーバ %HOSTNAME%をシャットダウンします。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	AC 電源が復旧しました。サーバ %HOSTNAME% 上の UPS が自動的に起動されました。	お知らせ AC 電源が復旧しました。サーバ %HOSTNAME% 上の UPS が自動的に起動されました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	UPS warning! The server %HOSTNAME% won't shut down automatically.	Dear user, The UPS monitor daemon detects abnormal status on the UPS when booting. The server %HOSTNAME% won't shut down automatically. It's recommended to re-configure the UPS settings on [Toolkit/UPS Management] after the UPS becomes normal or manually shutdown the server immediately. Sincerely, %COMPANY_NAME%

付録 3 : 電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	%HOSTNAME%で新たにディスク%DISK_ID%を検出しました	お知らせ %HOSTNAME%で新たにディスク%DISK_ID%を検出し、システムに追加しました。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%DISK_ID%を追加しました	お知らせ %HOSTNAME%の%DISK_ID%を追加しました 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%に%DISK_ID%を追加できませんでした	お知らせ %HOSTNAME%に%DISK_ID%を追加できませんでした。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%DISK_ID%を初期化していません	お知らせ %HOSTNAME%の%DISK_ID%を初期化していません。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%DISK_ID%を取り外しました	お知らせ %HOSTNAME%の%DISK_ID%を取り外しました。 ディスクを確認し、新しいディスクと交換してください。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%

付録 3 : 電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	%HOSTNAME%の%DISK_ID%を再構築 しています	お知らせ %HOSTNAME%の%DISK_ID%を再構築しています。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してくだ さい。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%DISK_ID%を再構築 しました。	お知らせ %HOSTNAME%の%DISK_ID%を再構築しました。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してくだ さい。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%DISK_ID%を再構築 できませんでした	お知らせ %HOSTNAME%の%DISK_ID%を再構築できませんでした。 以下のサイトの[サーバ情報]でシステムステータスを確認してくだ さい。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%DISK_ID%に不具合 があります	お知らせ %HOSTNAME%の%DISK_ID%に不具合があります。 トラブルの原因を調べ、ディスクを交換してください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%DISK_ID%で I/O エラーが発生しましたが、システムによ る再試行が成功しました。	お知らせ %HOSTNAME%の%DISK_ID%で I/O エラーが発生しましたが、シ ステムによる再試行が成功しました。 この状態が続く場合は、速やかに原因を見つけるか、またはハードディ スクを交換してください。 今後ともごひいきのほどよろしくお願いいたします。 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%DISK_ID%で I/O エラーが発生しました。	お知らせ %HOSTNAME%の%DISK_ID%で I/O エラーが発生しました。おそら く、ディスク上に不良セクタがあります。できる限り速やかにハード ディスクファンを交換してください。 以下のリンクのサーバ上でシステムステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%

付録3：電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	Initialization of disk %DISK_ID% on %HOSTNAME% has failed.	Dear user, The initialization of disk %DISK_ID% on %HOSTNAME% has failed. It could result from a damaged disk or an empty tray. Sincerely, %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のボリューム%VERSION%の空き容量が限界に達します	お知らせ %HOSTNAME%のボリューム%VERSION%の空き容量が限界に達します。 不要なファイルを削除するか、または空き容量を増やしてください。 ボリューム1に少なくとも10MBの空き容量がないとシステムの動作に支障がでます。 ボリューム%VERSION%の総空き容量：%DISK_SIZE%ギガバイト 残り容量：%FREE_SPACE%ギガバイト(%USAGE%) 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	新しく追加された %HOSTNAME% 上の %DISK_ID% 番のハードディスクでは、空き容量が不足しています。	お知らせ 新しく追加された %HOSTNAME% 上の %DISK_ID% 番のハードディスクでは、同じメディアの削除されたハードディスクが使用していた容量を置換するための空き容量が不足しています。このため、RAID1、RAID5、RAID5 + スpareボリュームを対象とした自動データ構築が機能しないおそれがあります。問題が起こった場合、以下のリンクから「ボリューム管理」にアクセスし、リペアオプションを設定してデータを再構築してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME% 上のディスク %DISK_ID% に不良セクタがあります。	お知らせ %HOSTNAME% 上のディスク %DISK_ID% に不良セクタがあります。 適切なタイミングで、ディスクを交換してください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME% 上の %DISK_ID% のシステムドライブには不良セクタがあります。	お知らせ %HOSTNAME% 上の %DISK_ID% のシステムドライブには不良セクタがあります。 システムは適切に動作しないことがあります。 適切なタイミングで、ディスクを交換してください。 以上 %COMPANY_NAME%

付録 3 : 電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	%HOSTNAME%のボリューム%VOL_ID%がRAID構築を完了できません	お知らせ %HOSTNAME%のボリューム%VOL_ID%がRAID構築を完了できません。 次のサイトで[サーバ情報->システムログ->NAS Managerログ]と[ボリューム管理]によってボリュームのステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%VOL_ID%がクラッシュしました。	お知らせ %HOSTNAME%の %VOL_ID% がクラッシュしました。クラッシュしたボリュームにホーム フォルダがあった場合、フォルダ内のすべてのデータが削除されました。ただし、ホーム フォルダは、次に使用可能なボリュームへ自動的に移動されます。使用可能なボリュームがない場合、ユーザーのホーム フォルダはなくなり、ユーザーグループがユーザー (users) からゲスト (guests) へ自動的に設定されます。 次のサイトの [ボリューム管理] ボリューム ステータスを確認してください。%HTTP_URL%または、[ホーム設定] を使用してユーザーのホーム フォルダ ステータスを確認します。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%VOL_ID%がクラッシュしました。	お知らせ %HOSTNAME%の%VOL_ID%が劣化しました。 次のサイトの[ボリューム管理]でボリュームステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%VOL_ID%を再構築しています	お知らせ %HOSTNAME%の%VOL_ID%を再構築しています。 次のサイトの[ボリューム管理]でボリュームステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%のボリューム%VOL_ID%が標準の動作状態になりました	お知らせ %HOSTNAME%のボリューム%VOL_ID%が標準の動作状態になりました。 次のサイトの[ボリューム管理]でボリュームステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%

付録 3 : 電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	%HOSTNAME% 上の %VOL_ID% ボリュームのスペア スペースをオンラインにしました。	お知らせ %HOSTNAME% 上の %VOL_ID% ボリュームの一部が損傷しているため、%VOL_ID% ボリュームのスペア スペースをオンラインにしました。 次のサイトの [ボリューム管理] ボリューム ステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の%VOL_ID%がクラッシュしました	お知らせ %HOSTNAME% のボリューム%VOL_ID% でRAID作成が失敗しました。 ディスク故障かホットスワップが原因です。 ボリュームのステータスが「クラッシュ」に設定されました。 次のサイトの[ボリューム管理]でボリュームステータスを確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME% のボリューム %VOL_ID% を修復する必要があります。	お知らせ パリティの構築が不完全であるため、ボリューム %VOL_ID% には不適切なパリティが含まれているおそれがあります。 システムの安定性を確保するには、このボリューム上のサービスすべてを中断してください。
システム管理者	ボリューム %VOL_ID% に対するファイルシステム チェックが完了しました。	お知らせ %HOSTNAME% 上のボリューム %VOL_ID% に対するファイルシステム チェックが完了しました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	ボリューム %VOL_ID% に対するファイルシステム チェックが失敗しました。	お知らせ %HOSTNAME% 上のボリューム %VOL_ID% に対するファイルシステム チェックが失敗しました。 以上 %COMPANY_NAME%

付録 3 : 電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	%HOSTNAME% のボリューム %VOL_ID% の再作成に成功しました。	お知らせ %HOSTNAME% のボリューム %VOL_ID% の再作成に成功しました。 このボリュームにもともとあったユーザーのホーム フォルダも再作成 されました。次のサイトの [ボリューム管理] ボリューム ステータスを 確認してください。 %HTTP_URL% 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME% からテストメッセージの 着信	お知らせ %HOSTNAME% からお送りするテストメッセージです。 ご使用のブラウザで %HTTP_URL% に接続し、他の環境設定をお続け ください。 アカウント名は以下をご利用ください。'root' 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME% の電源が切れています	お知らせ %HOSTNAME% の電源が切れています。 確認し、必要に応じて電源を入れてください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME% の IP リセットが完了しま した	お知らせ %HOSTNAME% の IP アドレスリセットが成功しました。 %HOSTNAME% の IP アドレスを設定できます。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%USER_NAME% に発信したメールが未 着です	お知らせ ユーザー %USER_NAME% へのメールが未着です。 ユーザーの電子メールアドレスを確認してください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME% がシステムを更新してい ます。アクセスを一時拒絶します。	お知らせ %HOSTNAME% がシステムファイルを更新中です。 10 分ほどで完了します。 更新中は、サーバへのアクセスを一時停止します。 よろしくお願いたします。 以上 %COMPANY_NAME%

付録 3 : 電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	%HOSTNAME%の更新完了	お知らせ %DATE%日%TIME%時に%HOSTNAME%がシステム更新に成功しました。 サーバが正常動作を回復しました。 最新バージョンのオペレーティングシステムは%MODEL% %VERSION%です。 よろしくお願いたします。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%の更新失敗	お知らせ %HOSTNAME%の更新の試みが失敗しました。 以下のどれか1つが原因として考えられます。 1. 無効な更新ファイルが指定されたか、またはファイルが破損している。 2. 現在の更新ファイルより古いファイルが指定された。 3. 複数のディスクが更新に失敗した。 確認し、再度試みてください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%サーバのバックアップエラー。エラーコード%ERROR_CODE%。	お知らせ バックアップ中にエラーが起きました。 ただちにバックアップファイルを削除してください。 エラーコードは%ERROR_CODE%です。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%サーバのバックアップが成功しました	お知らせ バックアップ処理が成功しました。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%サーバの復元エラー。エラーコード%ERROR_CODE%。	お知らせ 復元処理が失敗しました。エラーコードをご確認ください。 エラーコードは%ERROR_CODE%です。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%サーバの復元が成功しました	お知らせ 復元処理が成功しました。 以上 %COMPANY_NAME%

付録 3 : 電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
システム管理者	コンピュータをブートし、バックアップメソッドを有効にしてください。	お知らせ バックアップが正しく動作しています。コンピュータをブートし、バックアップメソッドを有効にしてください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	コンピュータをブートし、バックアップメソッドを無効にしてください。	お知らせ バックアップが故障したため、コンピュータをブートし、バックアップメソッドを無効にしてください。 以上 %COMPANY_NAME%
システム管理者	%HOSTNAME%: 試用版の有効期限が切れました	お知らせ 試用版の有効期限が切れました。 すべての共有フォルダを一時ロックします。 正式版にグレードアップしてください。 以上 %COMPANY_NAME%
一般ユーザー	ようこそ、サーバ%HOSTNAME%の%USER_NAME%	%USER_NAME%様、 ようこそ、%HOSTNAME%へ! Network Neighborhood で %%HOSTNAME% にアクセスするか、またはご使用のブラウザで %HTTP_URL% へ移動して個人プロフィールを修正してください。 ご使用のアカウント '%USER_NAME%' 氏名: '%FULL_NAME%' パスワード: '%PASSWD%' 各ボリュームのディスククォータ: %QUOTA% 以上 %COMPANY_NAME%
一般ユーザー	%HOSTNAME%の%OLD_USER_NAME%のプロファイルが修正されました。	%OLD_USER_NAME%様、 %HOSTNAME%の個人プロフィールを以下のように修正いたしました。 ご使用のアカウント '%USER_NAME%' 氏名: '%FULL_NAME%' パスワード: '%PASSWD%' 以上 %COMPANY_NAME%

付録3：電子メール通知一覧

受信者	Subject	電子メールの内容
一般ユーザー	%OLD_HOSTNAME%をリネームしました	%USER_NAME%様、 %OLD_HOSTNAME%と称していたサーバを%HOSTNAME%にリネームしました。 Network Neighborhoodで¥%HOSTNAME%にアクセスしてください。 パーソナルプロファイルを変更したいときは、ご使用のブラウザで%HTTP_URL%へ移動します。 以上 %COMPANY_NAME%
一般ユーザー	%HOSTNAME%のIPアドレスを変更しました	%USER_NAME%様、 %HOSTNAME%のIPアドレスを以下のように変更しました: %IP_ADDR%。 パーソナルプロファイルを変更したいときは、ご使用のブラウザで%HTTP_URL%へ移動します。 以上 %COMPANY_NAME%
一般ユーザー	%HOSTNAME%の%USER_NAME%のディスクオータが限界に達します	%USER_NAME%様、 %HOSTNAME%のディスクオータが限界に達します。 不要なデータを削除するか、またはシステム管理者に相談し、ディスクオータを増やしてください。 以下のようにしてディスクを割り当てます。 %DISK_SIZE% 使用可能なディスクオータ %FREE_SPACE% (%USAGE%%) 以上 %COMPANY_NAME%
一般ユーザー	%DELAYTIME%分間が経過すると%HOSTNAME%が%ACTION%になります	%USER_NAME%様 %DELAYTIME%分間が経過するとサーバの%HOSTNAME%が%ACTION%になります。作業中の現在のジョブをただちに保存して下さい。 以上 %COMPANY_NAME%

付録 4 : 本製品のデフォルト値

サーバのプロパティ		
サーバ名	LogitecNAS	
サーバ日付/時刻	日本標準時間	
サーバ障害通知	未設定	
使用言語	日本語	
コードページ	Japanese SJIS(Code Page 932)	
システム管理者パスワード	password	
ネットワーク設定		
TCP/IP	DHCPサーバからTCP/IP設定を取得	オン
Microsoft Networking	Windowsネットワークを有効にする	オン
	ワークグループとドメインの設定	ワークグループをオン
Apple Networking	TCP/IP接続を有効にする	オン
	AppleTalk接続を有効にする	オン
UNIX NFS	NFSネットワークを有効にする	オン

付録 4 : 本製品のデフォルト値

セキュリティ設定		
ユーザー	root	定義済み管理ユーザ;ADMINS グループのメンバー;パスワード指定なし。rootのデフォルトディスクの割当は無制限。
	guest	パスワード指定なし。認証失敗したすべてのユーザーにデフォルトIDを規定。(この機能を無効にするには、パスワードを指定。)guestのデフォルトディスクの割当は無制限。
新たに作成したアカウントのデフォルト設定	デフォルトグループ	users
	デフォルトディスク割当	無制限
最大アカウント	付録 6 を参照	
最大同時接続	Windows クライアント (CIFS / SMB) : 各製品のハードウェアマニュアルを参照 UNIX クライアント (NFS) : 各製品のハードウェアマニュアルを参照 Novell クライアント (NCP) : 各製品のハードウェアマニュアルを参照 Apple クライアント (AFP) : 各製品のハードウェアマニュアルを参照	
ユーザーグループ	admins	特殊アクセス権限を持つ定義済みグループ;サーバを環境設定できるのはADMINS メンバーのみ。root はこのグループのデフォルトのメンバーです。
	users	このグループのメンバーには、自分のアカウントにちなんだ名付けられたフォルダおよびその他、アクセス権限を有するフォルダが表示されます。Root はこのグループのデフォルトのメンバーです。
	guests	users グループのメンバーとは異なり、guests には Windows Network Neighborhood のフォルダは表示されません。NASサーバに保存されているパブリックフォルダにアクセスすることができます。guest というアカウントはこのグループのデフォルトのメンバーです。
最大グループ	付録 6 を参照	
SharedFolders	public 1	この共有フォルダは/sharen/public 1 フォルダに存在。LAN 上のすべてのユーザはこの共有フォルダを使用できます。フル書込み読取りアクセス権限を持ちます。
新たに作成したフォルダのデフォルト設定	NFS エクスポート設定	読取り書込み
	everyone に権限	読取り書込み
最大共有フォルダ	付録 6 を参照	
外部ユーザー認証	Microsoft Network ユーザドメインコントローラ認証を有効にする。	オフ
	UNIX NIS ネットワークを有効にする。	オフ

付録 5 : 用語集

A

Apple Talk

Macintoshで通信を行うためのネットワークプロトコル。最近のMacintosh マシンは、この他にTCP/IP による通信も可能となっています。

C

CIFS (SMB) 共有

CIFS は Windows OS と通信を行うためのプロトコルです。これを使用して、Windows パソコンで共有できるネットワーク・ストレージなどを実現するのが「CIFS (SMB) 共有」です。

D

DHCP

ネットワークに接続したクライアントコンピュータに対して、IP アドレスを自動的に割り当てるプロトコルです。また、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバなどの情報も自動的に取得できるため、このプロトコルを使用すると、クライアントコンピュータの設定が非常に容易になります。

DNS (Domain Name System)

クライアントから送られたホスト名を、IPアドレスに変換して返す分散型データベースシステムです。TCP/IP を使用したネットワークでは、他のコンピュータなどをアクセスするためにIPアドレスが必要になりますが、IPアドレスは単なる数字の羅列に過ぎないため人間には非常にわかりにくいという欠点があります。DNSがあれば、この欠点を補って人間にわかりやすいホスト名で他のパソコンにアクセスすることができます。

IP address (IP アドレス)

TCP/IP を使用したネットワーク (例えばインターネット) で、個々のコンピュータを識別するために使用される 32 ビット数値です。通常、「192.168.1.1」のように 8 ビットずつ (10 ~ 255) ピリオドで区切った 4 個の 10 進数で表記します。IP アドレスはコンピュータの識別に使用されるため、同じ IP アドレスを持つコンピュータがネットワーク上に複数存在してはいけません。

M

MAC Address (マックアドレス)

Ethernet などで使用されるネットワークインターフェース固有の識別番号です。48 ビットの数値ですが、通常「00-A1-CD-65-C4-75」のように 8 ビットずつハイフンで区切った 6 個の 16 進数で表記します。

Ethernet ではこの識別番号がネットワークインターフェース製造時に与えられ、これを消去したり、変更することはできません。そのため、ある MAC アドレスを持つネットワークインターフェースは世界中で 1 つしかありません。MAC アドレスがわかれば使用しているネットワークインターフェースが特定されます。

N

NFS (Network File System)

UNIX 系のマシンで使用するファイル共有システムです。NFS に対応したネットワーク・ストレージは、Linux などの UNIX 系 OS を搭載したコンピュータで共有することができます。

NIS (Network Information System)

UNIX 系のマシンでアカウントを管理するシステム。本製品を NIS ドメインに参加させると、ユーザーアカウントなどの情報を参照する事が可能になります。

NIS ドメイン

NIS で管理されたネットワーク内のコンピュータグループ。

NTP (NetWork Time Protocol)

ネットワーク内の時刻調整を特定のサーバに合わせるプロトコル。他のコンピュータはそのサーバを参照して時刻を決定するのでネットワーク内では常に同じ時刻が設定されます。通信の状況等により多少のずれはありえます。

R

root

本製品では、デフォルトでシステムの管理を行うユーザー名にこのアカウントが設定されている。もともとは UNIX 系のシステムで管理を行うユーザーに設定されていました。

S

SMB (CIFS) 共有

Server Message Block の略

Windows OS と通信を行うためのプロトコルでファイルサービスなどを実現します。

SMTP (Simple mail transfer protocol)

E-mail を送信するためのプロトコルです。

SMTP サーバは E-mail を送信するためのサーバとなります。

SNMP (Simple Network Management Protocol)

TCP/IP ネットワークにおいて、コンピュータや、ルータなど、ネットワークに接続された機器を監視・制御するためのプロトコルです。

T

TCP/IP

(Transmission Control Protocol / Internet Protocol) インターネットの標準プロトコルであり、現在最も普及しているプロトコルです。

U

UNIX NIS

NIS の項を参照

W

Windows PDC (Primary Domain Controller)

Windows ドメインに属するコンピュータの各種情報を一元管理するサービスもしくはそのサービスを搭載したサーバ。

WINS (Windows Internet Name Services)

Windows 環境でネットワーク環境内の装置 (パソコンやプリンタなど) を IP アドレスではなくわかりやすい名前へ置き換えるサービス。このサービスを使用すると、端末のコンピュータからはその名前を参照すれば特定の装置へアクセスすることができるようになる。もちろん、端末のコンピュータもわかりやすい名前に設定できる。Windows NT 4.0 以降の Windows 系サーバには WINS サーバ機能がある。

あ行

アクセス権

ファイルやフォルダに対してアクセスするための権利です。アクセス権には、アクセス不可(アクセス拒否)や、読み取り専用(リードオンリー)、無制限(フルアクセス)などのレベルがあります。アクセス権を設定する事により、特定のファイル(フォルダ)に対してアクセス出来ないようにしたり、重要なファイルを書き換えられたり、削除されるのを防ぐ事ができます。

なお、弊社 NAS 製品 (Windows PowerNAS 除く) では共有フォルダのみアクセス権を設定する事ができます。

インターネットプロトコル (IP)

(Internet Protocol) ネットワーク上でのデータ転送のための1つの階層であり、上位に存在するTCPというデータ転送を保存するプロトコルとまとめてTCP/IP といいます。

オートリビルド

RAID 装置で内蔵ドライブに障害が発生した場合、ドライブ交換を行います。交換した新しいドライブに対して自動的にデータを再構築(復旧)してくれる機能がオートリビルドです。

か行

クォータ管理機能

ネットワークストレージに対して、管理者がユーザーごとに本製品の使用容量を決定し、管理することを「クォータ管理」と呼びます。

クォータ管理機能を持つNASサーバを使用すれば、無計画なユーザーがNASサーバの容量をムダ使いすることを防止し、ストレージを有効に使用することができます。

クライアント

ネットワーク上でサービスやデータを受け取るコンピュータを「クライアント」と呼びます。これに対してサービスやデータを提供するコンピュータがサーバです。

「クライアント」はクライアントコンピュータ、クライアントパソコンなどと呼ばれる場合もあります。

ゲートウェイ (Gateway)

ゲートウェイは複数のネットワーク同士の入口/出口です。同一ネットワーク上に存在しないコンピュータにデータを転送するような場合、ゲートウェイ経由でデータは転送されます。

デフォルトゲートウェイは転送先へのルートがわかっていないときに使用されるゲートウェイです。通常、コンピュータにはデフォルトゲートウェイのIPアドレスだけを設定しておけば、あとはそのデフォルトゲートウェイが適切な接続を行います。

さ行

サブネットマスク (subnet mask)

大規模や中規模のLANで、管理を容易にするためにネットワークをさらに細かく分割したものを「サブネット」と呼びます。同一のサブネットに属するパソコンは、同じサブネットアドレス（IPアドレスの一部）を持っていなければなりません。

IPアドレスのうち、どの部分をサブネットアドレスとして使用するかを指定する数値が「サブネットマスク」で、IPアドレスと同じように8ビットの数字（0～255）をピリオドで区切って4つ並べた形（例えば「255.255.255.0」）で表記されます。サブネットアドレスはIPアドレスとサブネットマスクをAND処理することによって求められます。

例えばIPアドレスが「192.168.1.10」でサブネットマスクが「255.255.255.0」の場合、この2つの32ビット値をAND処理して、求められる「192.168.1.0」がサブネットアドレスになります。下表のような3台のパソコンがあった場合、パソコン1とパソコン2は同じサブネットに属していますが、パソコン3は異なるサブネットに属しています。

	パソコン 1	パソコン 2	パソコン 3
IP アドレス	192.168.1.10	192.168.1.15	192.168.2.10
サブ ネット マスク	255.255.255.0		
サブ ネット アドレス	192.168.1.0		192.168.2.0

た行

ドメイン

ネットワーク内のコンピュータグループを「ドメイン」と呼びます。

ドメインはWindows ドメイン、NIS ドメイン等のように管理単位ごとに様々なタイプがあります。

は行

フェイルオーバー (Fail over)

システムや機器の一部が二重化され、片方に障害が発生しても、もう片方が自動的に代替え処理を行うように設計されている場合、このような自動代替え処理を「フェイルオーバー」と呼びます。

例えばLANポートを2個実装したNASで、片方に障害が発生しても、自動的にもう片方のLANポートを経由して正常にアクセスできる機能です。

プロトコル (Protocol)

コンピュータが通信を行う際の手順や決まりごと。

ホットスワップ

複数のドライブを内蔵したRAID装置などで、システムの稼働中のままでもドライブを交換できる機能を「ホットスワップ」と呼びます。

ホットスワップ機能を持ったRAID装置は、1台のドライブに故障が発生しても電源をOFFにする必要がないため、可用性が高くなります。

ら行

ルータ

セグメントが異なる複数のネットワークを接続するための装置です。ルータがあれば、異なるセグメント間でもデータの転送を行うことができます。

付録6：設定制限表

		本製品推奨値	WindowsXP	WindowsMe	Windows98	Windows2000	WindowsNT4.0	MacOS 9	MacOS X	Linux	
サーバー名	最大文字数	半角14文字									
	使用可能文字	英字(大文字小文字の区別なし)、数字、下線、マイナス									
	その他制限事項	先頭を英字にすること									
アカウント名	最大文字数	OSに依存 2	半角20/64文字	半角20文字	半角20文字	半角20/64文字	半角20文字	半角31文字	半角63文字	1	
	使用可能文字	英(大文字小文字区別なし)、数字、ドット、下線、マイナス、全角日本語									
	その他制限事項	全角文字は機種依存文字を使用しないこと									
パスワード	最大文字数	12文字									
	使用可能文字	英字(大文字小文字の区別あり)、数字、記号、スペース									
	その他制限事項	全角文字使用不可、rootのパスワードは省略不可									
コメント	最大文字数	半角128文字									
	使用可能文字	英字(大文字小文字区別あり)、数字、ドット、下線、マイナス、スペース、全角日本語									
	その他制限事項	全角文字は機種依存文字を使用しないこと									
グループ名	最大文字数	半角15文字									
	使用可能文字	英字(大文字小文字の区別なし)、数字、ドット、下線、マイナス、全角日本語									
	その他制限事項	先頭を英字、数字、ドット、下線、全角日本語にすること									
共有フォルダ名	文字数	OSに依存 2	半角15文字	半角12文字	半角12文字	半角15文字	半角12文字	半角15文字	半角15文字	半角15文字	
	使用可能文字	英字(大文字小文字区別なし)、数字、ドット、下線、マイナス、全角日本語								英字(大文字小文字区別なし)、数字、ドット、下線、マイナス	
	その他制限事項										
フォルダ名	文字数	OSに依存 2	フルパスで半角246文字以内				半角31文字		半角255文字		
	使用可能文字	OSに依存 2	英字(大文字小文字区別なし)、数字、一部記号、スペース、全角日本語						英字(大文字小文字区別あり)、数字、下線		
	その他制限事項	OSに依存 2	機種依存文字使用不可、半角記号「¥/,:;*?"<> 」使用不可				機種依存文字使用不可		全角未対応		
ファイル名	文字数	OSに依存 2	フルパスで半角256文字以内				半角31文字		半角255文字		
	使用可能文字	OSに依存 2	英字(大文字小文字区別なし)、数字、一部記号、スペース、全角日本語						英字(大文字小文字区別あり)、数字、下線		
	その他制限事項	OSに依存 2	機種依存文字使用不可、半角記号「¥/,:;*?"<> 」使用不可				機種依存文字使用不可		全角未対応		
1ファイル容量上限	OSに依存 2	1TB未満	500GB	2GB未満	1TB未満	1TB未満	4GB未満	4GB未満	2GB未満		
フォルダ階層数	OSに依存 2	フルパスで256文字以内									
登録可能共有フォルダ数	64フォルダ 3										
登録可能アカウント数	***	2048アカウント 4						30ホスト(NFS共有)			
登録可能グループ数	***	1024グループ 5						---			

1：Linux での共有はアカウント名/パスワードで管理しないので対象外です。 2：複数のOSで共存するときは一番厳しい条件に合わせてください。
3：Public1 フォルダも含む。 4：root、guest アカウントも含む。 5：admins、users、guests グループも含む
：本仕様については予告無く変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

付録7 : LogitecNAS Backup バックアップ項目一覧

		システム情報 のバックアップ	ユーザアカウントと グループのバックアップ	ユーザアカウントと グループ及びデータの バックアップ	システム情報、 ユーザアカウント、 グループ及びデータの バックアップ
基本設定	サーバ名	-	-	-	
	ドメイン名	-	-	-	
	DNSサーバ	-	-	-	
	IPアドレス(LAN1、LAN2)	-	-	-	
	サブネットマスク	-	-	-	
	デフォルトゲートウェイ	-	-	-	
日付設定		-	-	-	
言語設定		-	-	-	
通知設定(電子メールアドレス)		-	-	-	
共有フォルダ設定	-	-	-	-	
ユーザ権限	-	-	-	-	
NFS権限	-	-	-	-	
アカウント設定	-	-	-	-	
グループ設定	-	-	-	-	
ディスク割当の設定	(*1)	(*1)	(*1)	(*1)	(*1)
セキュリティオプション		-	-	-	
Windowsドメイン	Windows ネットワークを有効にする	(*2)			
	ワークグループ	-			
	ドメイン	-			
	NT PDCサーバ名	-			
	WINSサーバ	-			
Unixネットワーク	-				
Apple Networking		-	-	-	
Novel Networking		-	-	-	
インターネットネットワーク		-	-	-	
ホームフォルダ	-				
ホームフォルダ内データ	-				
共有フォルダ	-				
共有フォルダ内データ	-				
リソースフォーク	-				
隠しファイル	-				
書込み禁止属性ファイル	-				
SNMP管理		-	-	-	
UPS管理		-	-	-	

- 1 バックアップできませんので個別に控えておいてください。
- 2 WINSサーバの設定はバックアップできません。

付録 8 : LogitecNAS Backup 復元 (リストア) 項目一覧

基本設定	サーバ名	
	ドメイン名	
	DNSサーバ	
	IPアドレス(LAN1、LAN2)	
	サブネットマスク	
	デフォルトゲートウェイ	
日付設定		
言語設定		
通知設定 (電子メールアドレス)		
共有フォルダ設定		
ユーザ権限		
rootパスワード		
NFS 権限		
アカウント設定		
グループ設定		
ディスク割当の設定		(*1)
セキュリティオプション		
Windowsドメイン	Windows ネットワークを有効に	
	ワークグループ	
	ドメイン	
	NT PDCサーバ名	
	WINSサーバ	(*2)
Unixネットワーク		
Apple Networking		
Novel Networking		
インターネットネットワーク		
すべてのファイルおよびディレクトリ		(*3)
SNMP管理		
UPS管理		

: デフォルトでは選択されておりません、データを復元 (リストア) する際は、チェックを入れてください。

*1 復元 (リストア) できませんので個別に設定してください。

*2 WINS サーバの設定は復元 (リストア) できません。

*3 すべてのファイルおよびディレクトリ はホームフォルダ、ホームフォルダ内データ、共有フォルダ、共有フォルダ内データ、リソースフォーク隠しファイル、書込み禁止属性ファイルを含みます。

ソフトウェアマニュアル LAS-SFB2 V05

2004年 11月改訂

 **ロジテック株式会社**
<http://www.logitec.co.jp/>